

文化学園長野専門学校

研究紀要

第 4 号

2012

文化学園長野専門学校

研究紀要

第 4 号

2012

研究紀要 第4号

目次

<原著論文>

学習者の羞恥心を軽減する“リズムダンス”導入法	-----	島田 左一郎	3
-------------------------	-------	--------	---

保育科学生における色と言葉の結びつき	-----	天田 広一	19
--------------------	-------	-------	----

進路指導とキャリア教育との関連性 ー職業理解のための進路説明会ー	-----	中島 智子	39
-------------------------------------	-------	-------	----

<総説論文>

ー農村における大正デモクラシー (老人からの聞き書きをもとに)	-----	堀込 捷雄	51
------------------------------------	-------	-------	----

ペスタロッチの思想と人間像について	-----	竹前 健治	59
-------------------	-------	-------	----

<報告論文>

保育科学生による創作ミュージカル II ー平成23年度卒業共同研究 エスパーー	-----	下平 正恵 石坂 由美子 倉科 深陽	69
--	-------	--------------------------	----

<研究ノート>

幼児教育現場に役立つ表現活動のための教材紹介	-----	塚田 右子	113
------------------------	-------	-------	-----

学習者の羞恥心を軽減する“リズムダンス”導入法

島田 左一郎

Introduction Methods of Rhythm Dancing for Attenuating Learners' Embarrassment

SHIMADA, Saichiro

キーワード：リズムダンス、羞恥心、楽しさ、導入、自己表現

はじめに

中学校の学習指導要領(2008)にダンスの1・2年生必修化が明示され、学校教育におけるヒップホップなどのストリート系ダンスがマスコミなどを中心に脚光を浴びてきた。映像教材が多数生産、販売され、体育の指導者のための民間資格まで登場した。その資格さえ取得すれば、良い指導者になれるような触れ込みである。学校現場では戸惑ったり、混乱したり様々な反応を示している。これらに加え、学習指導要領にある“リズムダンス”や“現代的なリズムのダンス”の定義が曖昧であり、そこにリズムダンス授業の困難さが加わることで、ますます学校現場の戸惑いや混乱に拍車がかかっている。

ダンス授業の困難さの原因を指導者の側から見ると、指導者自身のダンス経験のなさや、指導経験の乏しさから来る自信のなさがあげられ、一方、学習者の側から見ると、踊り方（運動技術）が難しいということの他に、ダンス特有の、リズムやイメージにのって踊ること（全身運動）を人前にさらけ出す“羞恥心”が大きな要因としてあげられる。これらの問題を解決し、指導経験が浅い指導者も自信を持ち、学習者の羞恥心を和らげるダンスの指導法を確立していくことが喫緊の課題となっている。

1 先行研究の概観

(1) ダンスの特徴をとらえる～ダンスの四分類～

ダンスはカイヨワ¹のプレイの分類論でいうと、ミミクリー（模倣や変身の遊び）²の範疇であり、模倣・変身欲求に基づいて行われる運動であるといえることができる。ダンスが模倣・変身欲求に基づく運動であるとするならば、対象に対して模倣・変身する（できる）のは自分自身である。従ってダンスは、自己表現があってこそその運動であるということになる。形の有る無しにかかわらず「自分自身がリズムにのって、あるいはイメージに変身

¹ ロジェ・カイヨワ（1913-1978）、フランスの社会学者、哲学者。

² ヨハン・ホイジンガの『ホモ・ルーデンス』に影響されて執筆した『遊びと人間』が有名な著書でカイヨワはそこで「遊び」を「アゴーン（競争）」、「アレア（偶然）」、「ミミクリー（模倣・変身）」、「イリックス（目眩）」の4種類に分類・考察している。

して踊る」ことがダンスの基本的なことであり、これがダンスに共通する楽しさ、即ち機能的な特性になる。

これらダンス共通の機能的な特性をふまえながら、さらに種目の特性を明確にするためにダンスの四分類（図1）を引用した。

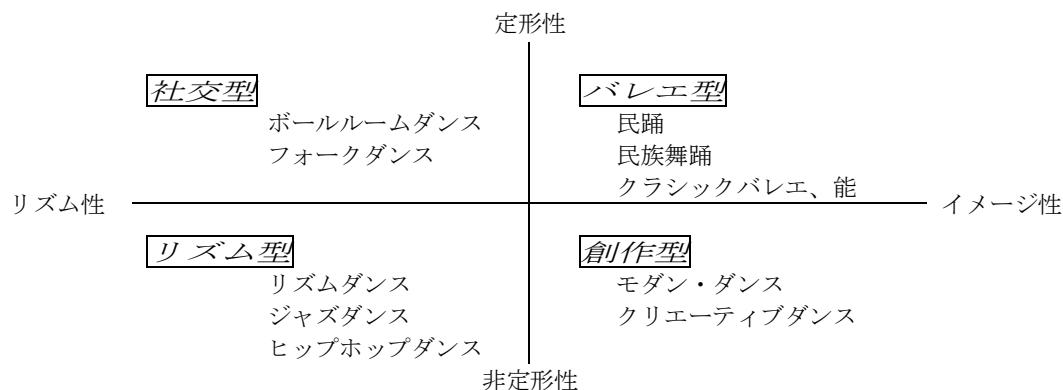


図1 ダンス四分類

<（佐伯他 1983：第28回全体研福岡大会つみかさね）を一部修正>

(2) 領域「リズムダンス」や種目「ユーロビート」の位置づけ

本研究で実践したダンスは、四分類（図1）の中の、「リズム型」ダンスの中から「リズムダンス」を取り上げ、その中から「ユーロビート³」という種目を扱った。しかし、本論文では、「ユーロビート」の種目だけではなく、それを含めた「リズムダンス」領域全般について触れることとする。

「リズムダンス」は四分類（図1）でいうと「リズム性—否定形性」に属する。従って「リズムにのって（一人で⁴）自由に踊って楽しむ」ことが機能的な特性（リズムダンスの楽しさ）になる。このリズムダンスの導入を「運動技術」の観点から見ると、型にとらわれなくてよいことから、簡単な技術で踊れるものである。一方「表現」という観点から見ると、人前で踊ることへの羞恥心が顕著であり、自由に踊ることに対する抵抗となる。

軽快な音楽リズムにのる快感と、簡単な動きで踊れることを重視して、ダンス学習の最初の単位にはこのリズムダンスを取り上げている。最初にどの領域や種目のダンスを持ってくるのが良いか（効果的か）については、別途カリキュラムの研究に委ねることとする。

(3) リズムダンスと羞恥心

特に思春期を過ぎた学習者たちが、非定型性（図1）に位置づけられるダンス学習を初め

³ 四拍子の各拍子にアクセントがある軽快なテンポの曲が多い。従って、拍で刻んでいくことでリズムにのりやすい。日本では初期のディスコでよく用いられた。

⁴ （一人で）とカッコで入れたのは、本来ダンスは自己表現であり、特に単位はじめの段階では、他の人とかかわると仲間による縛りのために自由性が失われやすく、特性に触れるための阻害要因になることが多いから。

て行う場合には、羞恥心はその最大の阻害要因となることは周知のことである。リズムにのったり、イメージに変身したりして自己表現をすることは、それ自体は楽しいことでも、人前に自分をさらけ出すその行為は、経験が乏しかったり、何らかの苦手意識を持っていたりすると、羞恥心に直結する。この羞恥心は、樋口(2004)がいう「かっこ悪さは井上(1977)のいう公恥に、気恥ずかしさは羞恥に、自己不安全感は私恥に対応するもの」の「公恥、羞恥、私恥」のいずれにも該当するものである。

また、授業という共同同時学習における仲間（他人）の目は、ダンスを踊る楽しさ体験がある場合にはその楽しさを助長するが、そうでない場合には楽しさを阻害する大きな要因となる。恥の発生状況として既に明らかにされている「対人緊張状況」(樋口 2004)がこれに該当する。

2 本論文の動機と目的

授業の困難さを軽減するために、リズムダンス導入時の指導法を工夫することで、学習者の羞恥心を和らげる実証研究を継続している(2010 島田・石坂)。導入時に羞恥心を和らげることができれば、他のスポーツ種目と同様に、学習者が、今持っている力でリズムダンスを楽しみながら、自発的な学習を展開していくことが可能であると考えられる。

本論文は、『ダンス領域における“リズムダンス”の位置づけや定義を明確にし、思春期後半にさしかかる学習者たちが、初めて“リズムダンス”の学習をする場面で、その導入において羞恥心を和らげ、より早く“リズムダンス”の楽しさ（機能的特性）を味わうための指導法の研究』で、明らかになってきた成果を整理することを目的とする。

3-1)リズムダンスの指導法では、「技術のポイント」と、「心理的な側面」という2つの視点から記述する。3-2)学習者の満足度アンケート調査では、3年間実践したもののアンケート調査した結果を紹介する。

3-1) リズムダンスの指導法

(1) 今ある力で楽しみながら羞恥心を和らげる段階（導入）での学習の進め方

非定型性に分類される“リズムダンス”の経験の乏しい学習者たちへの指導は、学習者たちが今持っている力でダンスを楽しむためにも、単元のはじめに羞恥心を和らげながら楽しさに結びつける指導が不可欠となる。そのことを無視したり、そのことがうまくいかないまま学習を継続すると、ダンスの形は真似できて運動技術の向上が見られたとしても、リズムにのったり、イメージに変身したりして自由な自己表現の欲求を充足していることにはならない。

島田がダンスの研究を始めた(1980年)頃は、自らがダンスを経験してきた指導者、しかも女性でなければ、ダンスは教えられないという暗黙の了解があった。しかし、体育教師ならば誰もが教えられるダンス指導のあり方を研究し、指導者が自ら踊れ（ら）なくても、また、ステップを知らなくても、学習者たちの羞恥心を和らげ、“リズムダンス”を楽し

ませることが十分に可能であることが立証できたと思っている。

ここでの事例は、導入における学習の進め方を、単元名「リズムダンス－ユーロビート」で実践したものである。授業を展開する場合に注視する視点として、技術のポイント（簡単な「運動技術」で）と、心理的な側面（「羞恥心」を和らげて「表現欲求」を充足するために）の二点がある。（表1）

さらに、前者では①運動の課題 ②踊りの場所についての配慮項目があり、後者に関しては、③向きや方向、④音楽リズムの理解、⑤学習の環境、⑥示範の動き、⑦学習の形態といった配慮項目がある。（表1）

表1 事例：単元名「リズムダンス－ユーロビート」

分類	項目	めあて1	めあて2
簡単な「運動技術」で	①運動の課題	a 歩く－前進 b 歩く方向の変化 c 隣人と違う方向への歩き ※日常的な動き	d 跳ねる e 回る (f 転がる) ・ストップモーション ※徐々に非日常的な動きへ
	②踊りの場所	広い範囲（移動） ・人とぶつからない	狭い範囲（固定） ・自分の場所
「羞恥心」を和らげて「表現欲求」を充足するために	③向きや方向	全員が同一方向 ・仲間（他人）を見ない	各自正面を意識 ・仲間（他人）を意識する時も
	④音楽リズムの理解	手拍子、口拍子、 タンブリン、カスタネット、 リズムボックス	リズムがはっきりした音楽 （手拍子）、（口拍子）
	⑤学習の環境	・十分な明るさや空間 ・VTR撮影や鏡	
	⑥示範の動き	・模倣でしか動けないということがないように、示範は避ける。 →上手な子とそうでない子の差を大きくしない。 →全員ができる動きで。	
	⑦学習の形態	一人一人（自己表現のために個人が中心） ・全体に対する一斉指導 ⇄ 個別指導が中心	

※ めあて1、めあて2は、導入における学習過程。めあて1は導入前半、めあて2は導入後半の意味。

表1内の①～⑦について、具体的な内容、配慮点や注意事項など、以下に説明を加えた。また、指導者の声掛け例を四角に囲んで示した。

①運動の課題

A 日常的な運動課題からの導入

単元ははじめの診断的評価で、学習者たちから、経験がない（乏しい）、自信がない、技術が未熟などの結果が出たら、はじめに指導者が考慮しなければならないことは、誰もが出来そうな運動課題を提示し、学習者が安心して楽しめる活動が出来るようにすることである。

例えば“歩く”という運動は日常的な運動である。ダンスの特有の“非日常的な運動”とは異なるが、導入としては、学習者たちが“簡単にできそうだ”と思えるような日常的な、簡単な運動課題（動作）をもってくることが重要である。

例：（クラス全体に対し一斉指導で）4拍子の拍に合わせて各自で歩きます。人とぶつからないように。

最初から音楽を使うと拍子がとれない学習者がいる場合には、指導者は手拍子や口拍子、またはタンブリンやカスタネットなどで拍子を打ち、歩かせるとよい。実際に実証した授業の導入では、手拍子と音楽を交互に使った。手拍子の時には拍にしっかり合わせることで、音楽の時には、音楽の中から拍を感じ取り、イン・テンポ（正確な拍子）で歩けることを確認した。

例：さあ、先生の手拍子（音楽）に合わせて歩くよ。好きな方に歩いてみよう。

B 簡単な運動課題を非日常的な運動へ

学習者が仲間とぶつかることなく（仲間を避けながら）抵抗なく行進が出来るようになったら、指導者は、前進ではなく、後方、横、斜め方向など、やはり仲間とぶつかることなく歩くように指示を出す。後方に歩いたり、斜めに歩いたりすることは、普通の行進よりもダンス特有の非日常的な動きに近づくことになる。

ここで重要なのは、指導者は方向をいちいち指示するのではなく、全体的な課題（色々な方向に歩く）を与えたら、学習者一人一人の動き（方向）に任せて見守る姿勢をとることである。

例：前に歩くことが出来たから、今度は前以外の方向に歩いてみよう。横でも後ろでも、斜めでもいいよ。ただし4拍子の拍は外さないでね。

C 簡単な運動課題のまま、自己表現に向けて

学習者一人一人が色々な方向に歩けるようになってきたら、指導者は自己表現を意識づけるために、隣近所を歩いている仲間と違った方向に歩くように指示を出す。

例：隣を歩いている人が斜めに歩いていたら、自分は後ろや横など、隣の人とは違うふうに歩いてみよう。

以上のように、指導者は、「学習者自身の意志で、拍にあわせながら周囲の人とは違う方向へ自由に歩かせる」という体験を通すことで、“リズムダンス”の導入をはかる。もちろんこの段階でも、指導者は、うまく出来なかったことが上手にできるようになったら、全体に対して賞賛する⁵ことが重要である。

D より非日常的にするためのワンポイント

指導者は、よりダンス特有の非日常的な動きにするために、手の動きを指示すると

⁵ 特定の上質な学習者だけを賞賛すると、その学習者は注目され、踊る人と見る人の分化が始まる。そうになると学習は停滞する。従って、賞賛は全体に対して行うことが効果的である。詳細は、以下の「⑥示範の動き」の項目参照。

いう方法⁶がある。この手の動きの指示を出す場合にも、具体的に指示するのではなく、学習者たちの工夫の余地を残して指示を出すことが大切である。

例：手を腰よりも上に挙げて動かそう。どんな動きでも良いけれど腰より下には下げないように。

※ この実践研究を始めたばかりの、経験が浅く指導に自信がなかった頃には、少しでも早く、この先の段階（以下のE～F）に用意されている多種類の運動課題⁷の提示に進みたくなった。そのことで何度も失敗を繰り返した。焦って先に進むのではなく、ここまでのことにたっぷり時間をかけ、色々な方法を組み合わせ、拍に合わせて歩くことの楽しさを十分に味わわせることが、その後のダンスにとってとても大切である。

E 運動課題を増やして組み合わせる、掛け合わせる

学習者が自分の意志で方向を決め、自由に歩くことを楽しめるようになったら（場合によっては飽きてきたら）、指導者は2番目の運動技術の“跳ねる”動きを与える。跳ねる動作も、どちらかというとな日常的な運動課題であり、歩くと同様、大部分の学習者たちにとって動作をすることが可能な運動である。

例：今度は、歩くだけでなく、跳ねる動きを加えてみよう。歩いたり跳ねたり（組み合わせる）するんだよ。隣の人と違うことをする、拍を外さない。この2点是一緒だよ。

例：跳ね方にも色々あるね。歩きながら跳ねる（掛け合わせる）なんてこともあるね。周りの人と違う跳ね方をしてみよう。

※ 先にも述べたが、授業者が“一つ一つをじっくりと”というスタンスではなく、次々に運動課題を与えてしまうというスタンスに立つとうまくいかない。同じ方法で経験の浅い指導者に実践して貰った際、事前の打ち合わせで「それはやめよう」と合意したにもかかわらず、矢継ぎ早に運動課題を提示してしまったという例がある。その時の学習者は、次第に動かなくなっていく。指導者に「ますます動かなくなったらどうしよう」という不安が生じると、さらに、次々に運動課題を提示してしまうという傾向が生じる。

はじめの段階では、学習者は、簡単な運動課題で音楽の拍やリズムに合わせ、人真似をせずに自由に楽しめるようになることが大切である。また、まだ心身の解放がうまくできない初期の段階で、突出した技術の高い学習者が出現したり、技術の高い特定の学習者を全体の前で誉めたりすると、他の学習者たちは一斉にそちらを見て動かなくなってしまう（やる気を失って）しまう。指導者は、一人一人（全員）が、簡単な運動課題で楽しんでいることを確認しながら実施することが大切である。

⁶ この手の動きの指示は必要に応じたもので、毎回必ず行ったものではない。

⁷ 進んだ段階での運動課題は、以下の「②“羞恥心”が和らいできた段階での学習の進め方、②グループ学習におけるめあての持ち方」参照。

F さらに運動課題⁷を増やす

学習者全員がA～Eまでを十分に堪能したら（あるいは飽きてきたら）、指導者は“回る”“転がる”などの、これまた多くの学習者が簡単にできそうな運動課題を提示する。そしてEのように、今までやってきた運動課題と「組み合わせ」たり「かけ合わせ」たりして楽しめるようにする。

例：今度は“回る”と“転がる”を同時に入れるよ。今まで行った“歩く”“跳ねる”も入れて、順番に組み合わせで行ったり、“跳ねながら回る”のように掛け合わせて行ってもいいよ。それでは音楽に合わせて、スタート。

転がるという動作は、たいてい学習者たちは声を出しながら喜んで行う動作であるために、緊張が解けないクラスの場合には早めにこの運動課題を与えることがある。ただ、転がる動作は、拍やリズムから外れやすくなるので、注意は促すものの、厳格に指摘をすることは避けてきた。

例：転がったとき、拍やリズムを全く無視しているよ。例えば、1で転がり始めたら、4では立ち上がっているなどのように、拍やリズムを意識して下さい。

G ストップモーション

指導者は、非日常的な動きを出させるために曲の途中で音楽を止め、音楽が止まったときには止まった瞬間の動作の状態でストップ（ストップモーション）するように指示を出す。この止まった状態（止まっている形）が非日常的かどうかを各自にチェック（自己評価）させる。このことで、より非日常的な動きが出やすくなる。

例：音楽がかかっている間は踊り続けること。でも、音楽が止まったら、その時の動作でストップして下さい。ダンスは非日常的な動きの連続だから、止まったときに非日常的なポーズで止まっていることがいいんだよ。いつも気を付けの姿勢や、普通に歩いている姿勢で止まっている人は、日常的な動きしか出ていないってことだよ。

H “合わせる”から“のる”へ

Gまでの一斉指導の中で、学習者が、音楽の拍やリズムと自分の関係を大切にし、周りの友だちを気にせずに自由に動けるようになったなら、ここで指導者は再度リズムダンスの特性である“のる”ということについて説明する。この言葉の投げかけで学習者の動きは、リズムに合わせて正しく動こうとする体操的なものから、急にダンスらしくなってくる場合が多い。

例：リズムダンスはリズムにのって踊ることが特性だから、ただリズムに合わせて動くだけでなく、気分をのせてみよう。

②踊りの場所

A 踊る場所の固定

はじめの“歩く”では特に指導者が指示をしなくても、「人とぶつからないように」と言うだけで学習者は活動ができる。色々な方向への歩く動作や腕の動作＜上述①A～

E>で心身を解放して動けるようになってきたら、指導者は、学習者のおよその活動場所を固定させる。

例：それでは今度は、自分の踊る場所を決めるよ。両手を広げて回転してごらん。
他の人と指先が触れたりしないように、できるだけ仲間との間隔を広げて、およそでいいから自分の場所を決めましょう。それができたら、自分の場所を中心に、半径1m位の中で歩きましょう。

B 正面の意識

踊る場所をある程度固定したら、続いて指導者は正面を意識させる。このことは学習を深めていく上で極めて重要なことである。学習者は常に正面を向いて踊るわけではないが、正面を意識した踊りには、回る動作一つをとっていてもメリハリがついてくる。

例：正面を決めましょう。正面があって初めて前後、左右が出てくるわけですから。

③向きや方向

A 視線は同一方向

はじめの段階で歩き回っている時には必要ないが、学習者が踊る場所を決め、正面を決めた時から、指導者は見る方向（向き）を意識させる必要がある。この段階で、ダンスの楽しさ経験のない学習者を放任したまま活動させると、隣同士で目を合わせ、ニコニコし合う。すると余計に羞恥心が出たり、仲間の動きを見る活動になってしまったりする。そうすると、指導者がどんなに技術指導をしても、学習者の自己表現に結びけることは困難である。

例：自分の場所が決まったら、正面を〇〇側にするよ。全員〇〇側を向いて下さい。
今は、隣の人は無視して、リズムにいかにか合わせるか（のるか）だけを考えて下さい。動きは単純で簡単だから、人の動きを見なくても大丈夫ですね。

※〇〇側は、窓側、壁側、黒板側、廊下側など、状況に応じて適当に指示を出す。

B 人の動きを見たい場合

それでも学習者が仲間の動きや、周りのことを気にしたりする場合がある。そんな時に指導者は、学習者が自分の踊りをやめないで周囲を見ることが出来るように“回る”動作を入れることを指示する。

他人に見られることに慣れれば、仲間同士でお互いに見合う活動は効果的になる。しかし導入の段階では、学習者は見る活動に終始し、自ら踊ることが疎かになってしまう場合が多いので、あくまで学習者自身が踊ることを中心とした学習活動にすることが大切である。

例：どうしても周りの動きを見たい場合にはしっかり見るのではなくて、“回る”という動作をしながら、その時に、ちらっと見て下さい。

また授業の途中で、指導者は、見る方向を180度逆にするよう指示を出すことも有効である。とりわけ前方の学習者たちが萎縮し、前の活動を見ることが出来る後方の

学習者たちが勢いよく踊っている様な場合には、反対方向（180度逆）を向かせることで前後を逆にすることができる。指導者が必要に応じて、見る“同一の向き”を変えてやるのが、有効になる場合がある。

例：今度は 180 度方向を変えて、正面を△△側にするよ。全員△△側を向いてください。

C 失敗した例

ある研究授業で、人の目が恥ずかしいから踊れないと判断した指導者が、照明を落とし、暗幕で体育館を暗くして授業を行った。子どもたちはそれなりに動いたが、明るくしたとたん、全く動かなくなってしまった。

また、ある研究授業では、卓球台、バレーボールの支柱やネットを利用して、体育館を 6 つに区切って授業をした。これも指導者が、他のグループから見られることが踊れなくなる原因だと考えたからである。個室の雰囲気を出せば踊れるのではないかと考えたはずが、どのグループも一時間中、ほとんど動けないという結果になってしまった。

④音楽リズムの理解（ユーロビート）

A 指導者の手拍子など

前述<①A>したが、曲のリズムに合わせて踊ることは、経験のない学習者にとっては難しいことである。指導者が音楽に合わせてマイクを使い、リズムを取っている授業を見たことがあるが、その時の指導者でさえ、口から出てくるリズムは、体育館に流れている音楽のリズムから外れていた。

こんな時には音楽を使わずに、指導者の手、口（声）、タンブリン、カスタネットなどで拍子を打ち、その拍子に合わせて“歩く”動作を行わせることが簡単な導入ということになる。慣れてきたら、指導者の打つリズムと、音楽の拍子とを結びつけるために、できるだけ早く音楽を使用し、だめならまた手拍子などに戻るという工夫が必要である。

B 音楽のリズム

リズムダンスであるから、リズムボックスを用意して、必要なリズムを流すだけでもリズムダンスは成立する。しかし、軽快な曲が流れて来ると、自然に体が（体の一部が）リズムを取ってしまうことがあるように、曲の持つ意味は大きい。

学習者たちが踊りたいと思って選んだ曲なら、より欲求が助長される場合がある。しかしここで注意しなければならないのは、学習者たちが選んだ曲が踊りやすい、のりやすいものであるとは限らないということである。学習者は自分の好みで、日本語の歌詞に、すでに振りがついている曲や、かなりテンポの速い曲などを選曲する。振りがついている曲は、学習者がその振りを模倣したい（できる）ために、なかなか自由な動きにならない場合が多い。またテンポが速すぎる曲は、小刻みに跳ねることが精一杯で、それ以外の動きが出て来づらい傾向にある。

学習者に選曲させるときの注意は、振りが付いていない、テンポが速過ぎない、などに注目するとともに、指導者が事前に確認してから授業で使用するべきである。

⑤学習の環境

A 十分な明るさ、広い空間

前述した失敗の例<③C>で示したように、学習環境を暗くしたり、個室にしたりした場合にも、その状態のまま単元を終えることはできない。一度暗くすると明るくするときに、また、狭い空間では広くするときに、学習者の活動が自然に移行することはない。その変更をする時に、指導者はかなりの手だてを加えないと活動は急に停滞する。

ダンスの特性である、他人に見られたり見たりする楽しみを考えると、指導者は、はじめから明るい場所、広い空間を確保して学習をスタートさせた方が、心身を解放させるための近道となる。

B VTR撮影や鏡

学習者がダンスに慣れてきたり、楽しさが分かってきたりすると、仲間に見てほしい、分かってほしいという欲求が出てくる。そこで、ダンスの学習では相互に見合う活動が重要になってくる。

そのための導入も考慮し、まず指導者は、ビデオカメラや鏡などで、学習者が自分自身の動きを見ることが出来る環境を作ることが必要である。自由にビデオカメラを操作し、それを自分で見返せる器材や“姿見”を用意することが大切である。

⑥示範の動き

A 技術指導中心の傾向

学習者たちの活動が滞ると指導者は示範をしたくなることがある。ところが、ダンスのはじめの段階で示範に頼ると、指導者の真似はできても示範がなければ学習者は踊れなくなってしまう。また示範は形の真似に終始し、「出来る－出来ない」の活動に陥ることがある。このことは、即、リズムにのる楽しさを味わう学習活動にはなりにくい。強要すると、「技術は出来るようになったが、もう二度とダンスなんかやりたくない。」というような羽目に陥ることがある。

B 二極化の助長

学習者の「出来る－出来ない」という結果が明確になると、「出来る－もっとやりたい」、「出来ない－やりたくない」という二極化につながる。「やりたくない」という学習者が増えると、その後指導者がどんな手だてを打っても授業の改善は難しい。従って単元の初めは、全員が「出来る－出来る」という活動で終始したい。そのためには、学習者の誰もが（全員が）できる簡単な運動課題での導入が大切である。示範での難しい（高度な）技術の提示は、そのことに逆行する場合がある。すなわちDVD資料や指導者などによる示範は、その提示の仕方によって、出来る人と出来ない人の二極化を助長することにつながる可能性がある。

⑦学習の形態

A 一斉指導

羞恥心を和らげる段階ではグループより一斉指導の方が有効である。学習者にはかなり羞恥心がある段階でグループにすると、話し合いばかりが多くなって活動が停滞したり、出来る人の動きを模倣する活動になったりする。

学習者の羞恥心を取り除かれ、もっとのって踊りたい、もっと色々な動きを取り入れたい、もっとリズムの取り方の工夫をしたいとなったら、グループ活動は有効に機能する。

従って、他のスポーツ種目のように、はじめからグループ活動をさせようとするとうまく失敗することが多い。

ダンスの研究を始めたばかりの頃、これで大失敗したことがある。指導に不安が増すほど、グループで考えさせ、グループに頼ろうとしてしまった。学習者たちも分からなくて不安であったので、ますます苦しい活動になってしまった。

※ はじめの段階での一斉指導は、学習者個々の活動を重要視している。羞恥心を和らげ、自己表現を確立していこうとすることは、基本的には個の活動となるからである。クラス全体に対する一斉指導の形態をとりながらも、個々の活動を重視していくことが大切である。

⑧その他

A 心身の解放状態（のっているか否か）の評価

「リズムダンス - ユーロビート」における事例を述べてきたが、学習者たちがリズムにのって、踊りを楽しんでいるかどうかを判断するときに、指導者は視（目）線、指先やつま先、発汗の様子などを観察するとよい。

視（目）線は、仲間と顔を合わせ、ニコニコしている状態ではのっているとはいえない。樋口(2004)の“恥への対処行動に関する研究”における「客観的行動」がこれにあたると思われる。このような状態は、のっているどころか恥ずかしがっていると判断できる。

また、指先やつま先、肘や膝は、極限まで伸ばす動作があるほど心身が解放されていると考えられる。発汗のことはいうまでもなく、発汗自体が緊張をほぐすと考えられる。

(2) “羞恥心”が和らいできた段階での学習の進め方

①グループ学習による学習方法の導入

一斉指導が長く続き過ぎると、指示がないと動けなくなってしまうので、学習者の羞恥心が和らいできたら（日常的な動きで、周りを気にすることなく一人で動けるようになったら）、グループ学習に移行するとよい。グループ学習では各自がめあてを持ち、それに向けた個人の活動が中心になる。グループの仲間は必要に応じ、見てアドバイス

をしたり、お互いに動きの真似をし合ったり、反対（鏡）の動きをしたりして工夫のための助言をし合う。グループで作品を作るのではなく、あくまでも各自の踊りがよりよくなるための活動である。

②グループ学習における学習者のめあての持ち方

グループ学習では、学習者は楽しさを求めて、各自が“動きの工夫”か“リズムの取り方の工夫”のどちらか、あるいは両方に焦点を当てためあてを持って活動することが多い。指導者は以下の枠のような資料（表2）を提示して、その中から選択させることで、リズムダンスのめあてを持った学習を展開しやすくさせる。

表2 学習者のめあてを持ちやすくするための資料

動きの工夫	歩く、跳ねる、回る、転がる、曲げ伸ばし、伸び縮み、反る、捻るなど
リズムの取り方の工夫	アクセント、ストップモーション、引っ張る、刻むなど

3-2) 学習者の満足度アンケート調査

(1) アンケート調査の概要

H22年4月2回、H23年4月2回、H24年4月2回、合計6回、学習者は、女子学生H22年37人、H23年37人、H24年31人の授業において、上記の授業計画にそって、本校講師の石坂由美子が授業を実施した。授業実践するにあたって、リズムダンス授業開始前の意識と、授業終了時の満足度について次のような記名式のアンケート調査を行った。

リズムダンスの授業開始時の意識調査（アンケート①）

※ 5段階、自己評価で記入させる。（5→良くできそう ～ 1→できそうもない）

質問【1コマ（1・2時間）目の開始時】

- ①（興味）リズムダンスを楽しいと思えるか？
- ②（のり）音楽リズムにのって踊ることができそうか？
- ③（動き）色々な動きで動けそうか？
- ④（汗）汗をかくくらい、たくさん動けそうか？
- ⑤（恥）友だちや周りを気にせず恥ずかしがらずに踊れそうか？
- ⑥（欲求）もっと踊りたいという欲求を持てそうか？

授業終了時の意識調査（アンケート②）

※ 5段階、自己評価で記入させる。（5→良くできた ～ 1→できなかった）

質問【2コマ（3・4時間）目の終了時】

- ①（興味）リズムダンスを楽しいと思うことができたか？
- ②（のり）音楽リズムにのって踊ることができたか？
- ③（動き）色々な動きで動くことができたか？
- ④（汗）汗をかくくらい、たくさん動くことができたか？

- ⑤（恥）友だちや周りを気にせず恥ずかしがらずに踊ることができたか？
⑥（欲求）もっと踊りたいという欲求を持つことができたか？

(2) 結果

平成 22 年度～24 年度の 3 年間、リズムダンスの授業毎にアンケート①②調査を実施し、意識の変容をみた。表 5 は分散分析による s A（1 要因被験者内）で検定を行った 3 年分の結果である。実施年度により差はあるが、1%水準で有意差が見られるものが多い。“恥”に限定すると、22 年度、24 年度は 1%水準で、23 年度は 5%水準で有意差が見られた。

表 3 5 段階評定でのクラス平均

H22 : 37 人出席、完全回答 34 人
H23 : 37 人出席、完全回答 33 人
H24 : 31 人出席、完全回答 31 人

のデータで集計

項目	年度	A1(平均)	A2(平均)	F 値	
①興味	H22	3.3529	3.6176	F=01.03 n.s.	A1=A2 n.s
	H23	3.1212	3.5758	F=03.79*	A1<A2*
	H24	3.3548	4.0000	F=10.30**	A1<A2*
②のり	H22	3.1176	3.8824	F=06.44**	A1<A2*
	H23	3.0303	3.6364	F=06.46**	A1<A2*
	H24	3.2258	3.9677	F=10.47**	A1<A2*
③動き	H22	2.9412	3.9412	F=09.74**	A1<A2*
	H23	2.8788	3.4242	F=05.50**	A1<A2*
	H24	2.8710	4.0323	F=35.24**	A1<A2*
④汗	H22	2.5882	3.7941	F=12.92**	A1<A2*
	H23	3.2121	3.5455	F=02.39 n.s.	
	H24	2.7742	3.8387	F=11.04**	A1<A2*
⑤恥	H22	2.8529	3.6176	F=07.16**	A1<A2*
	H23	3.0909	3.5455	F=02.45 ⁺	A1<A2*
	H24	2.7419	4.0000	F=26.30**	A1<A2*
⑥欲求	H22	2.8824	3.3529	F=02.75 ⁺	A1<A2*
	H23	3.0606	3.4848	F=02.08 n.s.	
	H24	3.0645	3.7419	F=12.80**	A1<A2*

分散分析による 1 要因被験者内検定 [⁺P<0.10 *P<0.05 **P<0.01]

【A1】→1 コマ目（1・2 時間目）10:50（はじめの段階）：アンケート①使用

【A2】→2 コマ目（1・2 時間目）12:20（まとめの段階）：アンケート②使用

(3) 考察

過去 3 年間の実践結果（表 3）を見ると、“興味”や“のり”、“恥”、“欲求”のアンケート項目から、学習者のリズムダンスに対する心的な傾向が向上している。また、“動き”や“汗”のアンケート項目から、踊りや運動技術の向上も自覚するようになっている。

リズムダンスを始める前には“羞恥心”を感じていた学習者たちが、2 コマ目（4 時間目）が終了する時には、“羞恥心”が和らぎ、気分がのって活動が豊かになっていると考えられる。

4 研究のまとめ～羞恥心から技術向上と楽しさへ～

中学校1・2年生のダンス必修化がなされてから、中学校現場では、リズムに合わせて形を教え、その真似をさせる授業、それらをグループで合わせて発表する授業、それらに多少の工夫を加え創作作品として発表させる授業が目白押しであると聞く。これらが本当にダンスなのかと問うたときに、ダンス本来の自己表現の欲求充足が欠落していたり、ダンスの楽しさを味わえないままの授業が後を絶たないようである。

このことは、指導者自身がリズムダンスをした経験がなかったり、リズムダンスの指導経験が乏しかったりする場合に、一見、仕方のないことのようにも思える。体育が持つ特性からみても、形や技術の指導から導入し、それを深めていくことがよい方法であるように思えるからである。

しかし、リズムダンス学習の指導が難しいとか、リズムダンスは分からないという経験の浅い指導者の言葉を聞くにつけ、形や技術からの導入ではなく、それらにはこだわらずに、リズムに触発された楽しさ“のり”に焦点を当てればうまくいくのではないかと考えた。そのために、阻害要因となる学習者の“羞恥心”を、和らげる指導法を考えて実証や研究を重ねてきた。

ここに紹介した実践は、リズムダンスと関わってから三十年以上の実証研究に基づくものである。示範して動きを真似させたり、細かい技術指導から導入したりするのではなく、“歩く”という日常的な動き方で、リズムにのる楽しさを重点目標にして導入することが、羞恥心を和らげ、すぐにリズムダンスの楽しさに触れる（今ある力で楽しむ）ことにつながり、その結果、技術の向上につながると考えて実証を繰り返してきたものである。ダンスの指導経験の乏しい指導者に授業をして貰ったときにも、学習者はリズムにのり、充分にその楽しさを味わうことができた。

楽しく自由に踊る中で、学習者にはそれなりの形や技術が身についた。さらに学習者が楽しさを味わうための、技術指導を含めた発展のさせ方についてはまだ研究途上である。さらに、領域や種目の取り上げ方に関するカリキュラム研究も今後に残されている。

おわりに～誰もができる授業へ

リズム型ダンスを扱う場合、運動文化財としての“ジャズダンス”“ヒップホップダンス”などを扱うべきであり、運動文化財として認知されていない“リズムダンス”では学習内容としては貧弱なのではないかとの意見がある。しかし“リズムダンス”を行うことは大変に意義があることと思っている。とりわけ学習者が、思春期を過ぎてから初めて“リズムダンス”を行う場合には尚更である。それは、どのダンスにも必要な“羞恥心を和らげる”ことだけではなく、リズム型ダンス（中領域）の特性である、“豊かなリズム性”と“型のない自由性”を、簡単に味わうことができるからである。リズムに触発され、自由に自己表現をすることはそれ自体が楽しい体験である。自己表現をすることで身体での

表現力を高める効果はもちろんのこと、その楽しさを味わうための自己解放やそれを受け入れるための認め合える学級集団は、教育効果から考えても大変に意義の深いものと考えられる。

プロの講師を招いて、ヒップホップダンスの技術指導をしても、それは授業としては大変に困難を伴い、貧弱なものとなる可能性がある。たとえ技術（ステップ）を身に付けられたとしても、すべての学習者がその機能的な特性（楽しさ）を味わったり、高度なテクニックを習得したりすることは、極めて困難であると考えからである。

「ダンスは何か」という大命題を常に念頭に置きながら、体育の教師なら誰もができる（ダンスの専門家でなくてもできる）授業を模索して、今後、さらに研究を推進していく必要があると考える。

<文献>

- 佐伯年詩雄（1983）つみかさね 第28回全国体育学習研究協議会福岡大会研究紀要 24-28
樋口匡貴（2004）恥の発生－対処過程に関する社会心理学的研究 北大路書房 1-7、15-16
島田左一郎、石坂由美子（2010）リズムダンス導入のあり方～恥ずかしさを取り除き、できるだけ早くリズムダンスの楽しさを味わわせるために～ 文化女子大学長野専門学校研究紀要第2号 3-18
島田左一郎（2010）増補三訂版 初心者のためのダンス指導 東方出版社
中学校学習指導要領（2008）文部科学省 保健体育 92(1)ア

保育科学生における色と言葉の結びつき

天 田 広 一

A Survey of Color Association of Students in Nursery Education Courses

AMADA, Hirokazu

キーワード : 色のイメージ 色の感情 保育と色

1 はじめに

私たちを取り巻く生活環境にはあらゆる色が存在し、人が見える色は見る条件によって187万5000色から750万色と言われている(近江 源太郎(著)「“よい色”の科学 なぜ、その色に決めたのか」の書籍参照)。

そんな社会で我々人間は色と共存し、多くの影響を受けながら生活していると言えよう。

色使いによって「気分が落ち着いた」「気分が悪くなった」「気分が高まった」というような感覚を持つことは、多くの人が経験していることである。また、「黄色い声」「バラ色の人生」「ブルーな気分」「腹黒い」「潔白」「グレーゾーン」などという表現からわかるように、色を使って状況を説明する場合は多い。このことから色は様々なイメージを持ち、人間の気分にも何らかの影響を及ぼしていると考えられる。

2 問題と目的

前述のように、色は人間の生活に大きな影響を持ち、様々な役割を果たしているのだが、それを把握していく事は、人間の成長過程においても重要な学習である。色の持つイメージや役割を理解し、保育・幼児教育の現場において子どもたちの生活環境や学習環境を整えることは、保育者の使命であると言えよう。

そこで本研究では、個々の学生が言葉に対してどのような色のイメージを持っているかについてアンケート形式で調査を行い、選択する12色それぞれのイメージについて考察すると共に、プラス思考的意味を持つ言葉およびマイナス思考的意味を持つ言葉と色の関係を探る。

色彩による生活環境づくりは、教育を含めて文化や流行とともに磨かれ、これからも発展していくであろう。その発展を担う基本的な人間がイメージする「言葉」と「色」の関係をテーマとして調査を行い、考察を加えていきたい。

3 調査対象及び調査方法

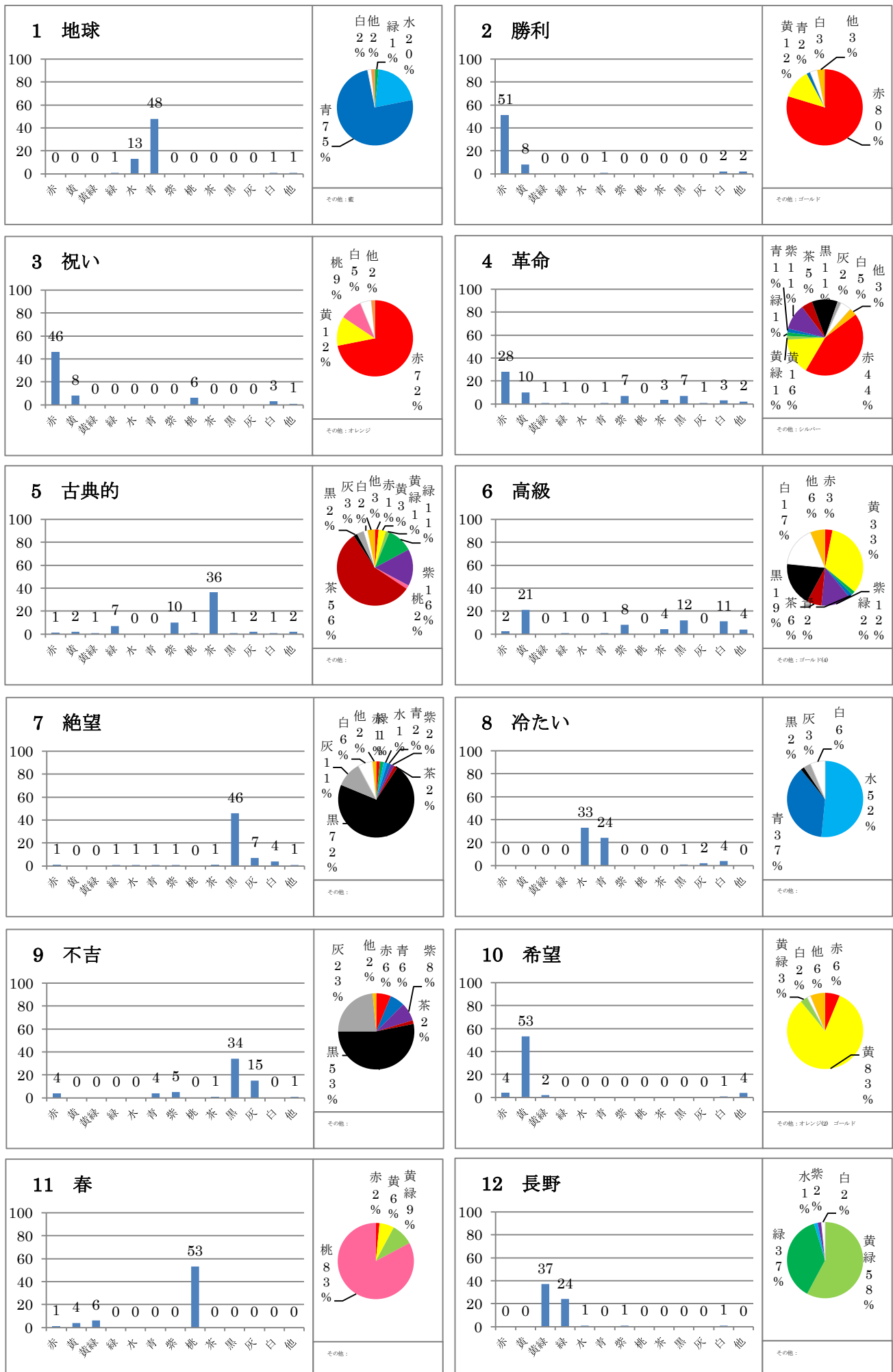
- (1) 調査対象：文化学園長野専門学校保育科所属学生 65 名（1 年生 30 名、2 年生 35 名）
- (2) 調査時期：2012 年 7 月
- (3) 調査方法：質問紙法による調査用紙を配布し、各質問に回答させ回収した（回収率 100%）
- (4) 調査内容：筆者が人間にとって重要と考える 100 の言葉をランダムに並べ、その言葉から最もイメージする色を、12 色の中から選択させた。ただし、どうしてもその中から選択できない場合のみ言葉で記入させた。配布したアンケート用紙は文末に添付する。

選択した調査項目は下記の 100 語である。

〈1〉 地球	〈26〉 知的	〈51〉 新鮮	〈76〉 夏
〈2〉 勝利	〈27〉 信頼	〈52〉 調和	〈77〉 わがまま
〈3〉 祝い	〈28〉 貧弱	〈53〉 やすらぎ	〈78〉 軽はずみ
〈4〉 革命	〈29〉 上品	〈54〉 平和	〈79〉 暗い
〈5〉 古典的	〈30〉 伝統	〈55〉 派手	〈80〉 清潔
〈6〉 高級	〈31〉 秋	〈56〉 元気	〈81〉 汚い
〈7〉 絶望	〈32〉 アフリカ	〈57〉 男性的	〈82〉 悪
〈8〉 冷たい	〈33〉 恐怖	〈58〉 生命力	〈83〉 誠実
〈9〉 不吉	〈34〉 メルヘンチック	〈59〉 日本	〈84〉 負け
〈10〉 希望	〈35〉 華やか	〈60〉 甘え	〈85〉 モダン
〈11〉 春	〈36〉 真実	〈61〉 活発	〈86〉 活気
〈12〉 長野	〈37〉 幸福	〈62〉 危険	〈87〉 家庭
〈13〉 孤独	〈38〉 別れ	〈63〉 不満	〈88〉 冬
〈14〉 未熟	〈39〉 激しさ	〈64〉 公平	〈89〉 陽だまり
〈15〉 ストレス	〈40〉 陰気	〈65〉 高級	〈90〉 暴力
〈16〉 冷淡	〈41〉 おとなしい	〈66〉 切ない	〈91〉 アメリカ
〈17〉 疲れ	〈42〉 老いる	〈67〉 洋風	〈92〉 安っぽい
〈18〉 ロマンティック	〈43〉 アジア	〈68〉 不安	〈93〉 攻撃
〈19〉 行動力	〈44〉 不健康	〈69〉 神秘	〈94〉 失敗
〈20〉 暖かい	〈45〉 和風	〈70〉 力強い	〈95〉 争い
〈21〉 若い	〈46〉 涼しさ	〈71〉 女性的	〈96〉 毒
〈22〉 やさしい	〈47〉 明るい	〈72〉 さわやか	〈97〉 田舎
〈23〉 成功	〈48〉 ヨーロッパ	〈73〉 ぼかぼか	〈98〉 親しみ
〈24〉 消極的	〈49〉 未来	〈74〉 目立つ	〈99〉 健康
〈25〉 冷静	〈50〉 都会	〈75〉 幼稚	〈100〉 純粹

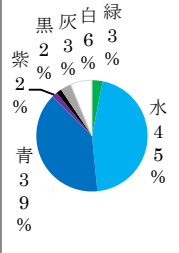
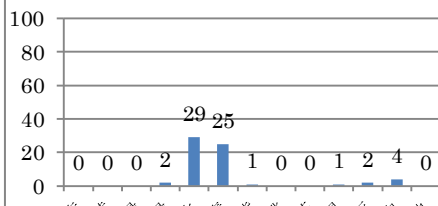
結果は、色別と言葉別に集計を行った。4 に色別の集計を、5 に言葉別の集計を、各々グラフにまとめ示すこととする。

5 言葉と色の集計



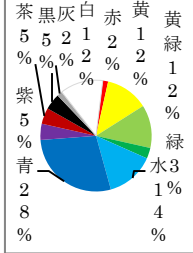
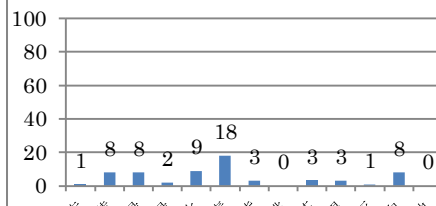


25 冷静



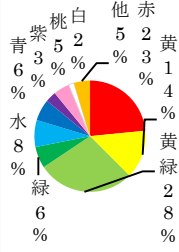
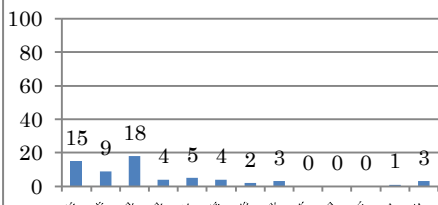
その他:

26 知的



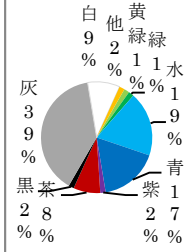
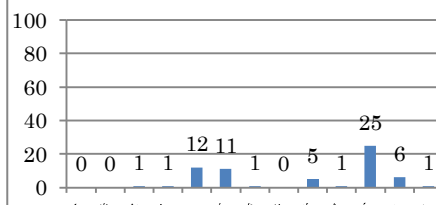
その他:

27 信頼



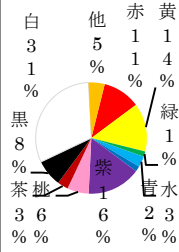
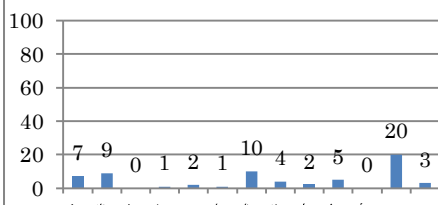
その他: オレンジ色

28 貧弱



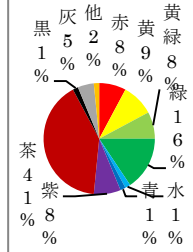
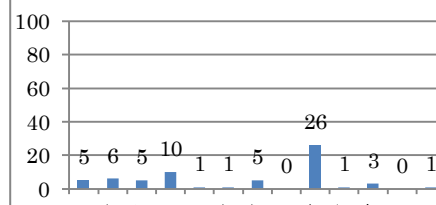
その他:

29 上品



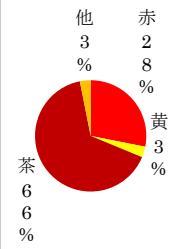
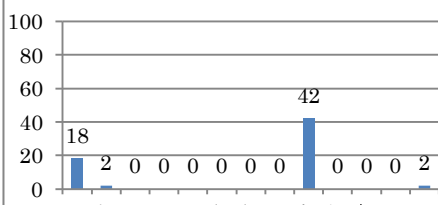
その他: ゴールド色

30 伝統



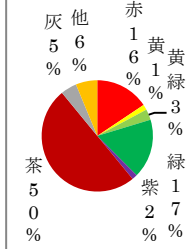
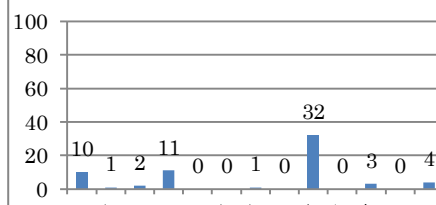
その他:

31 秋



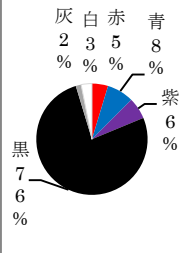
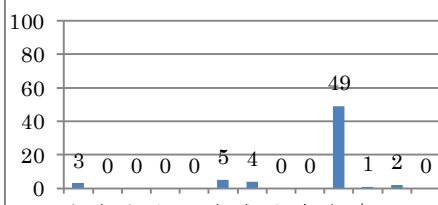
その他: オレンジ色

32 アフリカ



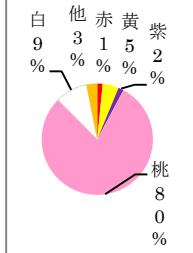
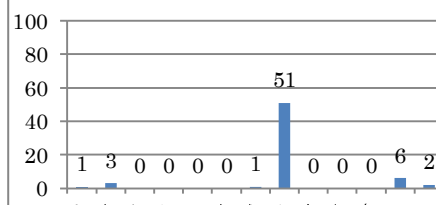
その他: 黄土 赤土 ベージュ

33 恐怖



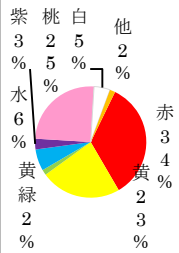
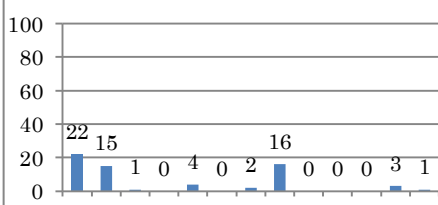
その他:

34 メルヘンチック



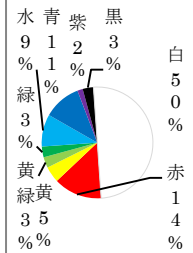
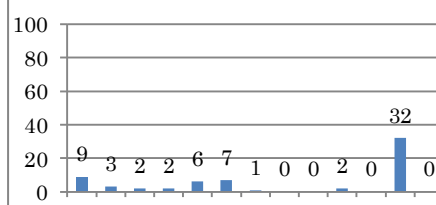
その他:

35 華やか

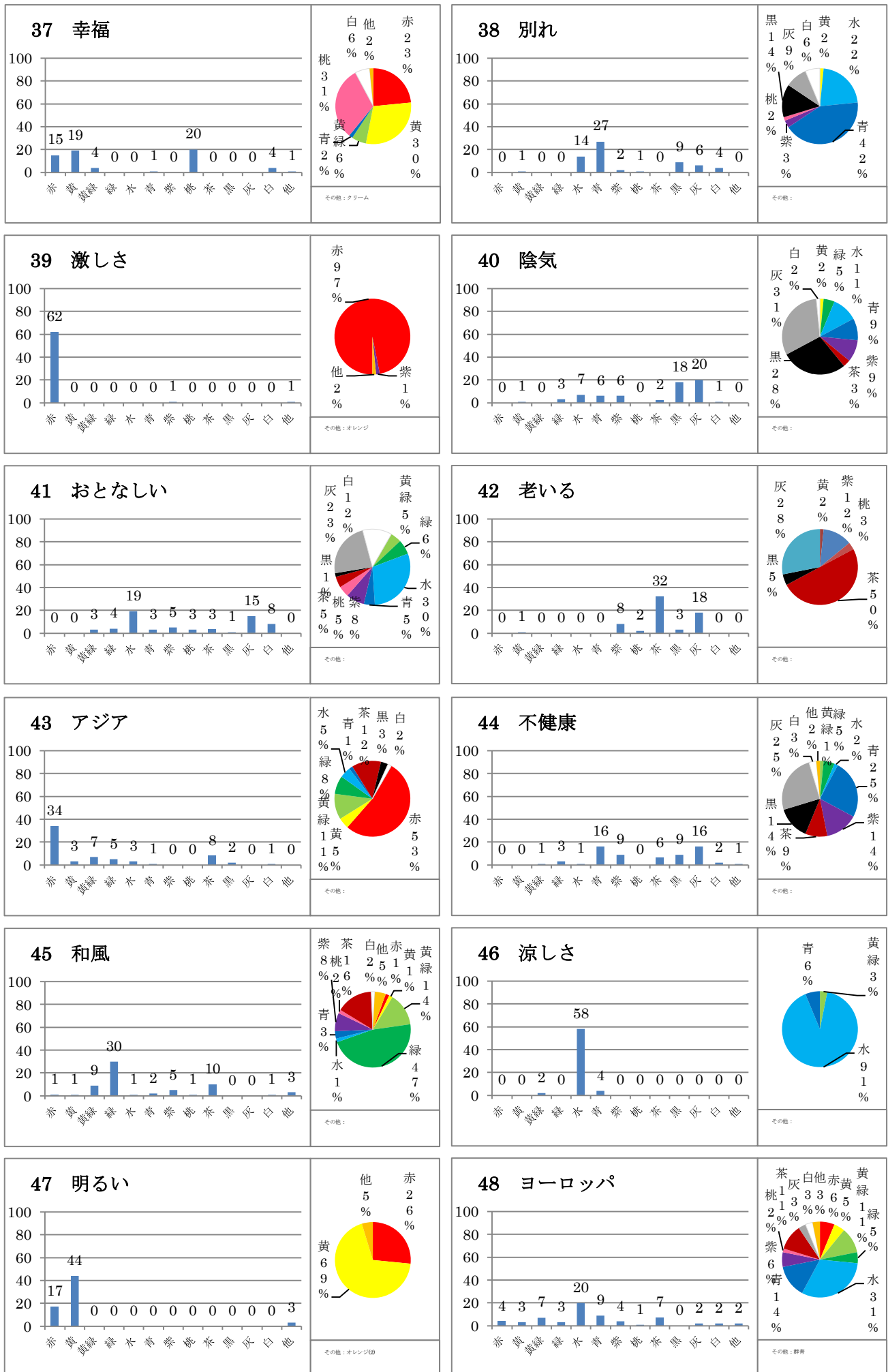


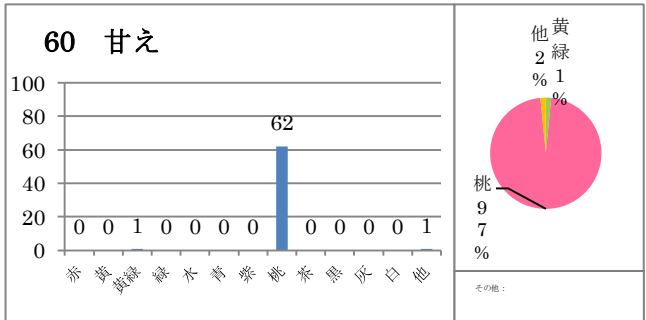
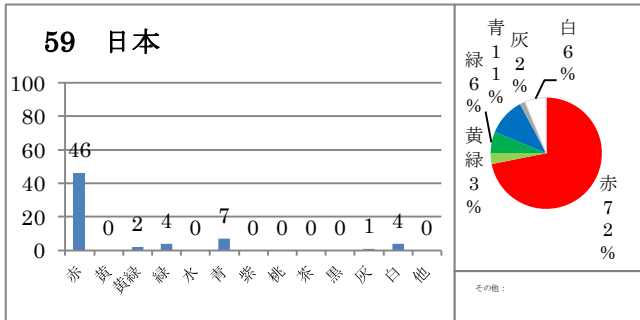
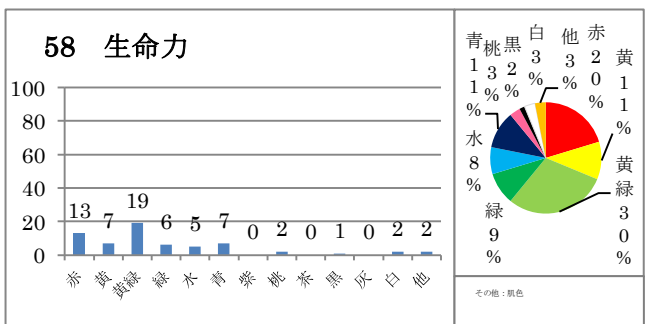
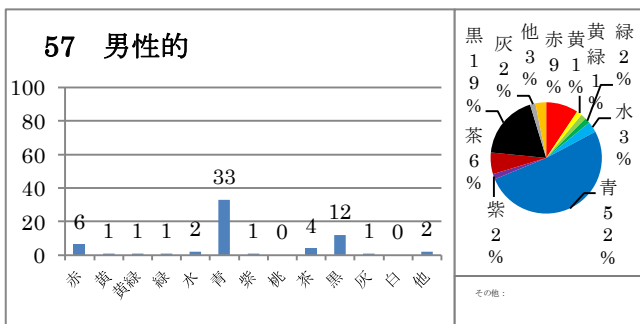
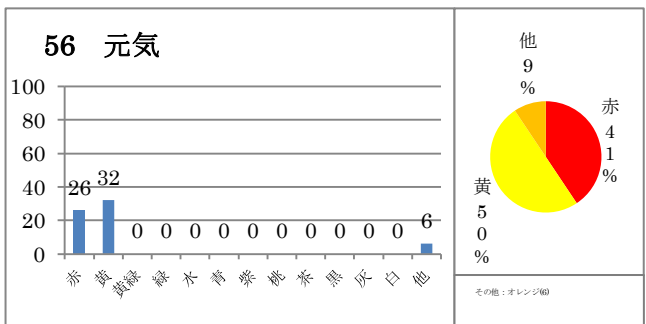
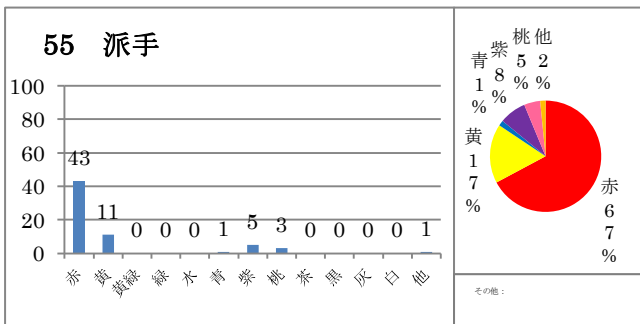
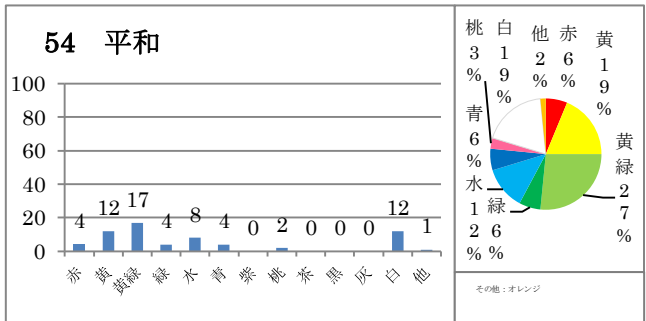
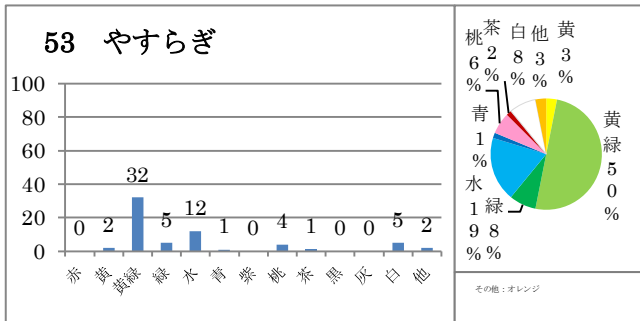
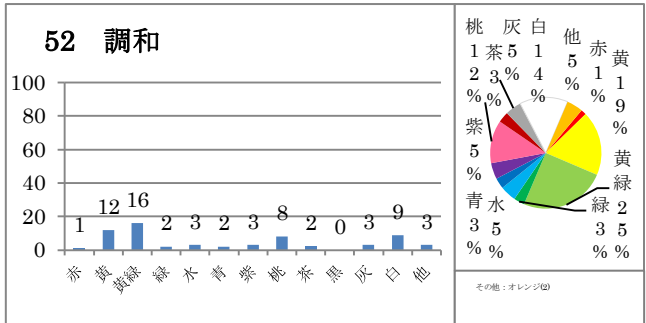
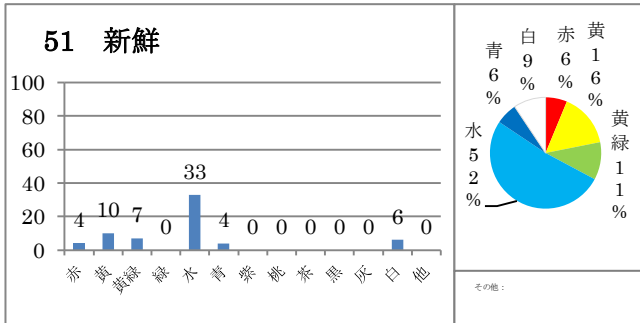
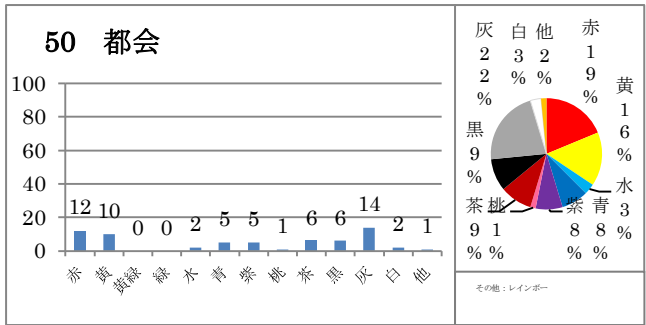
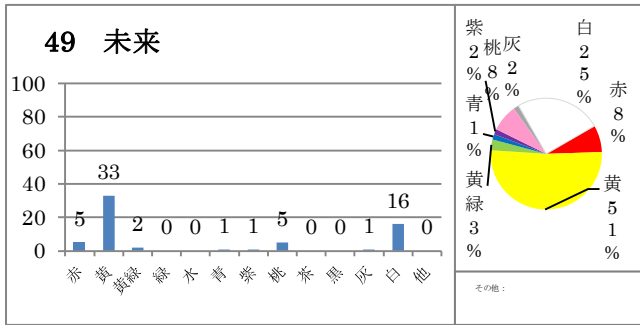
その他: ゴールド

36 真実

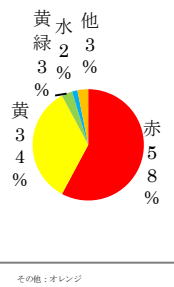
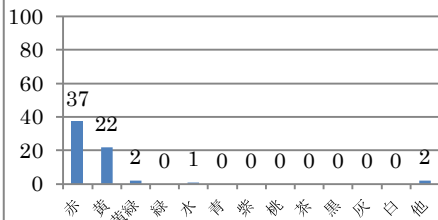


その他:

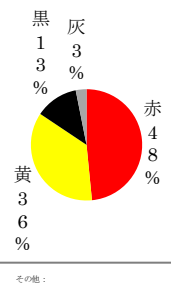
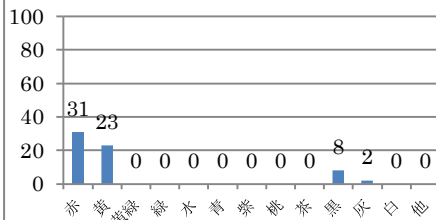




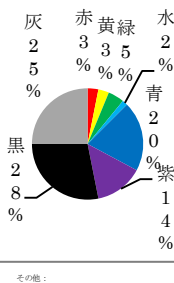
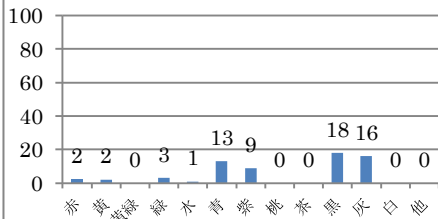
61 活発



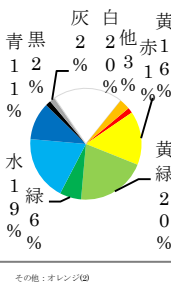
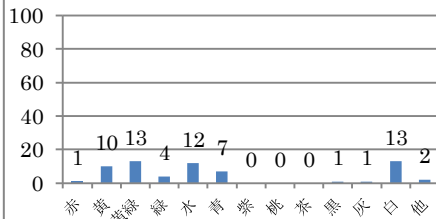
62 危険



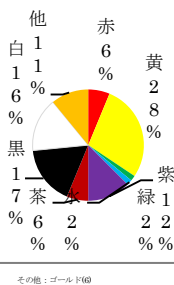
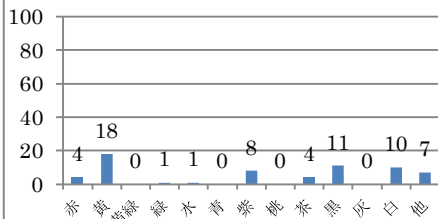
63 不満



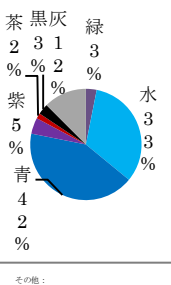
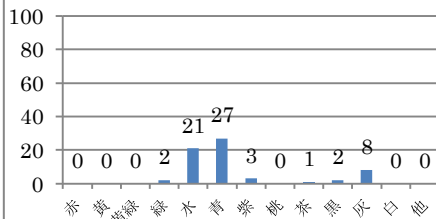
64 公平



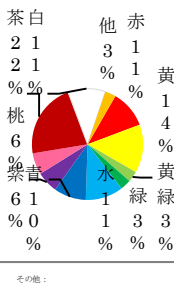
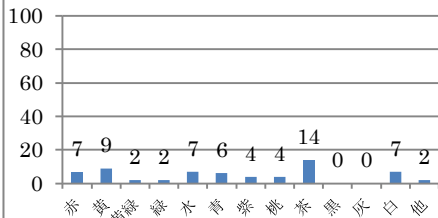
65 高級



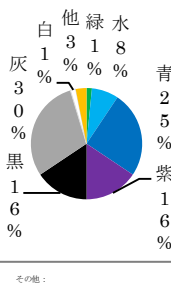
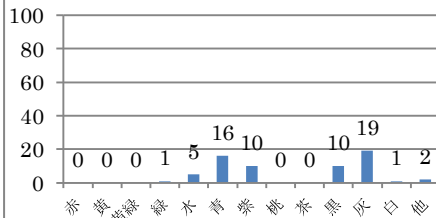
66 切ない



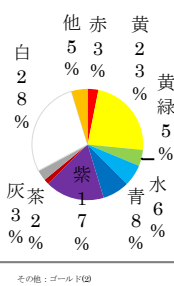
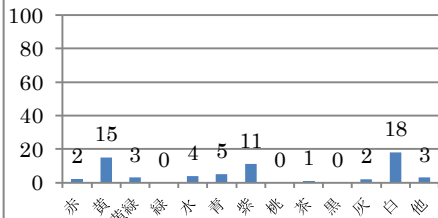
67 洋風



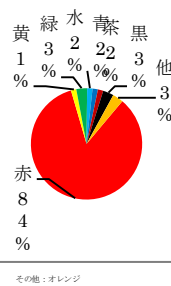
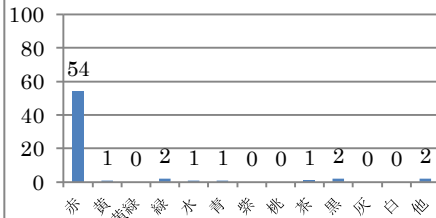
68 不安



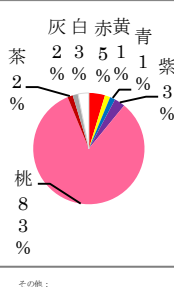
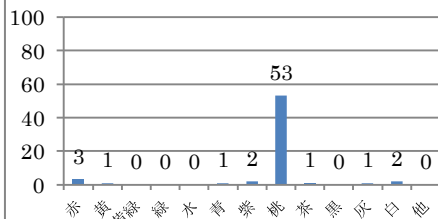
69 神秘



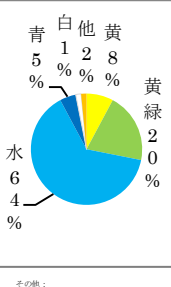
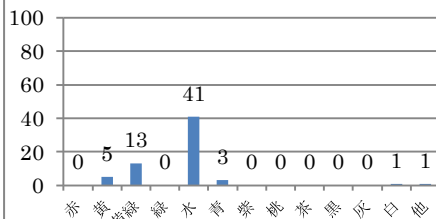
70 力強い

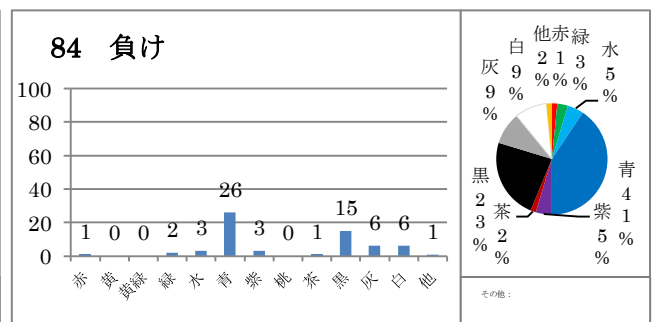
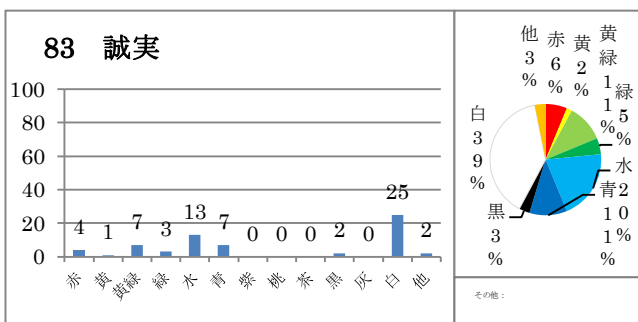
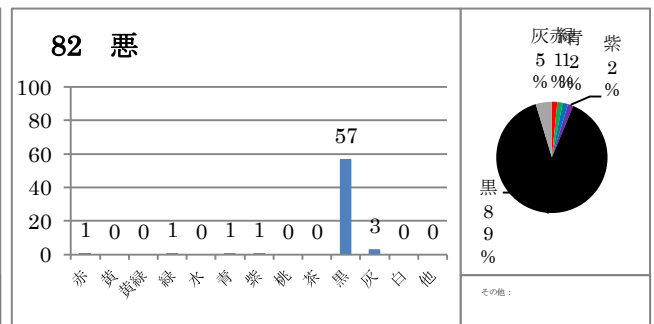
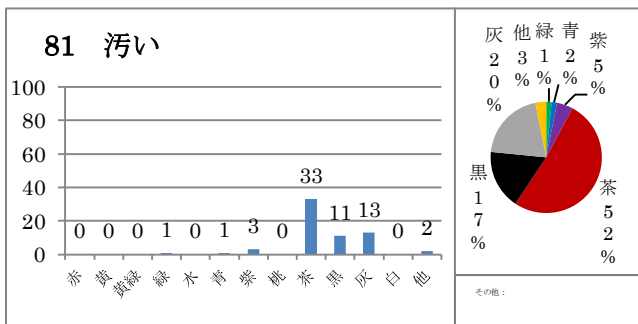
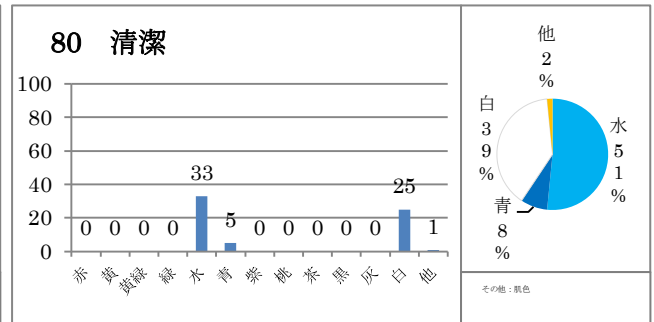
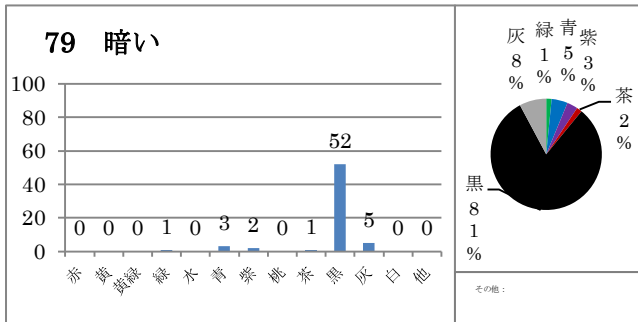
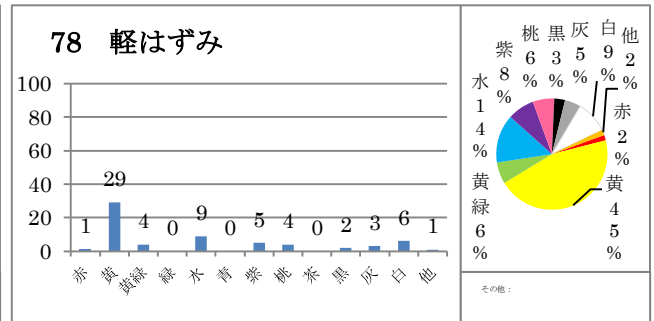
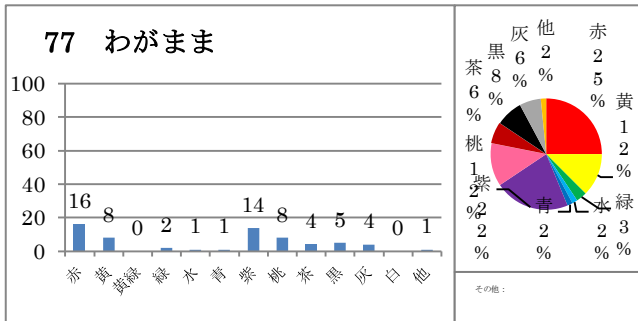
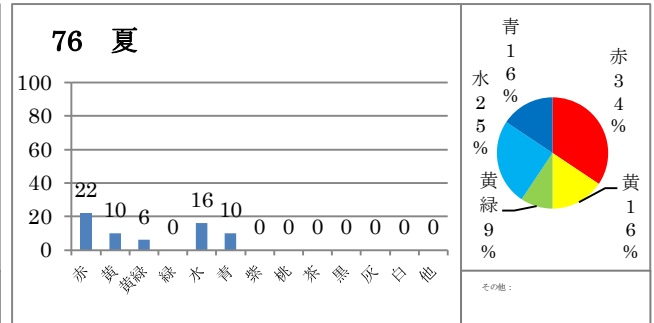
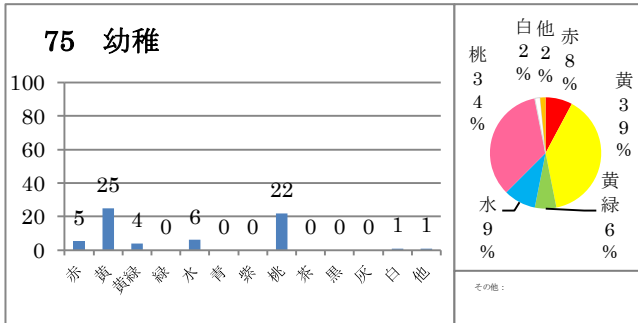
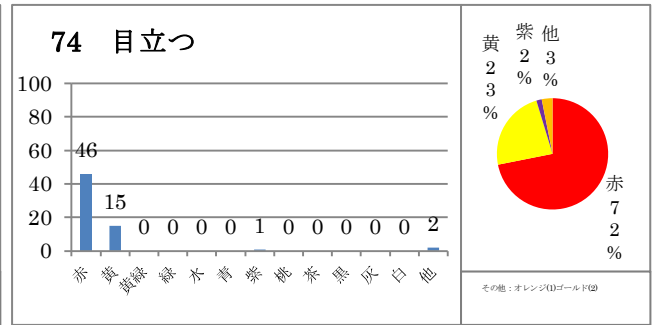
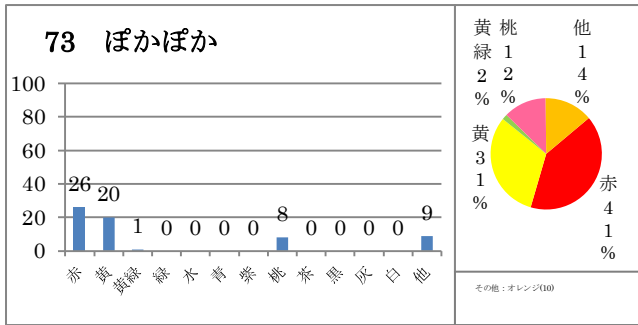


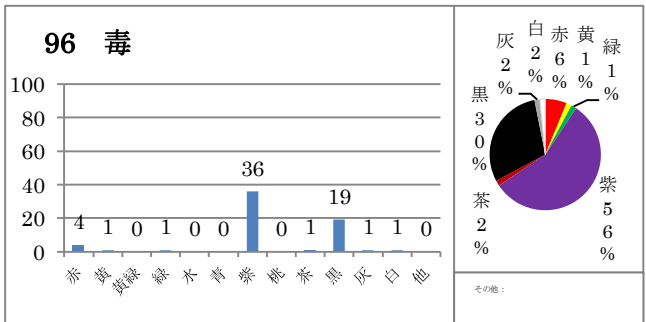
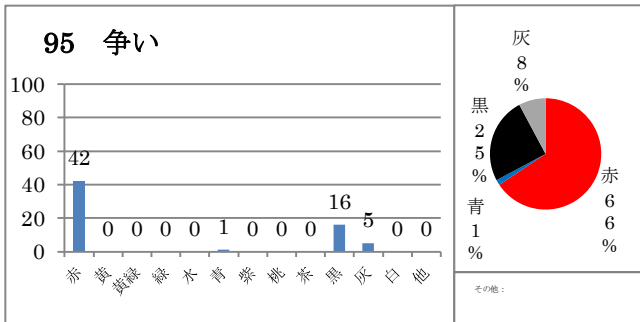
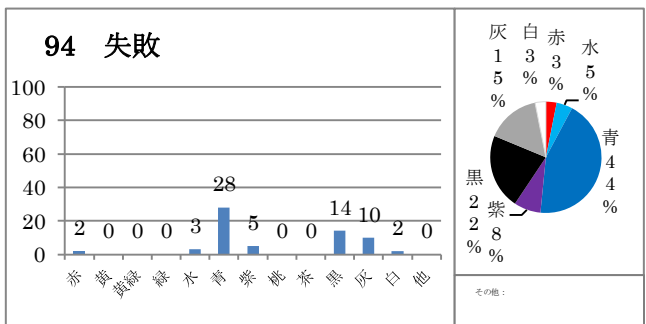
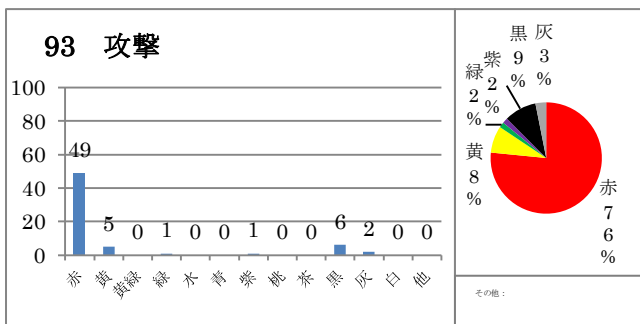
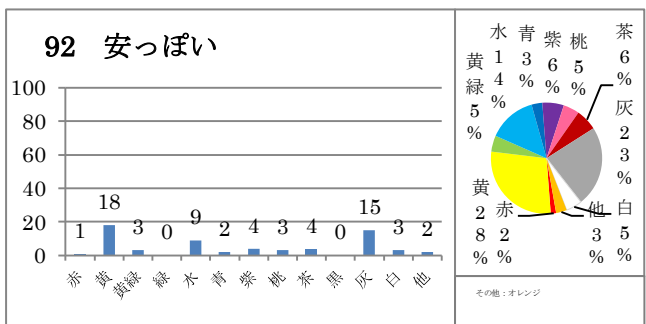
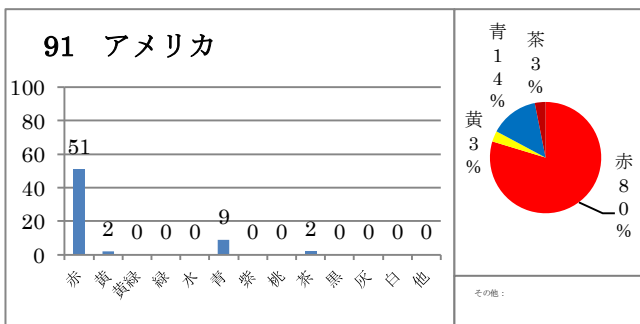
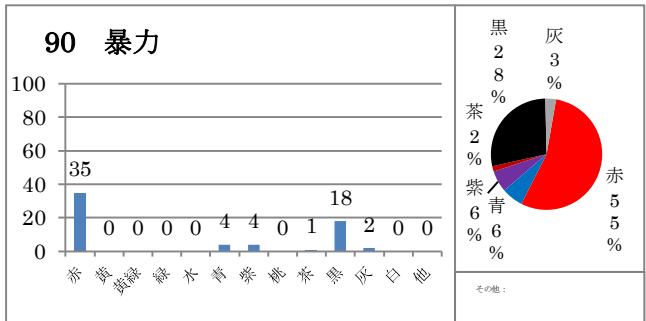
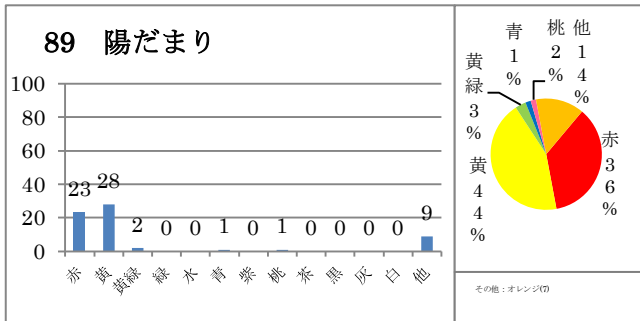
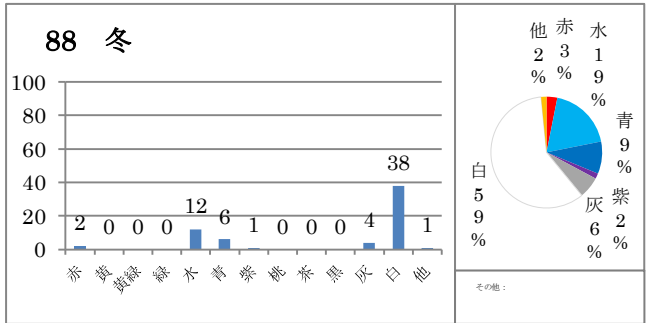
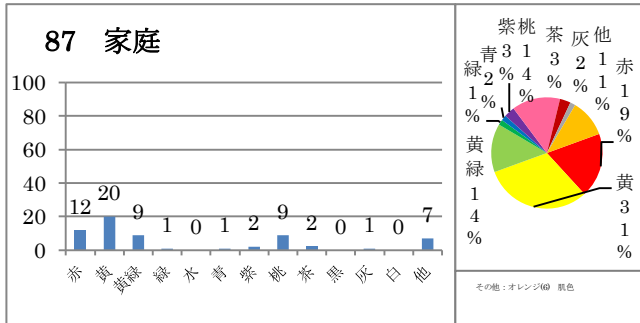
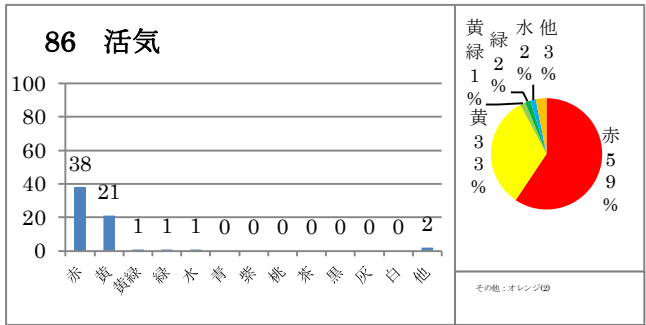
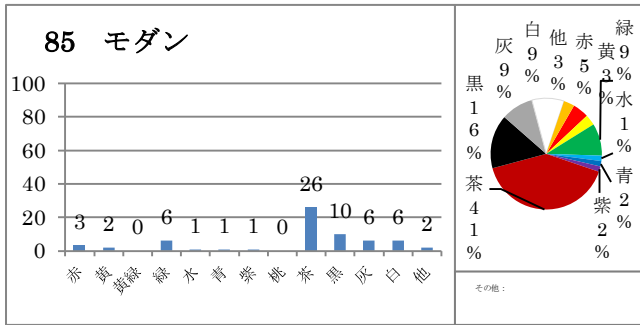
71 女性的

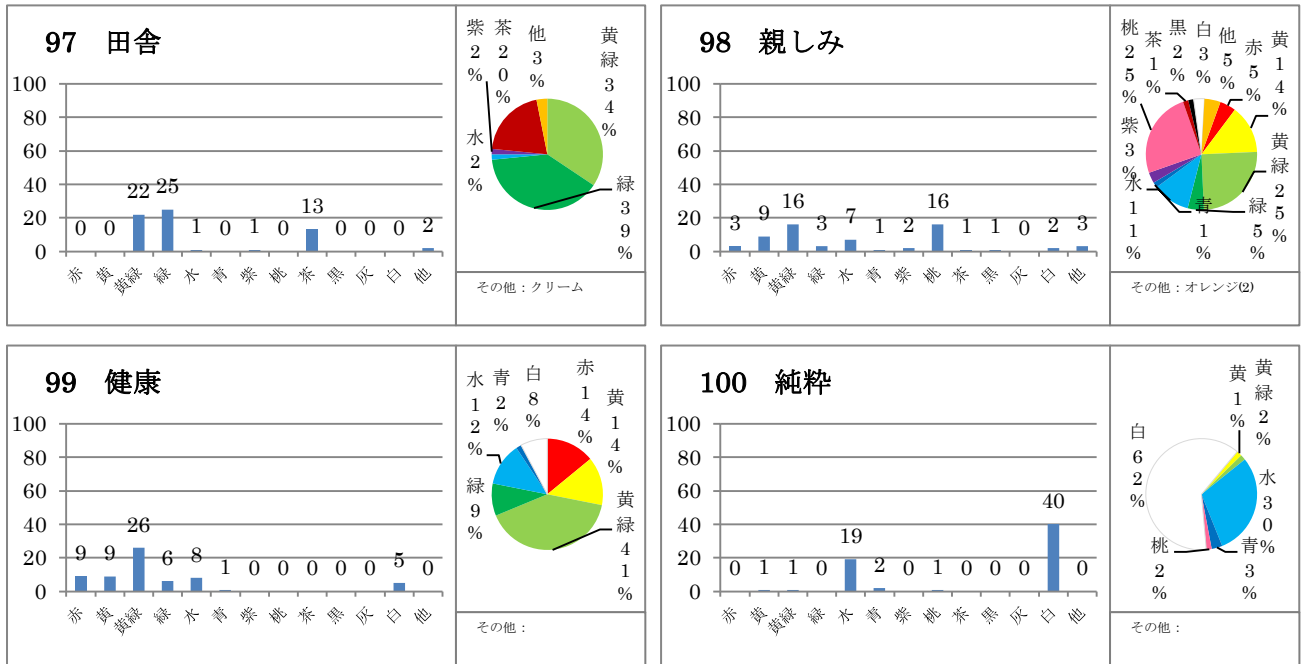


72 さわやか





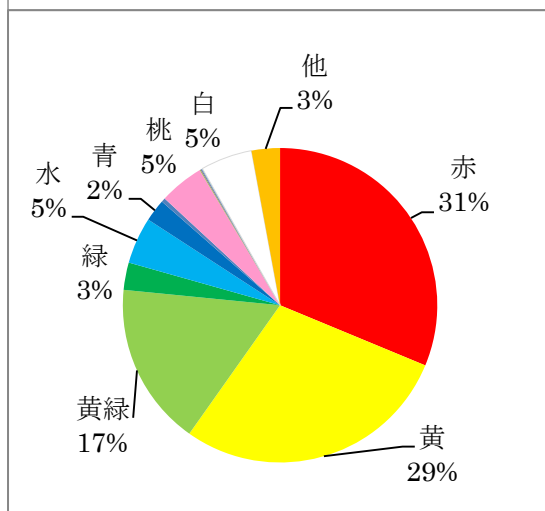




6 感情的比較

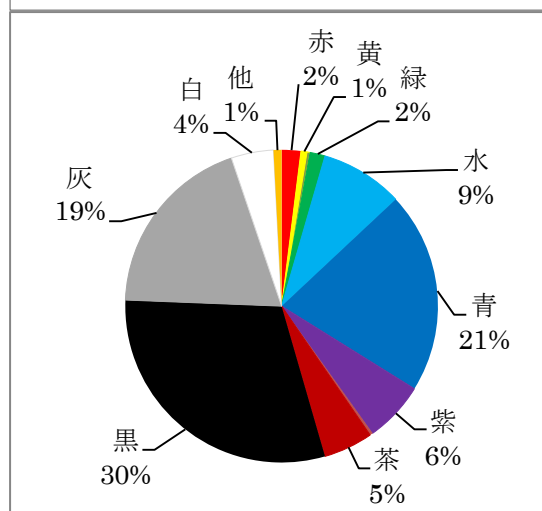
プラスのイメージを持つ言葉

〈2〉勝利〈10〉希望〈19〉行動力〈21〉若い〈23〉成功〈27〉信頼〈37〉幸福〈49〉未来〈53〉やすらぎ 〈54〉平和〈56〉元気〈58〉生命力〈61〉活発〈86〉活気〈99〉健康



マイナスのイメージを持つ言葉

〈7〉絶望〈9〉不吉〈13〉孤独〈16〉冷淡〈24〉消極的〈28〉貧弱〈33〉恐怖〈38〉別れ 〈40〉陰気 〈42〉老いる〈44〉不健康〈68〉不安 〈82〉悪 〈84〉負け〈94〉失敗



7 集計の分析

(1) 色別集計の資料から

全項目において赤色を選んだ総数が 1,200 と、他の色に比べて最も多い。ここで上げた 100 の言葉の内容によって断定はできないが、この調査では人間が言葉を色でイメージするときに、最も選び易い色であり、多くの言葉にイメージされやすい色であることが言える。では、赤色のイメージで多くあげられる言葉が、「激しさ」が 62 と最も多く、「力強い」(54)、「勝利」(51)、「攻撃」(49)、「争い」(42)、「成功」(40) が上位を占める。

黄色のグラフでは「希望」が 53 で最も多く、「明るい」、「陽だまり」のような視覚的（感覚的）なものは別として、「未来」、「元気」が上位に上げられた。その他は少数意見が 20 前後で多くの言葉にばらつきがみられ、総数では 778 と 12 色中 2 番目に多い。

黄緑色では、総数も赤色の 1200 と比較すると、409 で 1/3 ほどであり、イメージの内容も「長野」が 37 で、在住する県で緑が多いといった観察的イメージで、「田舎」もそれに類似した観点からイメージしたものとする。他では「若い」が 36、「やすらぎ」32、「健康」が 26 である。

緑色は 12 色の中でイメージする色の総数が、215 と最も少ない色である。さらに、黄緑色と同様「長野」が、24「田舎」が 25 と上位を占めていて、「和風」が 30 という結果には想定外に思える。

水色は「人」と「気温」の関係を示す色と言える。「涼しさ」が 58 と最も多く、感情のどちらともとれる「さわやか」が 41、「冷たい」は 33 である。また、「新鮮」、「清潔」、「純粹」といった言葉のイメージには共通した性質が有ると言える。さらに、「おとなしい」、「切ない」、「別れ」、「貧弱」など消極的イメージも強い。

(アンケート用紙)

言葉と色彩の関係

保育科	年 番	氏名
-----	-----	----

下記に上げる言葉を色に例える(表現)すとしたら、あなたは何色をイメージするか下の12色の中から番号で答えよ。
ただし、1色に絞れないときにのみ2色回答。選択肢の12色と異なる場合には()に短い言葉で説明してもよい。

〈1〉地球		()	〈51〉新鮮		()
〈2〉勝利		()	〈52〉調和		()
〈3〉祝い		()	〈53〉やすらぎ		()
〈4〉革命		()	〈54〉平和		()
〈5〉古典的		()	〈55〉派手		()
〈6〉高級		()	〈56〉元気		()
〈7〉絶望		()	〈57〉男性的		()
〈8〉冷たい		()	〈58〉生命力		()
〈9〉不吉		()	〈59〉日本		()
〈10〉希望		()	〈60〉甘え		()
〈11〉春		()	〈61〉活発		()
〈12〉長野		()	〈62〉危険		()
〈13〉孤独		()	〈63〉不満		()
〈14〉未熟		()	〈64〉公平		()
〈15〉ストレス		()	〈65〉高級		()
〈16〉冷淡		()	〈66〉切ない		()
〈17〉疲れ		()	〈67〉洋風		()
〈18〉ロマンティック		()	〈68〉不安		()
〈19〉行動力		()	〈69〉神秘		()
〈20〉暖かい		()	〈70〉力強い		()
〈21〉若い		()	〈71〉女性的		()
〈22〉やさしい		()	〈72〉さわやか		()
〈23〉成功		()	〈73〉ほかほか		()
〈24〉消極的		()	〈74〉目立つ		()
〈25〉冷静		()	〈75〉幼稚		()
〈26〉知的		()	〈76〉夏		()
〈27〉信頼		()	〈77〉わがまま		()
〈28〉貧弱		()	〈78〉軽はずみ		()
〈29〉上品		()	〈79〉暗い		()
〈30〉伝統		()	〈80〉清潔		()
〈31〉秋		()	〈81〉汚い		()
〈32〉アフリカ		()	〈82〉悪		()
〈33〉恐怖		()	〈83〉誠実		()
〈34〉メルヘンチック		()	〈84〉負け		()
〈35〉華やか		()	〈85〉モダン		()
〈36〉真実		()	〈86〉活気		()
〈37〉幸福		()	〈87〉家庭		()
〈38〉別れ		()	〈88〉冬		()
〈39〉激しさ		()	〈89〉陽だまり		()
〈40〉陰気		()	〈90〉暴力		()
〈41〉おとなしい		()	〈91〉アメリカ		()
〈42〉老いる		()	〈92〉安っぽい		()
〈43〉アジア		()	〈93〉攻撃		()
〈44〉不健康		()	〈94〉失敗		()
〈45〉和風		()	〈95〉争い		()
〈46〉涼しさ		()	〈96〉毒		()
〈47〉明るい		()	〈97〉田舎		()
〈48〉ヨーロッパ		()	〈98〉親しみ		()
〈49〉未来		()	〈99〉健康		()
〈50〉都会		()	〈100〉純粋		()

											
赤	黄	黄緑	緑	水	青	紫	桃	茶	黒	灰	白

貴方が最も好む色(例題色ではない)	理由

青色と水色は同系色でもあり「冷たい」、「冷淡」、「冷静」、「切ない」という言葉とは一貫性がある。しかしながら、「涼しい」、「さわやか」、「清潔」のイメージはない。男性の色として「男性的」は33と社会的認識が強い。「地球」48と最も多い回答数である。

紫色は高貴な色として尊重されることが多いが、結果を見ると「毒」36と最も多い。総数は282で好んで選ばれる色ではなく、「上品」10、「高級」8はあるものの、「疲れ」、「不健康」、「不安」、「わがまま」のようなマイナスイメージが目立つ。

桃色はピンクといった方がなじみ易いのだろうが、「女性的」を53、回答者の83%がイメージしている。「男性的」の青色が52%に比べるとかなり高い。100の言葉の内、桃色が選択された言葉はかなり限定されるが、選ばれた際にはその役割が突出している。その他「春」、「ロマンティック」、「やさしさ」、「メルヘンチック」、「甘え」が多い。

茶色は「秋」 草木の色の移り変わりから、また、砂漠の砂から「アフリカ」をイメージされたものと考えるが、「古典的」「伝統」「モダン」といった言葉の意味に共通点が見て取れる。「汚い」「老いる」といった印象も強い。

黒色は闇や暗黒などに例えられることが多いが、やはりそれに類似した言葉が多い。「悪」57、「暗い」52、「恐怖」49、「絶望」46、「不吉」34、「孤独」23と続く。2番目の「暗い」には単なる視覚的なものと、人間の内面的な2つも意味があるものの、統計的にはマイナス的イメージが他の色と比較しても最も強い。

無彩色で明度によってかなり印象の違う灰色だが、全体的にはマイナスのイメージに集中し「貧弱」25、「陰気」20、「疲れ」20でマイナスの面では黒色と共通しているが黒色ほどと突出する言葉はない。

白色は無色という意味も成すが、「純粹」40、「真実」32、「誠実」、「清潔」が25で続く。「冬」の38は雪の白色のイメージからくるものであると言える。少数意見も分布し、個々のイメージに違いがある。

中性色である緑、紫は答えの総数が少なく、また中間色である灰色も比較的少ないと言える。中性色、中間色は言葉のイメージとつながりにくい傾向にあり、個性の強い色は原色の中にあると言ってよいだろう。

(2) 感情的比較の資料から

アンケートの中から私が考える「プラスのイメージを持つ言葉」と、「マイナスのイメージを持つ言葉」を15ずつ選び表による集計をしてみると、プラスは赤色、黄色を合わせると60%を占め、その他には黄緑色、水色、桃色と明るい色が大半である。それに比べてマイナスは無彩色が半分を占め、全体的に暗いイメージである。

8 考察

結果が示すように、赤色は多くの言葉からイメージされ、最もイメージされやすい色であることが推測できる。また、言葉の意味から「力」を象徴するような統一的イメージが見て取れる。「アメリカ」の51名は回答者の80%を示す。国旗のイメージから赤色とも考えら

れないでもないが、想像の範囲でいえば、人は大国 アメリカに対して脅威を意味しイメージしているのかもしれない。

続いて「日本」を赤色と答えた46名は回答者の72%にあたる。歴史的に見れば、衣装である十二単の紅色や、浮世絵の強烈な赤には印象が強いものの、日本の場合には国旗「日の丸」の赤、それに地図帳にある日本の色が赤色で塗られていることから、かなり統一したイメージをもっているのではないかと判断する。残念なことに今回の調査で測ることはできないが、国別で言えば中国やロシア(旧ソ連)のように共産圏の印象とは重ならない。

赤色が最もイメージされやすい色だとすると、緑色はこの調査でいえば、最もイメージのない色、言葉との関連性が一番薄い色といってよいだろう。赤色が総数1,200と比較しても緑色は215と1/5にも満たない。しかも、「和風」の30名が最も多くイメージの理由が「緑茶」「畳」くらいしか思い当たらない。

青色と水色の比較をしてみると、「海は青い」と言うが「海は水色」とは言わない。同じように「空が真青」とはいうが「空が水色」とも言いづらい。水色の「涼しさ」「さわやか」「冷たい」を見ると、体感的な要素が上位を占めるが、青色は「冷淡」「別れ」「切ない」心理的言葉が特徴だ。同系色でありながらイメージの違いが見て取れる。

青色の「地球」48名は75%で、世代を考えると単なる映像による視覚的印象だと判断する。世代別でいけば、ガガーリンの「地球は青かった」世相を想像する。

意外だったのが「モダン」のイメージ色が茶色ということだ。茶色はアンケートの中では「古典的」「伝統」と古臭いイメージで、「汚い」「老いる」のイメージすらある。確かに通常「モダン」と聞くと「古めかしい」「シックで落ち着いた」という意味で捉えるし、「モダンアート」と聞くと「アンティーク」「大正ロマン」的ニュアンスが強い。少なくとも学生は「古典的」「伝統」「モダン」を同じような意味で認識していることは間違いなさそうだ。しかしながら、「モダン」の言葉の意味は、「現代的」とか「近代的」の意味である。ある時代をはさんで言葉の意味が逆転していることがわかる。

言葉には人によって違いはあるものの、言葉からイメージする色があり、そこには共通した法則が存在する。また、色や色彩によって共通して感じるイメージや、心理的影響については知り知ることができた。

9 結論

今回のこの調査は文化学園長野専門学校の保育科1・2年生を対象に、図画工作Ⅰ・Ⅱ、「色彩の基礎」の授業の中で調査したものである。ねらいとしては、言葉の意味や、その言葉の持つ感情的イメージを色によって示すものであり、そこに人間が色の持つイメージと言葉のイメージの関連性を定義づけるものである。人は個々に言葉の持つ意味の違いや、色の持つ印象がずいぶんと異なる点と、共通した認識を持つこの2点に注目したい。

人は生まれ育った環境や、自らの経験によって独自の価値観を見出す一方、社会的ルール(マナー)としての統一した習慣は人間社会において存在する。また、文化水準や生活様式、治安、秩序によって検査結果が大きく変わる可能性を秘めている。

言葉はそれぞれ正確な意味を持つが、色は人間が持つ色彩感覚によって色に対する認識、イメージを持つことは自由である。しかしながら、国や文化の違いによって違いはあるにしても、現代社会において、色による認識やルールが定められている。たとえば信号機は、赤・青・黄色で構成され、青になったら車にしても歩行者にしても進めである。また、トイレでは当たり前、男性は青のドアに入り、女性は赤のドアを使う。

それを除いても、今回の調査によれば言葉からイメージする色には、かなりの共通部分があることが示された。

それによると、人間は赤色を見たときに「勝利」を予感し、「激しさ」を覚え、「祝い」祝杯をあげる。また、黒色を見ると「恐怖」と「悪」を覚えるのである。

人間は生活環境において色から何らかの大きな心理的影響を受け生活していることの結論に達した。

色が人に良い影響を与えたとしたら、保育を実践する者に対する指導として、図画工作では今回のアンケート結果を踏まえ、「色を生かした環境づくり」をテーマとして園児の教育環境、生活環境を作るための学習を進めることが大切であると結論づける。

今回の調査は64名と少人数のデータであり断定するものではないが、今後、この調査を継続すると共に、世代の違い、男女の違い、地域の違い等にも関心が持てる。さらに国の違いや文化の違いにも発展できる。

引用文献。

近江 源太郎 (2009) 「“よい色”の科学 なぜ、その色に決めたのか」 日本規格協会

進路指導とキャリア教育との関連性

－職業理解のための進路説明会－

中島 智子

The Coordination of Vocational Guidance and Career Education: An Introduction to Future Careers

NAKAJIMA, Tomoko

キーワード： 職業適性と理解、キャリア教育、進路説明会

1 はじめに

最近の就職状況をみると、就職難をはじめ、せっかく就職した若者が短期間で離職するフリーターやニートなど、多くの問題が起こっている。このことは近年、メディアでとりあげられるので、多くの人が関心を持っていることだろう。それと共に、「キャリア教育」という言葉もよく目にするようになり、それに伴い、現在各高等学校で、生徒向けに行われる進路説明会も少しずつその姿を変えてきている。その内容は学校や学年により多少異なるが、保育・幼児教育・介護福祉分野が進学先となる本校では、高校側から提示された内容に沿って、分野別、職業別に説明を行う。前述した様な社会問題解決のために、進路説明会にこの様な変革が必要となったのであろうが、それは従来の進路指導とは異なる様相を呈し、より「キャリア教育」を意識した内容になってきている。そこで、本論文では、本校で取得できる資格やそれに伴う職業について、さまざまな資料や教材で進路説明を試行して得られた結果を紹介し、キャリア教育との関連性を考察することとする。

まず、平成 23 年 1 月の中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育、職業教育の在り方について」から「キャリア教育」の“定義”を調べてみた。「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」としている。また、本文の**キャリア発達**とは、「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」と注釈がついている。このガイドライン

では、「進路指導とキャリア教育との定義・概念として大きな差異は見られない」ともしている。さらに、自分が「介護教員講習会」で**教育評価**という科目を受講した際にも「進路指導とは、キャリア教育のことであり、どういう生き方をするのか考えていくことが、本来の進路指導である」と学んだ。これらのことから「進路指導」は「キャリア教育」の縮図であり、「進路説明会」はキャリア教育を行う具体的な方法、と考えて良いのではないか。ではどのように説明をすれば、高校生たちが職業を理解できるのか、また、自分らしい生き方を探せるのか、順次具体的に示したい。

2 進路説明

(1) 内容と柱

進路説明を行うにあたり、中島は、本校「文化学園長野専門学校」の「教育目標」を意識して行ってきた。その教育目標とは

- ①「共に生きる社会」を推進する原動力となりうる意欲のある感性豊かな人格の形成
- ②プロフェッショナルとしてふさわしい能力（知恵・技能）を持つ専門家の養成
- ③人間としての尊厳や社会のルール・マナーを大切にする職業人の育成

の三つである。社会と直結している本校だからこそ掲げることができる「教育目標」であり、進路説明には欠かせない柱として捉えている。そして、そこに沿って行うことを目標としてきた。

(2) 概要

[導入]

具体的な内容に入る前に必ず生徒たちに下記の二つを問うことにしている。

- ①「仕事はなぜするのか、仕事の報酬とは」
- ②「自分はなぜ、この分野の資格や職業に関心をもったのか」

①および②各々についてその展開を下記に述べる

①「仕事はなぜするのか、仕事の報酬とは」についての展開

高校 1 年生の初めての説明会では、どの分野の説明をするにも、まず、仕事をする意味とは何か、仕事をしたことに対しての報酬とは何か、を問うことにしている。その答えの主なものは、

- ・生活するためのお金を得るため
- ・物を買うため
- ・学校に来るためにお金がいる
- ・お小遣いが欲しい

と、ほとんどがお金や物に関係した答えがでてくる。では目に見えないものには何かな

いか、と下記のように展開していく。

- ・「ありがとう」などの感謝の言葉
- ・自分の能力があがる
- ・充実感や自信がうまれる
- ・昇進、昇格、名誉
- ・人とのネットワーク（人間関係）がひろがる

と答えを挙げ、どんな場合に目にみえない報酬が得られるのかを、具体例でわかりやすく説明する。そうすると、「なるほど」とうなずく生徒がでてくる。この目に見えない報酬こそが自分が生徒たちに理解してほしいところである。お金や物も確かに必要であるが、それだけのために社会に出たとしても、仕事は単なるお金を稼ぐためだけのもの、と捉えられやすく、自分らしい生き方には近づけない。しだいに、前述したように社会に適合できなくなってしまうと感じているからだ。

②「自分はなぜ、この分野の資格や職業に関心をもったのか」についての展開

たくさんある職業や資格の中で、保育や福祉の分野に関心を持ったのはなぜか、と問うと、保育では

- ・子どもの頃の園の先生がやさしかった
- ・自分も子どもが好きである
- ・母親が保育の仕事をしている

と既に自分がどのような姿で仕事をするのかが、イメージできている。したがって将来像を描きやすい。ところが、介護福祉の分野になると、自分の体験と重なる部分が乏しい分、イメージしにくい生徒もいる。そこをどのように具体的にしていくかは後述する。

[進路説明の具体例]

前述の長野県キャリア教育ガイドラインによると、キャリア教育は発達段階に応じて行われることが望ましい。「幼児から、小学校、中学校そして高校へと一貫した理念で子どもを育てることが大切」とある。自分が関わってきた高校生には、学年に応じた内容や資料を提示してきた。その概要は次のとおりである。

○ 高校生向けに行った場合の内容の例

- ・体験を通して職業を理解する
- ・その職業の仕事内容
- ・コミュニケーションの大切さ
- ・その仕事に就くための方法
- ・学科で学ぶ内容やカリキュラム

- ・取得資格とその違い
- ・保育園と幼稚園の法的根拠、設置目的、保育・教育内容、保育・教育時間、対象児等の違い
- ・介護福祉士資格を活かせる施設、職場
- ・卒業後の進路と就職状況
- ・資格取得にかかる費用
- ・高校時代に準備できること
- ・日頃からどのようなことに注目すべきか
- ・どのような人材がもとめられているか（適性）
- ・仕事の魅力・やりがい
- ・1・2年生での内容をさらに深く説明する（高校3年生向けの場合に追加）
- ・具体的な進学先への受験方法、受験対策（高校3年生向けの場合に追加）

進路説明会のおおまかな項目は以上であるが、段階に分けて行っている。1年生では主に体験を通して職業に対する理解を深めることに重点をおいているが、次の段階では、それを基に、その職業につくためのカリキュラムや資格取得の方法、またどのような人材が求められるのか、各施設の法的根拠や内容の細部にわたり学ぶことになる。3年生になると、目指す進路先の受験方法やそれを達成するために何を準備しておくか、早めに対応しておくべきことは何かなど、生徒たちの関心が高い部分を説明する。

[教材および資料の具体例]

以下に、具体的にどのような教材や資料を使って説明を行ったのかを述べる。

①保育分野体験型

高校1年生向けには、体験型説明会が多いことは前述したとおりだが、中島が実体験から作成した、資料①の「ある幼稚園の一日」を使って、時間の流れと共に園児の活動に合わせて保育者の仕事の内容を説明する。園児の登園前にはすでに保育室の環境を整えるところから始まり、園児の降園後にも大切な仕事があることを、具体例や生徒が園児だった頃を回想しながらすすめていく。自分が通ってきた道なので、比較的イメージしやすいことがみてとれる。体験型の説明会では、園児の主活動の時間に焦点をあて、折り紙を使ったもの、音楽や歌を使ったものを教材として、楽しみながら仕事の内容を理解する。そして、保育の全体像を把握してから、保育者に必要な二つの資格、**保育士**と**幼稚園教諭**について説明する。また、資格の違いと共に保育園と幼稚園の違いも説明する。二つの資格があることは知っていても、どこが違うのか具体的には知らない生徒は多い。そこで、両方の法的根拠や対象児、保育時間等比較していく。さらに、**保育士**と**幼稚園教諭**両方の資格が必要な認定こども園の説明や国が考えている将来構想についても触れて説明をする。

☆ある幼稚園の一日（例）

資料①

時間	一日の流れ	仕事の内容
8:00～8:30		保育室の環境構成、簡易清掃、朝礼 打ち合せ等
8:30～10:00	園児登園 自由遊び	挨拶、健康視診、保護者と会話 家庭からの連絡帳の確認 着替えの援助、見守り 園児たちと遊ぶ
10:00～11:30	一斉保育 主活動	トイレ・手洗いの誘導 朝の活動・出欠しらべ 主活動を行う(学年やクラス単位で行う製作等)
11:45～13:00	給食	テーブル等の用意、配膳、後片付け 歯磨き等の指導や援助
13:00～13:50	自由遊び	連絡帳に返事等書く 園児たちと遊ぶ
13:50～14:30	帰りの活動	帰り支度の援助 絵本や紙芝居を読む 明日へ期待を持たせる
14:30～15:00	降園	園児を送る 保護者と会話
15:00～17:00	清掃 明日の準備	保育室や園舎の清掃 明日の保育の準備や職員会等

②福祉分野体験型

福祉分野の話をするときは、**保育士**も福祉分野なのだということを、必ず付け加える。そこから介護の分野に触れていくのである。

福祉分野の体験授業としてよく行われるものは、白杖とアイマスクを用いた高齢者や障害者の疑似体験である。しかし、最近では小学校や中学校でも行われているので、高校側からは、それ以外の内容で行ってほしい、といわれることがある。そこで、中島は資料②を使用して説明を行った。これは、前述の導入②において、介護福祉分野のイメージづくりに利用しているものであるが、自分自身の生活を振り返り、高齢者も自分らと何ら変わるところがなく、自分らしく生活をし、欲求もあり、楽しいこともしたい、同じ人間としてあたりまえのことを、あたりまえに行えるよう援助する仕事なのだと、気づいてほしいからだ。その上で、介護のイメージを聞いていく。介護の3K から最近では介護の7K といわれるようになった所以など、決してメディアがとりあげているようなマイナスイメージだけでなく、希望や感謝、感動、研究開発等の言葉でプラスのKイメージを考えていく。

そこから、介護に携わるための国家資格**介護福祉士**資格の説明をする。比較的歴史が浅い資格であることや、取得方法、業務内容を説明する。

☆自分の一日を考えてみよう

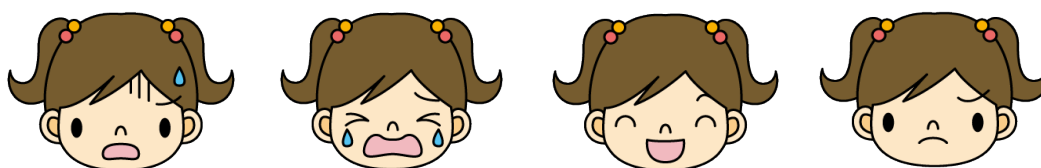
資料②

	現在の自分の生活	好きなこと、こだわり
朝の行動		
午前の行動		
昼の行動		
午後の行動		
夜の行動		

[表情をよみとる] (心を感じとる)

保育者の仕事も介護福祉士の仕事も、ただ単にこなせばよいかというと、そうではなく業務上の重要なポイントがある。例えば、保育園や幼稚園では、初めて集団生活を送る園児たちは日々成長しており、その変化に気づくことが大切になってくる。また、介護現場でも多くが高齢者であり、日々の状態が変わりやすい利用者がいる。その忙しい日々の業務の中で、相手の表情から変化を感じとらなければならない。そこで、資料③を使用し、言葉のないイラストから、どんなことを感じとれるか、どんな気持ちなのかを予想する。保育者としては、園児の笑顔一つとってみても、毎日同じ気持ちでいるとは限らないことを想定して、園児と接しなければならない。幾人にも同じ資料を提供していくと、大人が思いもつかないことを感じ取ることがある。また、互いに意見を自由に出し合うことで、他の人が感じ取ったことも大いに参考になる。

(イラストレーター わたなべ ふみ 子供と動物のイラスト屋さん) より 資料③



表情から気持ちを感じとることは、保育者が朝、園児を迎えた時に必要になる技能で「健康視診」とよばれる仕事である。いつもと同じでないか、体調が悪いのか、もしかして家で何かあったのか、などと推測できる。したがって資料③を提示し、意見交換させることにより、まだ言葉ではうまく伝えられない子どもたちの表情をつかみ、保育者としてどのように接していけばよいのか、知るきっかけとさせている。

実は、子どもたちの表情をよみとる力は朝の健康視診のみならず、一日中必要となる技能である。自由遊びの時間では、集団の中での個々の様子や、園児たちの中でトラブルがあったときなど、その言動や表情から、どのように指導したら良いのかつかむ。また、食事の時にも楽しそうに食べているか、食事は進んでいるか、などいつもと違った表情を感じとらなければならない。

[コミュニケーション技術]

どの職種でも最重要となるものの一つに、「コミュニケーション技術」がある。2010年に中島は、福祉施設に勤務する職員から「新卒の学生に不足していると思われる力はなにか」というアンケートをとった。その結果、35%の職員が「コミュニケーション技術」が不足している、と回答した。これは、保育と同様介護福祉現場でも「コミュニケーション技術」が必要不可欠であることが理解できる。

私たちは、職場だけでなく日々の生活でも様々な人たちと関わっている。そこでは、誰でも「おはようございます」「こんにちは」等、簡単なあいさつはする。しかし、ここに「今日は、良いお天気ですね」と一言付け加えるだけで、わずかでも共有する時間が生まれ、相手の様子を伺い知ることができるのだ。保育者にとって、園児の登園時と降園時の保護者との関わりは、園児に関する情報を得るためにとても重要である。他愛のない話や社会情勢など、保育と関係のない話から、新たな人間関係が生まれ、それは保育者と保護者の信頼関係を築く。その信頼関係こそ質の高い保育をする上で最も重要だと感じている。このことは、介護現場において、利用者及び家族と職員との人間関係にも通じることであろう。

3 保育者の仕事の魅力・やりがい

保育の仕事をしていて、やりがいを感じた時はどんな時か。その一つとして「日ごとに成長を遂げる園児の姿を、間近で感じることができる。」ということだと思われる。子どもは昨日できなかったことが、今日はできた。又、違う表情をした。というふうに日に日に成長を遂げている。例えば、生まれて3~4か月もすると、親の顔と他人の顔の識別ができるようになり、他人に抱かれると泣き出す子もいる。母親から聞くと、「つい昨日までは、誰に抱かれても笑っていたのに」と驚かれることがある。これこそ、その子が成長した瞬間であろう。保育者にとっても、園児の成長した瞬間に立ち会えることは最高の喜びであり、やりがいなのである。そこで、「保育者の仕事の魅力・やりがい」について理解するた

めに、中島は『みかちゃんのおつかい』という短い童話（資料④）を教材として自作した。この童話を生徒たちに提示し、意見交換させる。主人公の“みかちゃん”は、自分の好きな遊びをあとまわしにしても、母親や祖母のために、おつかいに行くという設定である。主人公の気持ちを尊重しつつどんな言葉をかけたら、自主的におつかいに行くことができるのか。母親の気持ちや主人公の気持ちから、子どもの成長とはどういうものかについて、わかりやすく考えてもらうやり方をとった。どこにでもありそうな、親子の話であるが、感性豊かな生徒たちの心の読み取りは、たいへん興味深い。

資料④

♪みかちゃんのおつかい！

あるところに、みかちゃんという5歳の女の子がいました。

ある日、みかちゃんはおかあさんからおつかいを頼られました。近所に住んでいるみかちゃんのおばあちゃんに、手作りのパンを持って行ってほしい、と言われたのです。

そのパンはできたてホヤホヤ、いいにおいがします。

でも、みかちゃんは大好きな絵本をみているところだったので、「あとで・・・」とおかあさんに言いました。

しかし、おかあさんは赤ちゃんがいるので、出かけられません。そして「おばあちゃんはこのできたてのパンが大好きなのよね・・・」とつぶやくように言っています。

それを聞いてみかちゃんは、「おかあさん、わたし行ってくる」と言いました。

☆ このお話を読んであなたなら、みかちゃんに対してどのような言葉をかけてあげますか。

4 適性

(1) 望まれる保育者

どのような人が保育者として望まれるのか、適性についても触れていく。生徒たちに、「どんな保育者が良いと思うか？」と問うと、明るい人、元気な人、いつも笑顔でいる人、などがあがってくる。技術面からいうと、ピアノの上手な人、折り紙や紙芝居を読むことが上手な人などもでてくる。しかし、それだけではないことを付け加える。本校の指導方針でもある「思いやりと気働きができること」「協調性と奉仕の心のあること」も具体例をあげて説明するようにしている。一番理解しやすいのは、「自分の家族を託したいと思う人はどんな人？」である。自分の大切な家族に置き換えてみるとわかりやすいようである。これは介護福祉現場にも同じことが言える。

(2) 高校生のうちからできること、やっておくこと

最後に下記の4項目を説明し、進路説明のまとめをしている。

①今、毎日学んでいる勉強をしっかりとっておく。

保育や福祉には数学も物理も関係ないから、と考えている生徒もいるだろう。しかし、基礎学力を高めておくことは、その後の専門知識を身に着けるうえで重要になってくることは間違いない。

②国語の表現を大切にすること。

文章は、その情報を人に伝える手段であるので、どの職種や職場においても重要視される。保育者は、園と家庭との懸け橋となる連絡帳の記入や園だより、クラスだより発行など、毎日の業務に国語表現は欠かすことができない。また、介護福祉の現場でも、利用者に関する記録を残し、同じ情報を共有し、多職種でチームを組み、一人の利用者のより良い介護をするために、なくてはならないものである。今から意識して取り組むことは、とても大切である。

③ピアノに触れておく。

保育者であれば、ピアノ技術がない人はいないと思うが、少しでも体験しておくことにより、その後の努力の結果に違いがでる。また、子どもたちの情操教育には欠かすことができない技術である。

④健康に気を付ける。

これは、特別説明しなくてもよさそうであるが、意外と高校生たちは、日頃の生活習慣が健康に影響を及ぼすことを、気に留めていない。

5 介護福祉士資格を取得することの意義と職業理解

本校では、**保育士**の資格を指定保育士養成施設で取得した人は、1年間で**介護福祉士**の資格が取得できる「介護福祉専攻科」というコースがある。そこで本校では保育科で**保育士**と**幼稚園教諭**を取得する学生に向けて、**介護福祉士**資格について話をする場合がある。その時は資料⑤で、保育実習などで感じたことを振り返り、共通点を見つけ出す手法をとる。まず自分が保育園や幼稚園で実習を行った時のことを思い起こし、園児にどのように関わったのか考える。生活を共にしながら、心身の成長を促す言葉かけを行い、その子らしさを大切にしながら、保育していたに違いない。年齢や生活環境は大きく違っても、人間として尊ばれることやその人らしく生きることを大切にしていけることは、高齢者も園児も基本的に違いはない。これらをきっかけに、介護福祉分野についても考えるように促した。これは、介護福祉専攻科の卒業生への聞き取り調査を行った結果、「就職しても、保育と介護の両方の知識や技術が応用できるところが強みだ」という声が多いからだ。

☆実習を振り返ってみよう

資料⑤

	園児の活動	保育者としての自分の関わり
朝の活動		
午前の活動		
昼の活動		
午後の活動		
帰りの活動		

(1) 資料のグラフの解説

①高齢社会の実態について

図 1 では、長野市の高齢化率と介護認定率の推移を表している。高齢化率は右肩あがりとなり、自分自身の周りでもごく普通に起こりうる現象として考える材料とした。これからは、一家に一人は介護の知識を持っていることが必要になる時代ではないかと思われる。

②介護福祉士国家試験

平成 27 年度から、**介護福祉士**資格取得方法は「介護福祉士国家試験」を受験するようになる。一般的に受験する側からすると、国家試験は受験せずに資格は取得したい、と考えるだろう。しかし、介護福祉士の知名度や処遇改善、質を上げると考えると、「国家試験」はぜひ課してほしい。

現場実務者が受験した際の合格率は、図 2 のグラフに示したように厳しい状況である。しかし、本校の「介護福祉専攻科」で 1 年間学んだ学生は「介護福祉士卒業時共通試験」を行った得点結果からも、国家試験の合格基準に達していることが、過去 5 年間の資料から読み取れる。また、介護福祉士として、5 年間勤務するとケアマネージャーの受験資格が得られ、新たな資格取得と共に、仕事や人間関係にも幅がでる。学生には、このような実情をふまえたうえでの、先を見越した進路選択が望まれる。

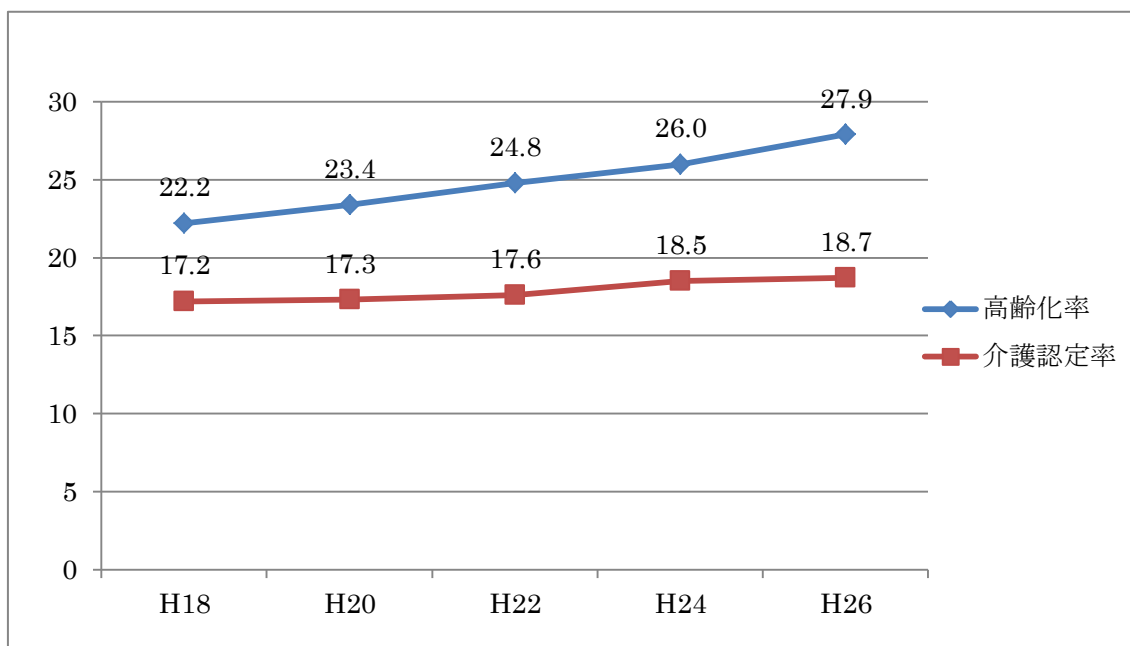


図 1 長野市の高齢化率及び介護認定率の推移

(単位%)

長野市介護保険に関する資料より (平成 24 年 6 月)

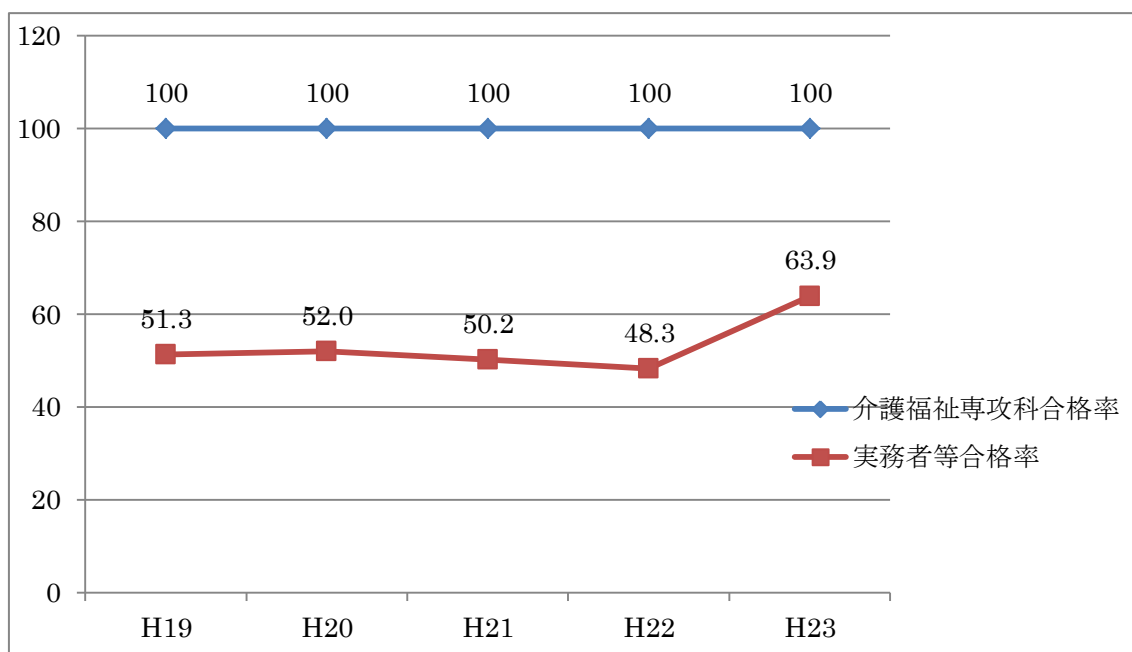


図 2 実務者等との合格率の比較

(単位%)

厚生労働省ホームページより

6 考察とまとめ

進路説明会では、生徒自身が、興味・関心を持った職業や資格について、理解を深めていくように工夫してきたつもりである。進路に係わる重要項目を一つ一つ分析してみると、難しそうで、大変そうなイメージをもつかもしい。しかし、国が認めた資格であり、厳しい社会の中で、人に関わる大切な仕事に就くことを考えると、誰でも簡単にできるということではない。**保育士**や**幼稚園教諭**は、「子どもたちのお手本となること、指導する立場、先生と呼ばれるにふさわしい人」でなければならない。また、**介護福祉士**は、「人間の尊厳を守り一人ひとりを理解し、その人らしさを大切にできる人」が望ましい。さらに、保育分野でも、介護福祉分野でも、社会で働くことの厳しさは同じであり、自分自身の内面は常に磨くよう努力が必要であるということも理解して欲しい。

進路説明を行う度に中島自身は、はたして、今日の説明は生徒たちに妥当な内容だったのか、意味があったのか、理解してもらえたのか、教材や資料は参考になったのか、そしてキャリア発達は促せたのか自問自答し、実状に合わせて、その内容に改善を重ねながら充実を計ってきた。そして現在も新たな試みを模索中である。生徒たち一人一人が、早い段階で今の自分や時間を大切に、また、今の学びをしっかりとやりぬき、自分の将来像を描いてくれることを願う。

〈文献〉

中島智子（2010）介護福祉士養成課程において「福祉レクリエーション」を学ぶことの意義：福祉現場職員に対する意識調査の結果から 文化女子大学長野専門学校研究紀要，2，45 - 54

〈参考サイト〉

イラストレーター わたなべ ふみ 子供と動物のイラスト屋さん 文献

一農村における大正デモクラシー

(老人からの聞き書きをもとに)

堀込 捷雄

A Memoir of Taisho Democracy in a Farmer Village:
Based on Interviews with an Elderly
Who Lived through the Meiji-Taisho-Showa Periods

HORIGOME, Hayao

キーワード : 山本 鼎 農民美術 自由画教育 タカクラ・テル

はじめに

これは、昭和 50 年代後半に明治・大正・昭和と生き抜いた老人から聞き取ったメモ書きをもとに、それに関わる資料から裏付けを取りながら構成したものである。

黎明期

大正デモクラシーという言葉は今でも新鮮な響きをもって私たちに迫ってくる。竹久夢二の描く目の潤んだ夢二調美人が当時の婦女子の気持ちをとりえて一世を風靡していた頃、神川地方でも新しい光を求めて様々な動きが興っていた。

神川とは、上田市の東側に隣接する村で、村全体を通して傾斜地がほとんどなく、広々とした純農村地帯であり、村の中央部を菅平に源を発する神川が流れている。(神川村は 1956 年上田市と合併)

この川は、1585 年徳川 8500 の大軍に真田昌幸・幸村勢 1300 をもって対峙し、大勝して天下に「真田強し」の名をとどろかせた神川合戦の地でもある。今では水量も少なく川の兩岸にはアカシアの木が繁り、夏には白い花が一面に咲き乱れている。またこの上を国道 18 号線が走り、大屋・上田間は県内最大の交通渋滞地区となっている。

こんな一農村に大正デモクラシーの息吹が見えはじめたのは明治 37 年のことである。この年の平民新聞の 5 月 15 日号に信州神川村に労働組合の設立された記事が載った。「千曲河畔百戸に満たざる小村なれど、社会主義に熱心な者すでに数名あり」(略)「8 時間労働と

いえば、世人はあまり短時間とすぐ考えるけれど、これは大いなる間違いである」と書かれている。また、同年、神川地区の青年24・5名は、「平民新聞」・「光」・「直言」などの雑誌を取り次いで購読する会も作っていた。

先取性のあるこの地にフランス・北欧・ロシア等の滞在を終えた山本鼎が移り住むことになったのは大正5年のことである。山本の父は愛知県岡崎市の出身であるが、大屋（神川村大屋）で歯科医を営んでいた。ここに居を構えた山本は神川小学校を拠点として様々な運動を展開していった。

自由画教育

明治36年以降、全国の小学校では国定教科書が使われるようになった。この中で図画の教科書は「毛筆」と「鉛筆」に内容が分かれ「毛筆」は日本画系統、「鉛筆」は洋画系統で、それぞれ臨画中心の教育が行われていた。臨画とは手本の絵をまねて描く方法である。教科書には、人・動物・植物・風景など千点以上が載っており、そのほとんどが無名の画家によるもので芸術性という面では何ら価値のないものであった。「簡素な数条の白線を以て黒板の上に設された物象の略図、而もそれが十千萬言のる述を以てしてもなお及ばない力を以て学童に働きかけるのは、人の常に経験するところなり」これは、当時洋画壇で最高の權威を誇っていた帝国美術院の岡田三郎助（飯綱町「丹霞峽」の命名者）が書いた学校用図書からの引用文である。

図画教育に対して無知な人々ならともかく、このような西洋絵画の全てを吸収しようとしていた人でさえも学校教育に対する臨画を何ら疑うことなく、むしろ推奨していたのである。

山本は、西洋から帰国するなり、それらの教育に対して痛烈な批判を浴びせた。「小学校で、いかがわしい臨画教育にまず、自然観の自由を奪われ、だんだん人工の趣味に毒せられて、終に洞察の目を永久に失われてしまうのです」（油絵の描き方・山本鼎）

西洋帰りの山本のユートピア的考えに、当時の人々は深く感動し共鳴した。中でも後に上田自由大学設立の中心人物となる金井正や神川小学校の岡崎袈裟男校長は、この考え方を理解し事実上の推進者となっていた。

臨画に代わるべき山本の考えは「自然から学べ」ということであり、この考えをもとに最初の自由画教育（初期のころは思想画と呼んでいた）を実践したのは神川小の教師たちであった。当時、神川小の図画教育は水彩絵の具を用いて臨画教育を行っていた。水彩絵の具といっても今あるようなチューブに入ったものではなく、パレットの枠に固形の絵の具が色ごとに配されたもので、色が濁ったり燻ったりして技術的にも小学生には難しいものであった。

そこで先ず、小学生にとって最も表現しやすい材料として水彩絵の具に代えてクレヨンやクレパスを使用させることにした。題材も臨画から離れ主に風景写生へと切り替えてい

った。

自由奔放に描くことのできるクレパスを与えられた子どもたちは、明るい陽の光のもとで新鮮な空気に触れ、小鳥の声や小川のせせらぎを聞きながら描くさまは、まさに印象派の人々が初めて戸外へ出て写生をしたときと同じであったと思われる。子どもたちは大喜びで何時間も夢中になって眼前の自然と向き合った。一枚の作品に 35 時間かけたという子どももいて教師たちを驚かせたという。

だが、実際には、自由画を指導したはずの神川小の教師たちはただ手をこまねいているだけだった。「わがままいっぱいにするまでもよい。何でもよいからやりたいことは徹底的にやってもらいたい。種々の気遣いをしたり、びくびくしたりしていたのでは面白いものはいつになってもできない。自分がそう感じた以上は、赤い花を緑に描いても差し支えない。自分の心に誠実ならば他人に対して服従する必要はない」と、矢継ぎ早に言をまくしたてる山本の刺激の強い言葉を聞けば聞くほど、見識のない教師が絵について口を出すことは邪道であり、絵をだめにしてしまうと自信を無くしていたからだ。教育会から絵の指導に来て、子どもの方が進んでいて講師はほとんど手が出せない状態だったという。

第 1 回自由画展は、大正 8 年 4 月 27 日・28 日の両日神川小学校で行われた。参加校は、小県郡 34 校、その他 20 校、一幼稚園で 1 万点弱の出品があり 7,000 人の児童が参観した。「安価な臨画主義にならずで形式的形骸品の羅列に止まる、わが国従来単なる成績品展覧会に対しての強い目覚めの第一矢であった」と、岡崎校長が言っているように、山本の考えを実践を通して示して見せた。従来絵に見慣れた人たちには強烈な印象と戸惑いを与えたが、それが自由画教育の成果であったことは誰の目にも明白であった。中でも山本の直接指導のもとで行われた神川小の作品は群を抜いていた。

それ以後、山本を指導者として招く学校が多くなり、次に小県郡和小学校（現東御市）で行われた自由画展のときは郡全体のレベルが一層向上していた。

大正 9 年から 10 年、山本は全国各地を自由画の意味を説いてまわった。その間、北原白秋（妹は山本と結婚）等と「日本自由画教育協会」をつくり、雑誌「芸術自由教育」を創刊した。その結果、この運動は全国各地へ波及し賛否両論の渦巻く中、昭和 7 年文部省はついに児童の自由な観察描写を重視した教科書を発行して、臨画の教材削減に踏み切った。この教科書は「尋常小学図画」といい、「思想画」（遠足・運動会・農作業・家族の手伝いなど目の前にないテーマをとりあげた）、「写生画」、「臨画」の 3 つの分野に分かれていた。運動初期のころ自由画を思想画と呼んでいた山本の考えも十分取り入れられた内容であったと思われる。

農民美術

革命前のロシアに滞在した山本は、農民が農閑期の副業として木彫民芸品を制作し、現

金収入として生活に役立てていることに着眼し、「何とか日本の貧困な農民たちにもこの仕事をさせることはできないだろうか」と考えた。

大正8年12月5日、地元の金井正や山越収蔵（後に金井とともに上田自由大学設立に参加）の協力によって第1回農民美術講習会が神川小の応接室と、その隣室に受講生12・3人を集めて開かれた。

長い冬の農閑期の間、趣味と実益を兼ねた副業ができるというので受講生は胸を膨らませてやってきた。中でも国分地区の人々の想いは格別であった。神川村はかつて信濃の国府が置かれた場所で信濃国分寺がある。重文の三重塔はじめ境内は昔ながらの風格を残している。また、1月8日には八日堂縁日があつて近隣近在からおよそ8万人の人出で賑わう。そこでは蘇民将来という柳細工の6角柱の縁起物が売り出される。形は単純であるが、大きいものは30センチくらいから小さいものは5ミリくらいまであつて、作成にはかなりの技術が必要である。これを作っていた国分地区の人たちが自信をもってやってきたことは当然である。

講師は、山崎省三、村山桂次、吉田白嶺など一流の画家が東京から次々にやってきた。絵描きである彼らは、工芸をやるにしても美術的な基礎が大切であると考えて静物スケッチを徹底してやらせた。その中で工芸に施してもよさそうなものを指示しては、盆・壁掛け・状差し・人形・小箱・楊枝立てなどに彫らせた。

会場は当初、神川小学校を借りていたが副業として収入を得ようとする目的をもっていたため、学校使用を中止して国分の金井正の蚕室に移って制作を続けた。このことは、他から批判の出ないうちにと金井の農民美術を守り育てようとする心遣いからであった。そして、そこは「農民美術練習所」と名付けられた。

大正9年9月5日には、東京の三越デパートで最初の「農民美術練習所作品展示即売会」を開いて好評を得た。その後も山本の口利きで三越デパートを主に作品の販売が行われ売り上げも順調であった。

大正12年になると「日本美術研究所」という洋風のモダンな建物が大屋駅北側の高台に建てられた。山本は、この研究所の世話役として画家の倉田白羊（春陽会設立者の一人）を招いた。要請を聞いた倉田は快く引き受けて神科村（神川村の北西）に住居を構えて農民美術の事実上の推進者となっていた。

倉田の指導が始まってからというのは、制作された作品のすべては倉田によって審査され、商品になり得るか否かが決定された。今まで楽しく気楽にやっていた人たちも安易な気持ちではいられなくなった。受講生たちは家に帰っても遅くまで制作に打ち込んだ。だが、蘇民将来を手掛けていた人たちも倉田の厳しい審査の前にはなかなか合格点を得ることはできなかった。その中で、のちに第17回信毎文化勲章を受章する中村實だけはいつも合格点ももらっていた。そのため、中村以外の受講生が集まって倉田の審査を拒否する動きが出たりして関係者を慌てさせたこともあった。古い農村生活の中で文化とは全く関

係のないところで生きてきた農民たちにとって、工芸におけるモダンなデザインが簡単には馴染まないことを物語っていた。

大屋の研究所は国と県の補助を受け、また金井正や山越修蔵らの地元資産家が受講生の出費をできるだけ少なくしようとする配慮のもと、理想的運営方法により昭和 14 年まで続いた。この間、全国ほとんどの都道府県に作業所が作られ、中村實が中心になって指導に歩いた。このように、一旦は全国に広まった農民美術であったが、現在は上田地方の他に大町・白馬方面にわずかに残るだけである。

第三運動の発展

神川で興した山本の自由画・農民美術の二つの運動は、大正デモクラシーの二大潮流であった社会主義とも白樺派とも何ら関係なく、山本個人の考えによって進められていたが、そこに集まってきた人たちは必ずしもそうではなかった。中でも、小説家で京都の都新聞にプロレタリア小説「百姓の唄」を連載していたタカクラ・テルやその挿絵を描いていた倉田白羊は社会主義に傾倒していた。

江戸時代末期、耕地の交換分合や自己所有地に見合った居宅を移すなど、下総の宿内部落を実現した大原幽学を世界最初の産業共同組合設立者と決めつけて（世界文化社・日本歴史シリーズ）幽学研究の第一人者であったタカクラは、何とか自分も農村に入って幽学のように理想郷を実現してみたいと考えていた。たまたま、上田は幽学の住んだことのある地でもあった。

自由大学のこともあって上田にやってきたタカクラは、大正 11 年から別所温泉に住み、自由画や農民美術への援助はもちろんであったが、それ以上に農民運動に没頭した。夜になると龍洞院（神川村上青木にある寺院）に青年を集めてはトルストイの話をしたり革命指導について論じたりした。その帰りに寺の隣にある青年教師の家に寄っての夕食を楽しみにしていた。（注；聞き取りの老人宅）教師である青年は弾圧が厳しくなっていた折、会合に出席することは控えていたが、何とかタカクラの力になろうと考えていた。そして、思想・哲学・文学などを研究する「路（みち）の会」を結成し、機関誌「路」を定期的に発行することによって、農民に新しい世の中の動きや考えを徐々に浸透させていった。

昭和 4 年 3 月 4 日、激しい恐慌のもと、社会運動が激化し、治安維持法に最も強く反対していた山本宣治（タカクラの姉は山本宣治と結婚）は東京神田の旅館で右翼によって暗殺された。その日も龍洞院での講演後、青年教師宅で夕食を摂っていたタカクラは、山本宣治暗殺の報に血相を変えて東京へ向かった。山本宣治は 4 日前の 3 月 1 日には別所温泉のタカクラ宅で一泊し帰京したばかりであった。

翌年「生命は短し、科学は長し」の山本宣治の句をラテン語で刻んだ碑が、別所のタカクラ宅前に建てられたが撤去を命じられた。だが、碑は別所温泉の柏屋別荘の斎藤氏により密かに保存され、戦後再び除幕式が行われた。

その後、タカクラは日本プロレタリア作家同盟長野県支部を組織したりしたが、あまり大きな影響を与え得なかった。なぜなら「上田付近の青年たちは、眼前の資本主義に対しての不満は敏感に感じ取ってはいたものの、所得が平均化されていて階級対立の激化は見られず、資本主義社会を改良する方向を選んでいて（上田近代史）」ことが、プロレタリア作家タカクラに師事する者が限られた数であったことが原因と考えられる。

また、当時「父帰る」において大衆の共感を全面的に獲得していた菊池寛に対して、痛烈な批判論文を発表していたことも原因と考えられる。

その後、戦争が激しくなり、自由画教育や農民美術を一身に受け止めて生き抜いてきた人たちも、また、龍洞院に集まって革命思想を本気になって聞いた人たちも結局は何らかの形で戦争加担者となっていた。

だが、タカクラだけは何度投獄されても自分の説を曲げることはなかった。タカクラは土佐の武家の生まれであった。

その後

昭和19年、八王子の久保田農場を指導して検挙されたタカクラは、警視庁の正面玄関から脱走し、三木清は彼を一晩かくまっただけで捕えられ、敗戦後の9月26日獄死した。

タカクラは、再び別所温泉に戻って農民運動に打ち込み、後に衆議院議員になって活躍した。また、美濃部亮吉が初めて東京都知事選に出馬したときの共産党予定候補者にもなった。さらに、蔵原惟人とともに、共産党文化論の理論的指導者でもあった。

山本鼎は、昭和21年上田で没した。自由大学・農民美術・自由画の立役者であった金井正は一線から退いて農業に専念した。中村實ら4・5名は専業としての作品制作を始めた。農民美術研究所の廃止や山本の死によって心の支えを失った彼らは、個々の販路を求めて作品の普及に努めた。そして、彼らを師として作品を習うものも増えてきたが、基礎的な訓練もないまま生活の貧しさゆえ製品を売ることに専念したため農民美術の格調が下がり、他の地方の低俗なみやげ品と何ら変わらなくなってしまった。

そこで、昭和30年ごろ、神川で山本や倉田と親交の深かった者10名ほどが集まり「山本の偉業を讃える記念館をつくり、その中に自由画や農民美術の初期の作品を陳列し、実際に農民美術の指導をして作品の向上を図ったかどうか」と話し合いがもたれた。

当時、長野県下に個人の偉業を忍んだ記念館は、礫山館と一茶記念館があるのみであった。礫山や一茶に比較して果たして記念館をつくるほどの功績のあった人かと疑う人も多く、また、山本が上田市の生まれでない（愛知県岡崎市生まれ）こともあって記念館建設は困難を極めた。

上小教育会（上田市・小県郡）が、山本の他に倉田白羊、石井鶴三（大正13年から上小彫塑研究会の講師）を含めた三人の記念館をつくろうと主張したことは、教育会の中に直接、倉田・石井に師事した人が多かったとはいえ、当会の中にすら山本の自由画教育の意

味を十分に理解している人が少なかったとも言える。

山本を讃える記念館は昭和 37 年、多くの県民や画家（画家としての山本は倉田、山崎省三などととも春陽会を結成した）などの寄付を仰いで上田城跡に建設された。（注；記念館の石碑の揮毫は聞き取りの老人）

聞き取りを終えたしばらく後の昭和 56 年 10 月 26 日、老人は自宅の縁側で読書をしながら息を引き取った。享年 84 歳であった。

《参考文献》

- 家永三郎 新講 日本史 （三省堂 1986 年）
小崎軍司 しなの美術散歩 （信濃毎日新聞社 1971 年）
清水利夫 小県上田歴史年表 （上小郷土叢書 1955 年）
山本 鼎 油絵の描き方 （アリス 1917 年）

ペスタロッチの思想と人間像について

竹前 健治

Johann Heinrich Pestalozzi : His Thought and Profile

TAKEMAE, Kenji

キーワード : 教育観 メトード 隠者の夕暮 フレーベル 留岡幸助

I はじめに

子どもに関する見方、いわゆる児童観の歴史的経過を見ると、成長発達や教育福祉といった観点、特に教育面で捉えると、ペスタロッチの存在は非常に大きな位置を占めることになる。ペスタロッチは近代教育の父とまで言われ、後世まで教育者の鏡と讃えられている。

児童観の変遷を見ると、フランスのルソーの人間平等思想、子どもの人権、成長発達に関する思想の発信に始まり、その後のフランス革命へと流れていくが、改革の波の中でペスタロッチは近代教育を確立させ、金字塔を打ち立てた人といえる。彼は新しい教育、学校改革など、思想だけでなく実際の場面で展開し、業績を残してきた。

こうした活動の流れは、世界に大きな影響を与えている。ドイツではフレーベルの幼稚園教育につながり、日本でも「岡山孤児院」を創立した石井十次や感化事業で「家庭学校」を創設した留岡幸助にも反映し、その後の大正から昭和にかけて、日本の学校教育を考えたときにも、ペスタロッチの存在抜きには考えられないほどの影響力を与えている。

わが校舎の廊下の壁面にもグローブの画による、子どもたちと一緒にいるシュタンツのペスタロッチの絵が掲げられている。これは戦後 1951 年版の「学習指導要領の社会科篇(試案)」の表紙に載ったものと同じものと思われるが、日本の教育界にペスタロッチの存在を知らしめるものの一つといえる。

そんなペスタロッチの人間像に焦点を当てながら、彼の業績とその後の展開を探ってみたい。

2 ヨハン・ハインリッヒ・ペスタロッチの概観

ペスタロッチは 1746 年スイスのチューリッヒで誕生する。父は 5 歳の時病死する。17 歳の時カール大学入学、哲学、文献学を履修するが、19 歳の時大学を中退する。その後 23

歳の時農場経営に着手、アンナ＝シュルテスと結婚する。24歳の時息子ハンス＝ヤーコブ誕生する。34歳の時、経営者としての才能があまりなかったようで農場経営は破綻している。その後、農村における貧しい子どもたちに出会い、子どもたちを集めて学校を開くことを思い付き、ノイホーフに貧民学校を開設する。子どもたちが経済的に自立できるだけの職業的技術を身に付けさせようとしたこの実践が、ノイホーフでの教育実践となる。その年に『隠者の夕暮れ』を発表し、翌年、民衆が貧困から抜け出すための教育や、生活の方法について、物語の形式をとって民衆向けに述べた小説『リーンハルトとゲルトルート』を刊行している。この貧民学校の教育実践も寄付による資金が不足したりして、経営面で行き詰まる。

シュタンツという街は、当時フランス革命後の民主主義の思想をヨーロッパ全体に広めようとしていたフランス軍に攻撃され、多数の死傷者が出て、同時に多くの孤児が発生した。当時の文部大臣シュタッパーは孤児のための学校を開くようペスタロッチに要請した。そこでペスタロッチは52歳でシュタンツ孤児院長に着任している。53歳時そこでの活動記録『シュタンツ便り』を執筆している。さらにブルクドルフ城に移り教育を実践する。58歳の時にはミュンヘンブッフゼーに移転し、ペスタロッチ学園とし、イヴェルドンに女子学園を開設する。この頃からペスタロッチの教育方法（メトード）が知れ渡るようになり、学園への視察が増え世界から注目されるようになった。

しかし、興隆を誇っていたペスタロッチの学園は、園の運営や経営に絡み、訴訟問題が起り崩壊の道をたどることになる。79歳の時学園を放棄し、ノイホーフに戻りヘルヴェーチア協会の会長になる。翌年ペスタロッチの事業の発展や衰微に対する心理的な弁明としての彼の伝記である『ブルクドルフとイヴェルドンにおける教育施設の校長としての私の生涯の運命』及び『白鳥の歌』を刊行する。

81歳でブルックにて死去する。

3 ペスタロッチの人間像

ペスタロッチの祖父は村の牧師、父は外科医であったが33歳、ペスタロッチ5歳の時病気で亡くなっている。母は内気な婦人であったが、彼にはあふれるばかりの愛情で育て上げている。その上教養はないが一人の忠実なお手伝いのバルバラ＝シュミットが夫人の片腕となり、40年以上もペスタロッチのもとで奉公し、家計を切り盛りし、子どもたちの教育に協力した。母性に育まれ、その影響のもとで彼は寛大さや善を呼び覚ますことになる。ちなみにフレーベルは9か月で母を亡くしている。ルソーは生後数日で母を亡くし、父とも早くから生き別れ、孤児同然に育っている。

教育面では母親や祖父から家庭的な指導を受け、学校教育でも当時の市民として最良の教育を享受した。彼の成績にはかなりのむらがあり、学科に関しては出来が悪く、音楽も図工もまるで駄目だったと記されている。教育者からは厄介者の落ちこぼれとみなされていたらしい。長尾十三二・福田弘（1991）「ペスタロッチ 人と思想 105」によると、「大

学でも、気に入らない先生のギリシャ語訳の向こうを張って別のギリシャ語訳を発表することがあった。また、自分のやりたい勉強や運動に専念するために大学を中退した。遊びにおいても不器用でへたくそであった。およそ世間的な駆け引きができなく、経営能力が皆無で社会生活を営む上で欠陥だらけの性格の持ち主だった。また、彼の曲がった背中や生活の手荷物を担ぎ無頓着な風貌は、乞食かと間違えられるほどであった。くしゃくしゃ髪で無精な服装をし、あばた面の小男で、絶えず動き回り、チューリッヒ方言でせっかちに語る話は理解しにくかったようだ。ただ一方の見方からすると、感情豊かで夢想家で単純素朴で、しかも個性的だった。散歩中子どもに合えばその子を抱き上げ頬ずりし、通りで乞食に出合えば持ち合わせていたものをすっかり与えた」とペスタロッチの人格像を記している。彼の献身は超人的でただ他人の事ばかり考え、何の感謝も期待しなかった。すべての人々の幸福のために努力することは私の本性であったと本人自身述懐している。また、教育にかける彼の思いは非常に熱情的であったといえる。

教師としてのペスタロッチの実力は、授業の名人とか生徒の人気の素晴らしかったとかの記録はない。字を書くことが下手だったし歌うことも上手ではなかった。

アンナと結婚したのは23歳の時でペスタロッチは八歳若かった。醜男で変人と見られていたが、2年に亘る婚約時代を経て結婚することになるが、彼女はペスタロッチのうちに誠実な心情とすぐれた精神を認めていた。敬虔なクリスチャンであるアンナは神に誓って全面的にかつ永久に献身しようと決意した。ペスタロッチが「徳」によって自分を「完全性」へ導いてくれるだろうことを知っていた。24歳の時息子ハンス＝ヤーコブ誕生するが、てんかんの障害を持つようになる。ヤーコブは31歳で病死している。

ペスタロッチに影響を与えた人としてあげることができるのは、母親と先に示したお手伝いのシュミットがいたが、もう一人気高い女性の友人ハルヴィール男爵夫人がいる。貧民学校挫折後の苦難の時代に、彼女の家で安らぎを見出し、アンナ夫人に対しても心の支えになってくれた人である。男性的影響を与えたのは祖父のアンドレアス＝ペスタロッチで、彼は村の牧師で村民に宗教的・道徳的・家庭的な面で指導助言を行い、民衆教育を行った。女性から無条件の愛情を得ながら育ち、民衆教育を行った祖父の影響を受けたことがペスタロッチの善良で世話好きなパーソナリティーを醸成する要因になったと思われる。

次に、どのようにして厄介者で、落ちこぼれとみなされていたペスタロッチが、著作活動に入り、さらに教育実践を通して教育の父といわれるようになったのか考えてみたい。

著作活動が始まったのは農業経営が失敗した30歳頃で、当時の指導的な社会政策家たちと接触するようになり、その活動母体の「ヘルヴェーチア協会」の会員となり、活動が始まった。この時期に、懸賞問題『国の福祉が商業に依存する小さな共和国では、市民の奢侈をどの程度制限するのが適当か』の論文に一等賞を獲得している。この頃から民衆を研究し、現にある人間の描写をした小説『リーンハルトとゲルトルート・民衆の書』、人間の使命についての綱要『隠者の夕暮れ』など次々と書物で発表している。ルソーも懸賞論文に当選し小説を発表するころに至高体験を経験しているが、それまで文章を書くことは得

意でなかったペスタロッチにも似たような生い立ちを感じる。著作活動が実際的な教育活動に生かされ、こうした民衆教育に身を捧げることが彼の人世における天命として感じられるようになっていった。

4 思想

ペスタロッチの思想は『隠者の夕暮』（1780年）の中に述べられていて、人間のあるべき目標を示している。人間とは何か、すべての人間の人間性への教育という観点で、キリスト教の信仰のもと神を生活圏の中心に置き、愛をすべての人間関係の前提であり、究極の目的であるとしている。

自然の真理感が人間を導くとしている点はルソーの影響を受けているが、ペスタロッチの自然観は、生活の中の体験の中に真理を見出し、原理を形成するとするもので、人間の本性が生活の中に出るといった意味の自然観であり、人間関係の最も近い家族の関係に真理を見出すとしている。人間の本性は無制限に善である（性善説）とは信じず、放任されると生まれついた粗野となり、軽率となり、貪欲となる人間と、制約や規則やさらに強制によって全く異なった人になる市民社会の人間と区別できると主張している。民衆教育は民衆を信頼できる平和な人間に、低い本性から高い本性に変えるものであるとしている。

彼の宗教観は『隠者の夕暮』からも見られるように、単なる自然宗教的なものではなく、宗教改革の根本精神に通じる要素があった。「宗教は人間のためにあり、道徳的内容を持っている。自らの力を信じて人生を送り、自分の力に信用が及ばないときは静かに振り返り、神に祈るという生き方をする」との心情であった。ペスタロッチの教育観については、自然による教育を重視しているが、無理がなく、しかも充実した教育で、常に真実の幸福を伴う自然教育ということであり、ルソーのなるべく手を加えず、自然を重視する消極的教育に対して、より積極的な教育論を持っていた。自然の道とは無理や圧迫がない充実した生活の道であり、自然による教育とは、無理なくしかも充実した教育で、常に真実の幸福を伴うものである。

教育思想をまとめてみると、次の三点にある。

- 1) 教育には家庭の温かさが必要で、家庭教育の中に道徳的人間が育成される。
- 2) 初めて民衆・貧民が教育の対象として位置付けられ、読み・書き・算術だけでなく、人格の形成というところまで含めて教育を定義した。『シュタンツ便り』にも述べられているが、貧民あるいはどんな不良な子どもの中にも神より与えられた人間性の力があると信じている。彼は貧しい子は「神の似姿だ!」とし、人間はどのような境遇にいても、また、どのような仕事に携わっていても等しく善なるものへ導かれる資格があり、貧民も民衆の子どももすべて同じ人間であるとして教育実践をしている。
- 3) 学校教育の方法論を確立した。彼の教育方法をメトードと呼んで、直観教授・感覚器官を鍛えて直感から理性へと向けた方法をとっている。

革命前の18世紀、フランスでは第一階級（聖職者）、第二階級（貴族）、第三階級（平民）

の身分階級があつて、第一階級と第二階級には免税の特権が与えられていた。ペスタロッチの祖国スイスも例外ではなかった。フランス革命やルソーの影響を大きく受けたペスタロッチは、法律を専攻し社会を改革しようと試みたが、チューリヒ市当局からにらまれ断念している。革命に対する立場は、人民の側に加担した積極的関与とは一線を画し、教育による国家改造を目指していたので、学校を開き、貧民学校の経営に乗り出す（教育改革）ことが彼の使命であつた。当時の上流階級ないし支配階級に欠けているものは何よりも愛だとして、教育面からの社会改革の血を湧き立たせた。

ペスタロッチの養護観を見るとき参考とするものに、次の論文『立法と嬰兒殺し』（1783年）がある。彼はこの論文で立法に対して提言している。当時スイスの社会問題の一つとして、未婚の母が自分で産んだ子どもを殺すという事件が頻発していた。ペスタロッチは殺人行為をする少女の行為のみに目を奪われるのではなく、原因を見るべきとした。すなわち少女が子を殺すのは絶望のためで、不実な男にだまされて不幸を背負い絶望に至ったことを考えると、少女をだました男に対してこそ罰則を向けるべきとして、少女の保護策を提言している。

結婚が困難で未婚の女性に対して、国家は不妊の強制をしていた。そういった立場の女性が妊娠することは即嬰兒殺しを意味することになる。彼女は悪意でなく法律の壁による弱さであり、自己防衛として嬰兒殺しを行うこととなる。ペスタロッチはこう言った問題に、女性にのみ責任を負わせるのではなく、根本の改革を指摘し、立法者たちの人間性に訴えながら、婚姻裁判所の改革等の提言を行っている。

彼の養護観はあくまでもキリスト教信仰のもとで、貧者を神の似姿とした目線であり、民衆を助け、人格形成に及ぶ教育をすることが善であるとしたものであつた。

5 教育実践とその影響

ペスタロッチは貧民や孤児に対する施設における養育や教育をシュタンツ、ゲルトルートでやり、さらにイヴェルドンの学校に力を入れる。孤児院活動やその趣旨については『シュタンツだより』に詳しく述べられているが、70人近い子どもの何十年間もの拘束からの解放を図り、もっとも貧困な児童の教育の重要性を強調している。とくに、イヴェルドン学園での教育は当時のヨーロッパでその名が広がり、視察に訪れるものが多く、全国に教育者に大きな影響を与えた。

彼の教育方法は「メトーデ」と呼び、その方法は単純化ないし簡略化し、民衆の子どもたちに直観に基づく適切な概念内容（言葉）を与えるものであつた。子どもたち自身の力や能力を開発することを、経験により獲得しようとするもので、方法としては彼らに学習すべきものを教えることではなく、学習の仕方を教えることであつた。知育のメトーデは自主的に思考し、行動する人格へと子どもを教育するということで、ヨーロッパの文化の墮落はこれまでの学校教育に、「直観」が欠けていたことに起因するとしている。さらに、子どもの周囲の世界は自然界だけでなく、人間の社会（道徳や宗教の世界）をも直視し、

認識する必要があるとしている。

長尾十三二・福田弘「ペスタロッチ」(1993)によると、学園には7歳から12歳までの児童70名がここで生活しており、ほかに約20名のイヴェルドン市内からの通学生がいた。その教育に当たる8名の教師はペスタロッチの指導と助言のもとで、生徒と寝食をともにしながら生活指導と学習指導にあたった。この学園の雰囲気は、あたかもひとつの家族の如くであり、また学習の状況はさながら遊戯を楽しむかのようなようである。「メトーデ」は子どもの認識に応じて教材を選択し、配列しているので、子どもは楽しく速やかに、また確実に、明晰な概念と体系的な知識を学ぶことができる・・・、など、当時の学園の様子やメトーデの実施状況について説明している。

ペスタロッチは人間のすべての行為の基礎を陶冶すべきものとして、すべての能力の基礎陶冶、産業、農業など職業陶冶、個人の醇化と同胞愛のための指導として、徳育すなわち道徳陶冶等を導入した。この「メトーデ」の評判は国際的なものになり、イヴェルドンの学校は教師の養成ないし、教師の現職教育の機能を持つ、教師養成学校の付属実習学校になっていく。

ペスタロッチのイヴェルドンの学校は全欧州の教育界の中心になっていた頃、ドイツの若い教育者のフレーベルは2週間だけ教育を受け、すっかりペスタロッチに心酔して、その教育をドイツに広めていった。

ペスタロッチの人間観は自然本性の考え方に疑問を持ち、自然のままでなく教育を必要としている。ルソーの「エミール」で展開している、人間の本性は善であり、自然のままに育つと立派な人に育つ、という考え方(消極主義の教育論)には異を唱えている。人間は野生のまま成長するに任せておくと、本来の怠惰で無知、無分別で危険や自己の弱点を通じて向う見ずな人になる。このような本質的な面を持つ人間だからこそ、動物の段階にとどまらず人間としてあるとすれば、教育が必要であるとしている。(手記『野蛮と文化について』)

6 日本の教育に及ぼした影響

明治期に全国教育界に風靡したペスタロッチ主義はその後の日本に大きな影響を及ぼすことになるが、ペスタロッチが日本の教育に及ぼした点を、主な人物を取り上げて概説したい。

1) 石井十次(1865-1914)

石井はキリスト教信仰のもと医師を目指していた22歳の時、診療所で2人の子ども連れの女性からその幼い息子を引き取り、この子の養育をすることになる。これをきっかけにして十次のもとに孤児が集まるようになり、岡山孤児院として設立運営に携わることになる。彼は医師の道をなげうって福祉事業の道に入っていく。そして、単なる慈善事業でなく生涯をかけて孤児院の運営に関わる。岡山孤児院は職業的に自活する人間、活力ある人物の育成を目指した孤児教育を行っているが、石井はペスタロッチに多くを学びながら、

共感している。晩年には宮崎県茶臼原へ岡山の孤児院を移転している。

2) 留岡幸助 (1864-1934)

岡山県生まれのクリスチャン。京都の同志社英学校神学科を卒業し、北海道で教戒師として活躍する。アメリカにも留学する。東京豊島区上池袋に「家庭学校」をつくる。その後北海道に「家庭学校」をつくり、不良少年を教育する、いわゆる感化事業を行う。この教育施設が戦前の感化院となり、戦後には教護施設に、さらに児童自立支援施設となって発展してきている。

留岡はペスタロッチの教育思想・方法を取り入れている。特にファミリーシステムを重視した天然の教育という趣のもとでの「家庭学校」という名をつけている。感化院という施設でなく、家庭にして学校という環境のもとで彼らを矯正するのが一番いいと考えたが、次のような点で、ペスタロッチの教育理念や方法に基づいている。

- ① 家族主義—ペスタロッチの学校は父兄からも家庭のように思われていた。
- ② 実物教育—耳より入るより目より入るところの教訓、すなわち実例を重んじた。
- ③ 労作教育—実物教育は労作教育と結びついている。勤労は人心を高尚ならしむと教えている。
- ④ 家事的労役—ペスタロッチは家庭的仕事を重視し、家庭では家事をできるだけ子どもに行わせることがいいと主張している。
- ⑤ 宗教—キリスト教の教えに基づく教育

3) 山下徳治 (1892-1960)

ドイツに留学してペスタロッチの教えを被った。山下によると、「ペスタロッチは社会問題に深く関心を寄せて、政治や法律、労働などを研究したが、この結果として社会及び個人の発生的意義と有機的關係を発見した。殊に人間の感性をその本質において自発的、能動的活動として解釈した。けれど社会の歴史性を客観的に認識するに至らなかった」と評している。

4) 豊田正子 (1922- 2010)

鈴木三重吉の「赤い鳥」は自由でロマン主義的詩精神で、生活の中の出来事を自由に記録していく詩風であった。その「赤い鳥」の影響を受けた大木顕一郎の綴方指導を受けた、尋常小学校4年の少女の作文集が豊田正子の『綴り方教室』である。ペスタロッチは子どもたちの生活と行為とが子どもたち自身を教え導くことを強く求めたが、それはまた生活綴方教師が探究し続けた道でもあった。無着成恭の「山びこ学校」もその流れを汲むものである。

5) 石川啄木 (1886 -1912)

石川啄木はフレーベルの「人間の教育」からの影響ももちろんあったが、ペスタロッチの思想・人間教育の影響が大きかった。啄木は教師を教育の形式をもって教える人と教育の精神を教える人の二種類に分け、教育の真の目的は「人間」を作ることであり、決して学者や技師や事務家や教師や商人や農夫や官吏などを作ることではない。何処までも「人

間」を作ることとした。また、子どもらしさを持ち続けることを主張している。価値ある生活経験を重視、綴方運動へ発展させていった啄木は、ペスタロッチの生活陶冶理念に重きを置いている。

6) 渡辺史 (1905-2002)

渡辺はペスタロッチに憧れ、新興教育運動（プロレタリア教育運動）を起こしている。彼は東京帝国大学セツルメント児童部・託児部を担当し、保育実践をしながら保育運動を進めた。

7) 小西信八 (1854-1938)

小西はペスタロッチの教育理念のもと、日本の聾啞教育の基礎を築いた人物で、筆談に力を入れ発声という動作を書きとめるための表記法を開発し、手話法から口話法の道をつけている。

8) 坂本龍之輔 (1870-1942)

坂本は教育者としての半生を描いた『小説教育者』で、教育は義務でなく権利でなくてはならないとしている。彼の考え方の主なものは、①自主精神（独立・自活）を育むことを最優先とする。学校には工場を付属させ、手に職をつける機会を用意し、勤労の喜びを体験させ、悪い道から更生させ、自尊心を高める。②父兄をも指導教育していく必要性を説いた。③貧民学校の設置は期間を限定し、将来は廃止する目的とした。台東区の一角下谷万年町は貧民窟といわれる地区であったが、そこに貧民学校設立案を当時の東京市教育課に提出し、その結果「万年尋常小学校」が設立することになったが、教育は受ける権利があるとすると彼の考えの実現に広がった。これらの考え方の基になっているのは、ペスタロッチの人間性への教育を生活の中の体験に生かすことにあった。

ペスタロッチに関する日本での動向を戦後に限ってみても、ペスタロッチ記念祭、ペスタロッチ祭など数回行われており、今から30年前の1982年には日本ペスタロッチ・フレール学会が創立している。このように日本の教育界に及ぼすペスタロッチの影響の大きさが感じ取れる。

7 結語

生活教育の思想的源流はルソーにあり、実践的源流はペスタロッチにあるといわれる。ルソーとの比較を見ると、①教育実践を通して理論を確立した。②ルソーの説く貴族の家庭教師という一部の階級の子弟の教育ではなく、広く民衆の教育を考え、貧民教育にも及んだ。③家庭教育でなく、学校教育の方法を確立した。

ペスタロッチの存在をとらえ、理解する大きな手掛かりの一つに、ブルックに没したペスタロッチの生誕百年祭の時に設置された碑銘記念碑がある。そこには次のように刻み込まれている。

「ハインリヒ・ペスタロッチここに眠る。

1746年1月12日チューリヒに生まれ、

1827年2月17日ブルックに没す。

ノイホーフにおいては貧民の救済者、

『リーンハルトとゲルトルート』においては民衆の伝道者、

シュタンツにおいては孤児の父、ブルクドルフとミュンヘンブーゼにおいては新しい民衆学校の創設者。

イヴェルドンにおいては人類の教育者。人間、キリスト者、市民。

すべてを人のためにし、自分にはなにものをも。

彼の名に恵みあれ！」

この碑の中にペスタロッチは要約されているが、さらに考察を加えてみたい。

ペスタロッチは思想の人であると同時に行動の人であった。その点ルソーは思想家であったが実際面では自分の子育てから始まり、何一つできなかったという点においてペスタロッチとは明瞭な違いとして比較をすることができる。ヨーロッパ・スイスでは当時フランス革命に象徴される内乱の時代であって、戦禍によって親を失い孤児となった子どもの教育をどうするかが大きな社会問題になっていた。ペスタロッチはそんな貧しい子は「神の似姿だ」として彼らに対する教育を行っていく。愛情をもって徳性心に訴えながら、心血を注いでいる。貧しい子に限らず、民衆も等しく平等に善なるものへ導かれる資格があるとする彼の思想の根幹は宗教による信仰心である。マザーテレサが最も貧しい者にキリストの姿を重ねていたように、孤児や貧者の幸せの為に神に導かれているペスタロッチがそこに存在する。

ペスタロッチの教育の影響はフレーベルの幼稚園の教育につながり発展し、日本においては教育の基本に置かれたものになり、教育の原点として学校教育に取り入れられていった。初等教育の父と呼ばれたペスタロッチの教育は、明治期から日本の教育界を席卷した。彼はもともと家庭における教育を重視していたが、積極的な学校改革の必要性を感じ学校教育の充実に力を入れた。彼は自らを犠牲にし、他の人々により優れた力を注ぐことに命を懸けた人物といえる。

人権思想の改革はルソーによりなされ、教育の改革はペスタロッチによりなされたといえる。ルソーにしてもペスタロッチについてもその人間像を見たとき、彼らは恵まれた環境で育ったという生い立ちであったわけではなく、むしろ不遇な人生を感じさせる。ただ一途に目標に向かって突進する強烈な個性はどちらにも存在する。ペスタロッチは民衆を発見し、一人ひとりの人間の教育を受ける権利を充実させることに努力し、奮闘してきた。彼の民衆の教育のための思いや情熱は厚く、実現させていく姿は驚嘆に値するが、どこからそんな力が来るのであろうか。信念を貫き通す為に障害を克服していくエネルギー、そんな原動力は彼の宗教心にあるものと思われる。自らを犠牲にして人のために身を捧げ、祈りをもって、民衆の為に貢献したペスタロッチの精神をこれからも伝えていかなければならない。

＜引用文献＞

- 浜田英夫(2009)「ペスタロッシー・フレーベルと日本の近代教育」玉川大学出版部
ケーテ・ジルバー 前原寿訳 (1981)「ペスタロッシー」岩波書店
長尾十三二 福田弘(1993)「ペスタロッシー」清水書院
ペスタロッシー 長田新訳 (1993)「隠者の夕暮れ・シュタンツだより」岩波文庫
竹前健治 (2011)「児童に対する養護観の歴史的展開について」文化学園長野専門学校
研究紀要 3, 27-35
竹前健治 (2010)「ルソーの思想と人間像」文化女子大学長野専門学校研究紀要 2, 33-
43

保育科学生による創作ミュージカルⅡ

- 平成23年度 卒業共同研究発表「エスパー」 -

下平 正恵 石坂 由美子 倉科 深陽

“Esper”

An Original Musical Creation and Performance

by Nursery Training Course Student 2011

SHIMODAIRA, Masae

ISHIZAKA, Yumiko

KURASHINA, Miharuru

キーワード：オリジナル、手作り、ミュージカル、演劇、創作劇、
音楽劇、舞台、表現、ダンス、オペレッタ



1 はじめに

文化学園長野専門学校（23年度より文化女子大学長野専門学校から校名変更）保育科では、卒業研究として、保育科2年生全員が共同でミュージカルの創作及び、発表を行っている。

本校での卒業共同研究発表会の歴史は、平成23年度で第30回目となるが、第12回目から創作ミュージカルの発表となったので、創作ミュージカルの発表回数は第19回目となる。

創作ミュージカルは、毎年ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）の中ホールの舞台にて、午前の部は附属高校生、午後の部は一般の観客を前に発表を行っている。

ミュージカルにおける計画、脚本、大道具、小道具、作曲、ダンス、衣装等は、全てが学生の手作りで、共同創作活動は約1年に亘っている。

そこで、平成23年12月3日（土）に発表が行われた、平成23年度保育科卒業生37名による、卒業共同研究 創作ミュージカル「エスパー」について報告したい。

2 卒業共同研究のねらい

- （1）本校2年間の学習の総まとめとして、脚本・音楽・ダンス・舞台装置などの創作活動を通し、総合的に表現力を高めることはもちろん、創作ミュージカルの発表会を通して企画（計画）力や運営力を身につける。
- （2）成功に向けて互いに励まし合い、認め合い、協力し合い、助け合って、保育科・同学年全体の相互の親睦をはかり、困難を乗り越え、努力しあって、やり遂げた満足感や充実感を味わう。
- （3）地域や高校生・保護者の方々に、本校保育科のことを理解していただくとともに、より質の高い創作ミュージカルの発表を目指すことにより、地域文化の向上に役立つようにする。

<ねらいの補足>

- （1）は、本校での学習成果に重点をおき、主に保育者として必要な個人の技術面の力をつけることを目的としたねらいとなっている。
- （2）は、保育者として、また社会生活においても必要不可欠な、仲間との協調性やコミュニケーション能力などを培うためのねらいとなっている。
- （3）は、地域にねざした本校保育科の存在意義を踏まえるとともに、創作ミュージカル研究の一般公開発表で、ミュージカルの楽しさを伝えることにより、地域の芸術文化への興味関心を高める役割を担うことを目的としたねらいとなっている。

3 係名とその役割分担について

はじめに、クラスから3人の総務係が推薦で選出され、総務係の進行により各係決めがスタートする。それぞれ自分の希望する係を第1から第3候補まで選び、それを総務係がまとめて割り当てていく。係分担が決定したら、係長を選出し、係長中心に活動計画を立て、活動開始となる。

なお1番始めの脚本は、クラスの中で有志が集まり脚本原案を作成する。この原案を「脚本0（ゼロ）版」と呼び、後に決まった脚本係に引き継ぐ。

指導者は本校専任講師で、総務係や係長中心に報告・連絡・相談を行い、係活動が円滑に進むよう指導する。また、日々の練習計画を把握し、演技指導などを行う。

ここでは、係名とその仕事分担を記す。

- <責 任 者> 全体、出欠、練習場管理、健康管理、ブログ管理、その他
- <副 責任者> 会計（集金・支払・会計報告）、責任者同様
- <演 出> 練習企画、演出全般、全体指導
- <合 宿> 合宿全般（合宿冊子・予約・連絡・レク）、招待状・礼状関係
- <宣 伝> マスコミ関係、チラシ配布計画、ポスター掲示計画
- <広 報> ポスター・チラシ・パンフレット・アンケート等作成、ブログ管理
- <記 録> 録画、写真、記録保存、ビデオ撮影、DVD・写真販売
- <脚 本> 脚本、台詞、作詞、脚本製本
- <音楽・音響> 作曲、歌指導、伴奏、音響、効果音、MD管理・操作、キーボード演奏と操作のマスター・管理
- <演技ダンス> 振付・指導、演技・指導、ダンス・指導
- <基礎 技術> 発声練習、身体訓練計画・指導、表現力・指導、ダンスレッスンなどの計画・連絡
- <大 道 具> 舞台装置、大道具一切（材料調達・制作）
- <小 道 具> 小道具一切（材料調達・制作）
- <照 明> 照明一切
- <衣装メイク> 衣装一切（材料・型紙調達、制作計画）顔メイク、髪メイク
- <指 導 者> 学生との報告・連絡・相談、各係活動の把握・指導、練習内容の把握・指導、外部調整など

4 係の組織図

責任者※・副責任者（会計）※・演出※は総務係（推進係）とし、活動計画の立案や進行、指導者との連絡を行う。組織は、総務係を中心とし、大まかに運営担当と技術担当に分かれている。

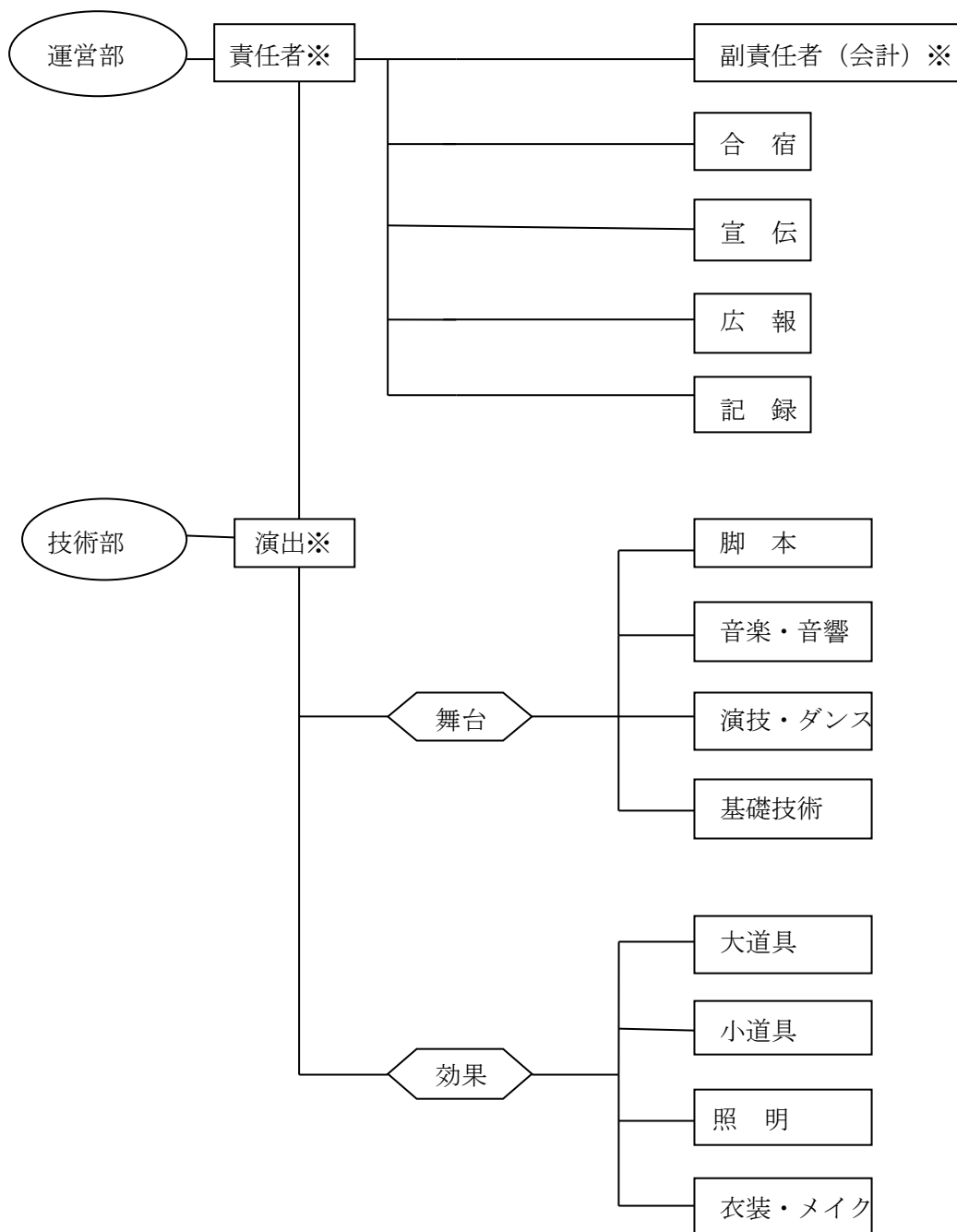


図 1

5 各係の活動内容とその時期

ここでは、各係が実際に活動した時期と内容を記す。

①＜総務係（責任者・副責任者会計）2名＞

表 1

年	月	活動内容
H 2 2 年	1 0 月	係決めの進行・決定 配役決めの進行・決定
〃	1 2 月	共同研究予算案作成（副責任者会計）
H 2 3 年	1 月	春休みの計画 各係活動の進行状況・内容把握
〃	2 月	（実習のため主な活動なし）
〃	3 月	年度末休暇中練習場の確保・管理 稽古用ラインテープ貼り
〃	4 月	練習出欠席把握・指導者への報告、連絡、相談 練習場（各教室）の確保・管理 長野市芸術文化振興事業助成金申請
〃	5 月	ゴールデンウィーク練習場の確保 ミュージカル新聞の発行 中間発表会の進行
〃	6 月	（実習のため主な活動なし）
〃	7 月	夏休み校舎使用許可願作成
〃	8 月	脚本練り直し会議→脚本作り ダンスレッスン計画・実施 合宿実施・総括
〃	9 月	全体計画立て直し
〃	1 0 月	カウントダウンカレンダー作成 発表当日手伝い係の分担と依頼（保育科1年生・介護福祉専攻科へ） 11月練習計画表作成・会場予約
〃	1 1 月	校内発表会アンケート集計結果発表・反省 舞台会社との打ち合わせ ホクト文化ホールとの打ち合わせ 発表前日弁当注文・集金
〃	1 2 月	発表前々日・前日・当日のタイムスケジュール配布 ↓ ホクト文化ホール楽屋などの管理 アンケート集計まとめ 練習場・各教室整理整頓確認・大道具解体計画
H 2 4 年	1 月	卒業共同研究報告会の開催・引き継ぎ
〃	3 月	会計報告（副責任者会計）

②＜総務係（演出）1名＞

表2

年 月	活動内容
H22年 12月	発表前日・当日タイムスケジュール作成 卒業共同研究年間計画作成 1～3月までの係活動計画表作成
H23年 1月	春休みの計画立案 脚本の読み深め
〃 2月	音響確認
〃 3月	音響・ダンス確認 ミュージカル演技練習計画表作成 演技練習進行
〃 4月	ゴールデンウィーク計画
〃 5月	中間発表会の反省・演出修正
〃 6月	（実習のため主な活動なし）
〃 7月	夏季休暇中練習計画作成 合宿練習計画作成
〃 8月	ダンスレッスン進行計画 脚本練り直し
〃 9月	ダンス・歌練習計画作成 10月～本番までの計画表作成
〃 10月	照明係との打ち合わせ 演劇講師との打ち合わせ
〃 11月	ホクト文化ホールとの打ち合わせ 舞台会社との打ち合わせ 校内発表会反省・演出修正 衣装・メイクとの打ち合わせ
〃 12月	発表会前最終確認 発表前日、当日のタイムスケジュール配布 リハーサル前練習の計画・進行 メイキング撮影の計画 大道具解体の進行
H24年 1月	卒業共同研究報告会の開催 引き継ぎ・まとめ

③＜合宿係 1名＞

表 3

年	月	活動内容
H 2 3 年	4 月	合宿レクレーションのアンケート作成 合宿レクレーションの計画
〃	5 月	宿泊施設との電話連絡 (宿泊費、体育館・ピアノ借用願、バスの手配について)
〃	6 月	合宿への引率職員の把握
〃	7 月	合宿しおり作成・配布・読み合わせ 宿泊施設へ最終確認(レクレーション内容、部屋割り等) 合宿しおり宿泊施設へ郵送
〃	8 月	2泊3日の合宿 持ち物の把握、健康管理、施設管理指導、開会式・閉会式司会、 施設の方との連絡 合宿終了後の礼状送付 合宿の反省

④＜宣伝・広報係 1名＞

表4

年 月	活動内容
H22年 1月	宣伝計画の立案 ブログ・パンフレット写真掲載承諾書（学生・職員分）作成 印刷会社の決定・打ち合わせ ブログ更新
〃 2月	チラシ作り
〃 3月	劇団四季「嵐の中の子どもたち」パンフレットにチラシはさみ
〃 4月	各係長の名刺作り（外部交渉用）
〃 5月	保育科ピアノ発表会取材依頼FAX・電話（新聞社） 取材時の応対
〃 7月	ダンスレッスン取材依頼FAX・電話（新聞社） 取材時の応対、新聞記事の配布、新聞社への礼状送付
〃 8月	学校文化祭パンフレットに挟み込む広告印刷
〃 9月	練習風景取材依頼FAX・電話（テレビ局） ポスター最終確認・印刷依頼・ポスター完成
〃 10月	ポスター掲示、チラシ配布計画 チケット完成・専用封筒完成 パンフレット作成スタート 招待状・チケット郵送手配、宣伝活動分担決め
〃 11月	劇団四季「夢から醒めた夢」パンフレットにチラシはさみ 街頭広告チラシ配布計画・実行 校内発表会取材依頼FAX・電話（新聞社・テレビ局） 取材時の応対、記事の配布、新聞社への礼状送付 本番発表時用のアンケート用紙作成 招待状・チケット配布の状況確認 パンフレット用原稿依頼・写真収集 印刷会社との連絡、訂正箇所・印刷状態確認
〃 12月	本番当日の取材依頼FAX・電話 発表後ポスター・広告チラシ回収と確認 チケット半券の確認 記者の方・招待客への礼状送付 アンケート集計まとめ

⑤＜記録係 2名＞

表 5

年	月	活動内容
H 2 3 年	1 月	前年度までの記録の確認 ビデオ撮影・写真撮影計画 機材操作マスター
〃	3 月	各係活動日の確認・活動中の撮影
〃	4 月	係活動・演技練習風景撮影
〃	5 月	中間発表会記録撮影
〃	7 月	集合記念写真の隊形の確認と決定 個人・パート毎記念写真隊形の確認と決定
〃	8 月	合宿練習風景撮影 合宿記念写真撮影
〃	9 月	
〃	1 0 月	
〃	1 1 月	▼ パンフレット用写真撮影 発表当日の撮影を依頼する写真会社、舞台会社、保育科1年生との最終打ち合わせ
〃	1 2 月	当日の写真撮影進行指示 記念写真掲示、発注・販売 記念DVD制作・メイキングDVDの編集 記録保存 まとめ

⑥＜脚本係 1名＞

表 6

年 月	活動内容
H 2 2 年 1 2 月	脚本合宿 「エスパー」 0 版発行 「エスパー」 1 版発行
〃 1 月	「エスパー」 2 版発行
H 2 3 年 3 月	中国の時代研究・人物研究
〃 4 月	演技練習開始 台詞・歌詞・演出部分の変更の把握 場面転換・背景・大道具の把握 演出係との打ち合わせ 「エスパー」 3 版発行
〃 8 月	演出係との打ち合わせ・大幅修正 「エスパー」 4 版発行 合宿中の変更部分把握
〃 1 0 月	「エスパー」 5 版発行 演劇講師との打ち合わせ
〃 1 1 月	演出係との打ち合わせ 「エスパー」 6 版発行 最終版①発行（22 日）・最終版②発行（30 日）
〃 1 2 月	発表当日舞台での台詞を最終脚本として打ち直す
H 2 4 年 2 月	題字・挿絵・楽譜など揃え、製本会社に脚本製本の依頼
〃 3 月	脚本完成・配布 引き継ぎ

作詞一覧

表 7

No.	曲名	No.	曲名
1	夜襲	9	なぜ離れ離れに？
2	僕たちはエスパー	1 0	伝えたいこと
3	2 人は兄弟！？	1 1	両親の仲直り
4	いつか伝わる思い	1 2	家族の絆①
5	アタイたちカマヘズ♥捜索隊	1 3	決意
6	本当なのか？	1 4	新しい国
7	再会	1 5	家族の絆②
8	もうひとつの真実	1 6	家族の絆③

⑦＜音楽・音響係 4名＞

表 8

年 月	活動内容
H 2 2 年 1 2 月	ミュージカル音楽の研究
H 2 3 年 1 月	曲担当決め シンセサイザーで作曲活動開始
〃 2 月	作曲活動
〃 3 月	作曲活動
〃 4 月	パート練習用MD録音 曲おろし・歌おろし 曲修正
〃 5 月	中間発表のMD作り メインテーマ曲作り
〃 7 月	各自曲作り・MDおとし・シンセとり
〃 8 月	
〃 9 月	
〃 1 0 月	
〃 1 1 月	↓ 旋律部分を消し伴奏のみの音楽に作りかえMD録音 本番用MD作り ↓ 長野舞台との打ち合わせ・ピンマイクの確認
〃 1 2 月	↓ 音響操作の最終確認 楽譜作り
H 2 4 年 3 月	C D 完成

作曲No.一覧

表 9

No.	曲名	No.	曲名	No.	曲名
1	開演BGM	13	異空間へBGM	25	宮殿へBGM①
2	はじまりのBGM	14	カマ〜ず♥捜索隊登場BGM→アタイたちカマ〜ず♥捜索隊	26	家族の絆①
3	いざ戦へBGM	15	カマ〜ず♥捜索隊 v s エスパ―BGM	27	宮殿へBGM②
4	平和な風の国BGM	16	脱出BGM→ 穏やかな草原	28	祝宴BGM
5	夜襲	17	本当なのか？	29	決意
6	エスパ―登場BGM	18	再会	30	新しい国→ 新しい国BGM
7	僕たちはエスパ―	19	もうひとつの真実	31	家族の絆②
8	火の国 v s 風の国の 戦いBGM	20	なぜ離れ離れに？	32	エスパ―星へBGM
9	とどめのBGM	21	どうにかしたいBGM	33	終演BGM
10	2人は兄弟！？	22	捜索隊再び登場BGM	34	エンディング
11	いつか伝わる想い	23	伝えたいこと	35	家族の絆③
12	心を読むBGM→ 眠くなるBGM	24	両親仲直り		

⑧＜演技・ダンス係 2名＞

表 1 0

年	月	活動内容
H 2 3 年	3 月	ダンスの研究
〃	4 月	音響からおりた曲に振付を考える
〃	5 月	中間発表 未完成ダンス作り ダンス修正
〃	7 月	
〃	8 月	ダンスレッスン計画 エスパー・カマ〜ず♥捜索隊ダンスおろし
〃	9 月	翔雲・羽楽・父・母・付き人のダンス考案
〃	1 0 月	家来戦いダンス練り直し
〃	1 1 月	パート紹介ダンス確認・ダンス指導
〃	1 2 月	ダンス確認・ダンス指導 まとめ

ダンス振付No.一覧

表 1 1

No.	ダンス名	No.	ダンス名
1	夜襲	9	なぜ離れ離れに？
2	僕たちはエスパー	1 0	伝えたいこと
3	火の国 v s 風の国戦いB GM	1 1	両親仲直り
4	2人は兄弟！？	1 2	家族の絆①
5	アタイたちカマ〜ず♥捜 索隊	1 3	決意
6	本当なのか？	1 4	新しい国
7	再会	1 5	家族の絆②
8	もうひとつの真実	1 6	エンディング

⑨＜基礎技術係 2名＞

表12

年 月	活動内容	
H22年 12月	朝練習計画案作成 動ける体・踊れる体・歌える体づくりの研究	
H23年 1月	朝練習開始 腹式呼吸、発声、足あげ、腹筋、背筋、ストレッチの考案・進行	
〃 2月	春休み個人練習カード作り	
〃 3月	春休み個人カード配布・呼びかけ	
〃 4月	体力テスト実施	
〃 5月	朝練習強化	
〃 7月	ダンスレッスン・進行 夏季休暇中体力強化カード作り	
〃 8月	夏季休暇練習計画・実施	
〃 9月	立ち方・口の開け方指導	
〃 10月	練習内容強化	
〃 11月	歌唱力強化練習実施	
〃 12月	発表前日リハーサル前ウォームアップ進行 発表当日本番前ウォームアップ進行 まとめ	↓

⑩＜大道具係 6名＞

表 1 3

年 月	活動内容
H 2 2 年 1 2 月	背景パネル原案考案
H 2 3 年 1 月	背景パネル原案修正 長野舞台との打ち合わせ
〃 2 月	倉庫整理 原案の修正
〃 3 月	「草原」板パネル制作 布・木材発注 長野舞台との打ち合わせ
〃 4 月	「城壁」板パネル制作
〃 5 月	「城壁」板パネル 7 間中 3 間完成
〃 7 月	「宮殿」布パネル制作 布縫い合わせ
〃 8 月	「城壁」板パネル完成 「宮殿」布パネル・板パネル制作 「城壁」板パネル 色塗り
〃 9 月	「宮殿」布パネル 下書き 「草原」板パネル 色塗り完成
〃 1 0 月	「城壁」やぐら 完成 「宮殿」布パネル 色塗り
〃 1 1 月	「宮殿」板パネル・布パネル 色塗り 完成
〃 1 2 月	「異空間」吊るし布制作 完成 発表前々日 荷作り・トラックへ積み込み作業 舞台装置の位置決め、最終チェック 発表後 解体作業・倉庫整理

大道具一覧

表 1 4

場面	パネル等
第 2 場面 風の国城門	城壁（横 18m 高 1・8m） 火の見櫓（横 0・9m 高 2m）
第 3 場面 異空間	吊るし布（横 18m 縦 1・5m）
第 4 場面 草原	草原パネル（幅 18m 高 1・8m）
第 5 場面 宮殿	宮殿布パネル（横 18m 高 8m） 宮殿板パネル（横 5・4m 高 6m）

⑪＜小道具係 5名＞

表15

年 月	活動内容
H23年 2月	イメージ原案作成・修正
〃 3月	中国の剣の研究・剣の試作
〃 4月	家来「剣」の制作
〃 5月	↓
〃 8月	「剣」の色つけ 翔雲・羽楽の「剣」「さや」制作
〃 9月	↓
〃 10月	父・付き人「剣」制作 「墓」作り 「剣」「さや」のニス塗り 「札束」「鏡」制作
〃 11月	「剣」「さや」の修正 「墓」作り 「花束」制作 「ペロペロキャンディー」制作 「ポシエット」制作
〃 12月	発表前日 最終チェック・修正・補強 発表後 解体作業 まとめ

小道具一覧表 () 内は数

表16

No.	道具名	No.	道具名
1	火の国家来剣(9)	7	花
2	風の国家来剣(8)	8	墓石
3	翔雲剣	9	札束
4	羽楽剣	10	鏡
5	父剣	11	ペロペロキャンディ
6	父付き人剣(2)	12	ポシエット

⑫＜照明係 2名＞

表 17

年	月	活動内容
H 2 3 年	4 月	ミュージカルの研究 ミュージカル照明の研究 脚本の把握
〃	5 月	
〃	6 月	
〃	7 月	
〃	8 月	劇団四季ミュージカル「マンマミーア」観賞研究
〃	9 月	
〃	1 0 月	照明原案の制作
〃	1 1 月	照明イメージ画修正 ↓ 舞台会社（照明）との打ち合わせ 影絵用 アルミ制作
〃	1 2 月	発表前日リハーサル照明確認・打ち合わせ・修正・最終調整 まとめ

⑬＜衣装・メイク係 2名＞

表18

年	月	活動内容
H23年	3月	設定時代の衣服研究 布・かつら・メイク等の研究 型紙研究 衣装、ヘアーの原案作成・修正
〃	4月	衣装原案完成
〃	5月	採寸・型紙作り 布等の買い出し・裁断 試作品作り
〃	6月	見本完成 縫製作業の分担決め・布配布・縫い方説明
〃	7月	布配布・縫い方説明
〃	8月	衣装縫製
〃	9月	〃 ヘアー原案練り直し
〃	10月	完成衣装調整
〃	11月	校内発表前衣装完成 試しメイク指導・修正
〃	12月	メイク道具の確認・裁縫道具・衣装の確認 ヘアー・メイクの確認 まとめ

衣装一覧 () 内は枚数

表 1 9

1	エスパー ズボン (3)	1 8	父付き人上着 (2)
2	エスパー スカート (3)	1 9	父付き人袴 (2)
3	エスパー ブーツ (6)	2 0	母着物 上
4	エスパー スカーフ (6)	2 1	母着物 下
5	エスパー 手袋 (6)	2 2	母付き人着物 上 (2)
6	翔雲上着	2 3	母付き人袴 (2)
7	翔雲ズボン	2 4	火の国家来上着 (9)
8	翔雲胸当て	2 5	火の国家来ズボン (9)
9	翔雲マント	2 6	火の国家来 胸当て (9)
1 0	翔雲はちまき	2 7	火の国家来 はちまき (9)
1 1	羽楽上着	2 8	風の国家来 上着 (8)
1 2	羽楽ズボン	2 9	風の国家来 ズボン (8)
1 3	羽楽胸当て	3 0	風の国家来 胸当て (8)
1 4	羽楽マント	3 1	風の国家来 はちまき (8)
1 5	羽楽はちまき	3 2	カマ〜ず♥搜索隊 スカート (6)
1 6	父上着	3 3	カマ〜ず♥搜索隊 ソックス (6)
1 7	父袴		

6 ミュージカル配役・パートについて

全員が担当の係を持ち、全員が舞台に上がるよう計画されている。つまり、全員が係と役者を経験するということである。ここでは配役（表21）とパート（表22）について記す。配役の決め方は、クラス全員の投票による。

「エスパー」役名一覧

表20

No.	役名	No.	役名
1	エスパー パイロ	20	風の国 家来3
2	エスパー プレコ	21	風の国 家来4
3	エスパー クレヤ	22	風の国 家来5
4	エスパー サイコ	23	風の国 家来6
5	エスパー テレパ	24	風の国 家来7
6	エスパー タイム	25	風の国 家来8
7	火の国 翔雲	26	父（火の国）
8	火の国 家来1	27	父付き人1
9	火の国 家来2	28	父付き人2
10	火の国 家来3	29	母（風の国）
11	火の国 家来4	30	母付き人1
12	火の国 家来5	31	母付き人2
13	火の国 家来6	32	カマ〜ず♥搜索隊1
14	火の国 家来7	33	カマ〜ず♥搜索隊2
15	火の国 家来8	34	カマ〜ず♥搜索隊3
16	火の国 家来9	35	カマ〜ず♥搜索隊4
17	風の国 翔雲	36	カマ〜ず♥搜索隊5
18	風の国 家来1	37	カマ〜ず♥搜索隊6
19	風の国 家来2		

パート名

表21

パート名	役名
エスパー	エスパー 6名
火の国	翔雲・家来 10名
風の国	羽楽・家来 9名
両親付き人	父・母・付き人 6名
カマ〜ず♥搜索隊	カマ〜ず♥搜索隊 6名



「エスパー」



「翔雲・羽楽」



「母・父」



「火の国・家来」



「風の国・家来」



「父付き人・母付き人」



「カマ〜ず♥搜索隊」

7 創作ミュージカル「エスパー」 場面とあらすじ

ここでは、創作ミュージカル「エスパー」のあらすじを、場面をおって紹介する。

第1場面 ～幕前～

時は西暦208年。中国では各地で争いが続き、まさに戦乱の世。気性が荒く戦いに命を掛ける翔雲率いる「火の国」と、心優しく戦を嫌う羽楽率いる「風の国」の話。

「風の国」に攻め込むことを決意する翔雲に、翔雲の父が「風の国を攻めるな」と説得するが、父の言葉を制して出陣する翔雲。



第2場面 ～風の国城門～



風の国城門では、平和な時が流れていたが、突然爆発音が鳴り響く。ついに火の国が攻めてきた。羽楽は、風の国を守るため火の国に立ち向かう。しかし、戦が始まろうとした瞬間、エスパー星から来たエスパー、「パイロ」「プレコ」「タイム」「サイコ」「クレヤ」「テレパ」が現れた。エスパーたちはまだ子どもで、それぞれ家族に不満を持ち、家出をして地球にやってきたのであった。



エスパーたちの存在に驚きながらも、気を取り直して火の国と風の国の戦いが再開された。一進一退の攻防を続ける中、ついに翔雲が羽楽に斬かかる。・・・とその瞬間、翔雲を追ってきた父が、羽楽をかばい負傷することになる。



なぜ敵国をかばうのかと怒る翔雲に、父は「羽楽はお前の弟なのだ」と話す。翔雲、羽楽は思いもよらぬ告白に動揺し、その場から立ち去る。父はもうひとつ話したいことがあったが話せずにいる。

第3場面 ～異空間～

一部始終を見ていたエスパーたち。テレパは、テレパシー能力で父の心を読み取っていた。父が話したかったこと、それは、翔雲と羽楽に妹がいたことだった。その妹が今どこにいるのか・・・それを話そうとしたテレパは突然眠くなり、眠ってしまう。そこには、「カマ〜ず♥搜索隊」の姿があった。



カマ〜ず♥搜索隊は、エスパー星の腕利き搜索隊。家出をして搜索願が出されたエスパーの子どもたちをエスパー星に連れ戻すためにやってきたのだ。その存在に気づかないエスパーの子どもたちは次々に搜索隊の超能力で眠りについてしまう。目を覚ました子どもたちは、搜索隊が作った異空間の中にいることに気づく。





ちょっぴりおかしいキャラクターの捜索隊が気を抜いた瞬間に、やっとの思いで異空間から逃げ出した子どもたち。辿りついた場所は・・・。

第4場面 ～草原～

エスパーの子どもたちが辿りついたのは、美しい草原。火の国と風の国の国境となっている草原であった。そこには互いに兄弟と知らされたことを信じることができず悩む翔雲と羽楽の姿があった。エスパーたちは、隠れて様子をうかがう。

そこに突然、羽楽の母が付き人と共に現れる。羽楽と共にいるのが翔雲と知り、驚く母。翔雲は「あなたは、私の母上なのか」と問う。そこで母は涙ながらに、何もかも打ち明けた。



翔雲の父、羽楽の母、翔雲、羽楽は家族であった。そして翔雲と羽楽には妹がいた。しかし妹は生まれて間もなく重い病にかかる。娘の病を知りながら、戦に夢中になる父。看病する母。二人の気持ちがすれ違っていった。娘が亡くなる前に帰ってきてほしいと知らせを出したが、父は戦から戻らず、娘は還らぬ人となった。母は家族よりも戦をとった父が許せず、父と別れ、長男である翔雲を置き、まだ幼かった羽楽だけを連れて、母の生まれ故郷である風の国に帰ったのだ。そして、今日は、ちょうどその娘の命日で、草原に造った小さな墓に花を手向けに来たことを明かす。

その時、エスパーの子どもの「タイム」が得意の超能力で時間を止めた。エスパーたちには見えていた。父が今までのことを後悔していること、そして娘の命日には必ず墓参りにきていたことを。

この父の姿を皆に見てもらう方法はないかと考える。そんな時、カマ〜ず♥捜索隊が現われ、ひょんなことから子どものエスパーに、父の映像を映し出す超能力を教えてしまう。マヌケな捜索隊は、やさしいとおだてられ、子どもたちを捕まえることも忘れて有頂天にその場を立ち去る。

「タイム」は、止めていた時間を動かした。エスパーたちは翔雲たちの前に姿を現し、力を合わせて墓参りをする父の姿を空中に映し出した。





戦ばかりしていた人が、娘の墓参りをしていたなんて・・・と驚く母。父の本当の心を知った。そこで、物を自由に動かすことができる「サイコ」が、出番とばかりに父の身体を念力で引き寄せた。

再会を果たす4人の家族。父は家族より戦を選んだことを詫び、母は父ばかりを責めていたことを悔いた。「もう一度家族みんなで暮らしませんか」という翔雲の一言で、離れ離れだった家族の絆が、再び強く結ばれた。



第5場面 ～火の国宮殿～

火の国と風の国は、一つになり新たに「蘭の国」と名付けられた。



家出をしてきたエスパーたちは、翔雲たちを見て家族の大切さに気付く。ロウるさかったおばあちゃん、妹ばかり可愛がるお母さん、門限が厳しい家・・・でも、家族って温かい。家族に会いたくなったエスパーたちは、カマ〜ず♥捜索隊と共にエスパー星に帰ることを決める。



蘭の国の人々は空を見上げ、エスパーたちを見送った。エスパーたちが家族と再会した声が聞こえる。・・・「ただいまー！」



8 創作ミュージカル公演後のアンケート実施と結果

当日午前の部は、主に附属の高校生を対象とし 332 人、午後の部は、一般の方を対象とし 644 人の来場があり、パンフレットを配布できなかった幼児の数を含めると、合わせて約 1000 人以上の観覧があった。

パンフレットにアンケート用紙を挟み、感想等を記入してもらい、公演終了後に会場出口にて回収した。

ここでは、実際のアンケート用紙（午前の部用 資料 1、午後の部用 資料 2：宣伝係作成）と、その結果について記す。

① 午前の部（附属高校生対象）アンケート結果 （資料1 参照）

アンケート回答者数：270 人

1 本日の創作ミュージカル「エスパー」をご覧になった感想はいかがですか

- ①大変楽しかった 134 ②楽しかった 115 ③まあまあ楽しかった 21
④楽しくなかった 0

2 本日の創作ミュージカル「エスパー」の中でよかったと思うところはどこですか（複数回答可）

- ①演出 130 ②脚本 105 ③作詞 74 ④作曲 72 ⑤歌唱 109
⑥ダンス 99 ⑦演技 136 ⑧音響 69 ⑨照明 174 ⑩衣装 133
⑪メイク 85 ⑫舞台装置 59 ⑬小道具 56 ⑭その他 7（全部よかった）

多数の意見を抜粋

○演出・脚本に関する意見

- ・話の流れがわかりやすく、すじが通っていておもしろかった
- ・家族のことを考えたくなる良い話だった
- ・時々笑いがあってよかった

○作詞・作曲・音響に関する意見

- ・家族の絆という曲、大変すてきだった
- ・話に合った曲だった

○歌唱に関する意見

- ・歌の上手な人が沢山いた
- ・一人ひとりの声がよく出ていた

○ダンスに関する意見

- ・ダンスが効果的だった

○演技に関する意見

- ・演技力がすごい
- ・表情が豊か
- ・楽しそうにイキイキしていた

○照明に関する意見

- ・照明が工夫されていてきれいだった

○衣装・メイクに関する意見

- ・役にぴったりの衣装で中国のイメージがしやすかった
- ・衣装とメイクの工夫がよかった

○舞台装置に関する意見

- ・雰囲気がとても出ていた
- ・城の絵がきれいだった
- ・背景（宮殿）がダイナミックでよかった
- ・凝っていた

○その他の意見

- ・全体的にまとまりがあってよかった
- ・37人しかいないのにすごくよかった
- ・もう一度見たい
- ・心が温まった
- ・涙が出た
- ・個性が光っていた

3 改善したほうがよいと思うところはどこですか

- ①演出 6 ②脚本 13 ③作詞 4 ④作曲 4 ⑤歌唱 26 ⑥ダンス 23
⑦演技 14 ⑧音響 13 ⑨照明 1 ⑩衣装 8 ⑪メイク 9 ⑫舞台装置 1
⑬小道具 11 ⑭その他 1（会場の温度）

多数の意見を抜粋

- ・ダンスがそろっていなかった
- ・歌の途中で言葉があいまいなところがあった
- ・もう少し歌を上手にしてほしい
- ・刀をもっと本物に近いものにしたいほうがよい
- ・台詞が棒読みになるところがあり残念

4 印象に残っている点、その他感想などございましたらご記入ください

多数の意見を抜粋

- ・お墓参りの場面が感動した
- ・プロみたいだった
- ・カマーズ捜索隊のキャラクター、ダンス、動きがよかった 沢山笑った
- ・エスパーがかわいくて良かった 一人ひとりの能力がおもしろかった
- ・最後に家族が一つになったところがよかった
- ・ストーリーが感動した
- ・翔雲の演技に感動した
- ・家族の絆をあらためて感じた

②午後の部（一般客対象）アンケート結果 （資料2参照）

アンケート回答者数：314

- 1 本日の創作ミュージカル「エスパー」をご覧になった感想はいかがでしたか
- ①大変楽しかった 228 ②楽しかった 62 ③まあまあ楽しかった 24
④楽しくなかった 0 ⑤その他 0
- 2 本日の創作ミュージカル「エスパー」を何でお知りになりましたか
- ①幼稚園・保育園・学校 45 ②学生・職員から 121 ③知人・友人から 64
④マスコミ（長野市民新聞・信濃毎日新聞・週刊長野） 30
⑤ちらし・ポスターで 20 ⑥昨年またはそれ以前の創作ミュージカルを見て 28
⑦その他 6
- 3 本日の創作ミュージカル「エスパー」の中でよかったと思うところはどこですか
（複数回答可）
- ①演出 256 ②脚本 185 ③作詞 114 ④作曲 117 ⑤歌唱 203
⑥ダンス 223 ⑦演技 189 ⑧音響 214 ⑨照明 249 ⑩衣装 205
⑪メイク 196 ⑫舞台装置 167 ⑬小道具 138 ⑭その他 68（全部）

多数の意見を抜粋

○演出・脚本に関する意見

- ・話の内容がわかりやすく、テーマがはっきりしていた
- ・小さな子どもたちが見ても楽しいものができていたと思う
- ・何を伝えたいのか良くわかった
- ・脚本、ストーリーがしっかりしていて、深刻な場面の中にも明るいエスパーたちがっていた
- ・笑いあり涙ありのすてきなお話で改めて家族について考えさせられた

○作詞・作曲・音響に関する意見

- ・音響がとてもよかった

○歌唱に関する意見

- ・歌がとても上手だった
- ・練習の成果が光る歌唱力だった

○ダンスに関する意見

- ・ダンスが音響に合っていて上手だった
- ・ダンスのクオリティーが高かった

○演技に関する意見

- ・言葉がはっきりしていて力強く感じられた
- ・本気で演じている姿に感激した
- ・男役が宝塚のようだった

○照明に関する意見

- ・照明がきれいだった

○メイク・衣装に関する意見

- ・メイクと衣装が全体的によかった
- ・エスパーの衣装がかわいかった

○舞台装置に関する意見

- ・宮殿が本物みたいだった
- ・スムーズな舞台転換だった
- ・大道具が立派だった

○小道具に関する意見

- ・細かいところまですごかった

○その他

- ・完成度の高い素晴らしいミュージカルだった
- ・一人ばかりが目立つのではなく、みんなが輝けていたのでよかった

など

4 改善したほうが良いと思うところはどこですか

- ①演出 17 ②脚本 28 ③作詞 13 ④作曲 11 ⑤歌唱 42 ⑥ダンス 34
⑦演技 33 ⑧音響 7 ⑨照明 7 ⑩衣装 9 ⑪メイク 6 ⑫舞台装置 14
⑬小道具 13 ⑭その他 5 (観客の誘導など)

○多数の意見を抜粋

- ・曲が寂しかった もっとハモってもよかった
- ・劇中の曲がもっとあった方が良かった
- ・歌詞がとんでしまってアレ?と思うところが何ヵ所もあった
- ・展開が途中ゆっくりで単調だった
- ・幼児には長すぎる
- ・内容が難しかった
- ・声の大きさ

5 印象に残っている点、その他の感想などございましたらご記入ください

○意見を抜粋

- ・いいお話で泣けた 今年度にぴったりだった
- ・家族の愛の大切さに気づけた
- ・一人ひとりが楽しく元気に演じているのが伝わった
- ・園に来てくれた実習生が頑張っている姿を見ることができてよかった
- ・学生さんたちの一生懸命さに感動した
- ・全て手作りとは驚きだ

など

9 発表までのエピソード ～指導者から見た学生の姿～

下平がこの卒業共同研究の指導を担当したのは、この「エスパー」で2作品目になった。

脚本の0（ゼロ）版ができあがったのは例年と同じ時期だったが、作曲作業がなかなか進まず、5月の中間発表会は、「演技を最後まで通す」という目標は達成できたものの、曲がほとんどない状態であった。これが創作ミュージカルに対して不安を抱く学生たちが増える結果となった。

曲がないためダンスも踊ることができず、学生たちは、ミュージカルの楽しさや、おもしろさを感じられずにいたと思う。ミュージカルなのにもかかわらず、音楽がないということはかなりの致命傷となり、歌やダンスの重要さを改めて感じることもあった。また、脚本自体にも問題があり、話の内容に対する共感や理解が少ないことも否めなかった。こうして「曲」と「脚本」の2つの問題を抱えたまま、中間発表を最後に、学生たちは教育実習や保育実習のためミュージカルから少し離れる期間に入った。

悶々とした日々を送り、創作活動を再開できたのは全ての実習が終わる8月になった。そしてこの頃、ミュージカルを演じる中で一番大切なテーマを明確にすることを考え、脚本の内容について、大きく3つの点で大幅修正を試みることになった。

修正点の1つ目としては、もともとは「先輩エスパー」という、おとなしく模範的な役を「カマ〜ず♥搜索隊」という笑いを誘うキャラクターに変え、ストーリー自体に楽しい笑いの素材を取り入れること。修正点の2つ目は、エスパーたちのキャラクター設定を違和感のないようにすること。そして3つ目は、翔雲と羽楽の家族の歴史を、よりドラマチックにすること。この3つを大きく変えたところ、脚本に深みが出て、テーマがぼやけることなくはっきりとしてきた。

夏の合宿前に新しい脚本が完成し、また1からの練習となった。曲は相変わらずほとんどない状態であったが、ストーリーがおもしろくなったことから学生たちの創作意欲が甦ったように感じた。曲がないのなら台詞をしっかりと覚えて演技を練習しようという動きになった。

それでも常に問題は山積みだった。おとなしい役ということで選出された「先輩エスパー」役の学生たちが、そのキャラクターとはかけ離れた「カマ〜ず♥搜索隊」という役になったことで「こんな恥ずかしい役はやりたくない」「できない」と訴え、せつかくの笑いを誘う役が、役になりきれないことで全く笑いをとることができない期間が続く。

また、ダンス係は曲がない中で、手拍子でカウントをとりダンスの練習を進める日々になる。

作曲係は曲作りが進まないことへの苛立ちを次第につのらせていった。作曲係の負担を軽減するために、総務係や他の学生も作曲係の手伝いを名乗り出て分担していたが、作曲係員の苛立ちは増していき、そのうちクラス全体に影響するようになった。練習時

以外も重苦しい雰囲気になり「こんなふうになるなら、ミュージカルなんてやめたい」「なぜミュージカルをやるのか」とほとんどの学生がつぶやくようになる。その他にも、仲間同士のトラブルを抱える学生が続出し、練習に出ない学生がいたり、怪我をする学生が出たりと、思うように活動が進まなくなっていた。

そんな中、一番苦しい思いで仲間全体を支えていたのが総務係の3人だった。どうすれば皆がミュージカルを楽しんでくれるだろうか、どうしたら一人ひとりが頑張る気持ちを取り戻してくれるだろうか、どうしたら作曲係が前向きに活動してくれるだろうか・・・時には明るく皆を盛り上げ、時には個人の相談に対応し、共同研究を進めていった。

様々な努力もあり、発表日が近づいてくると、「頑張らなくては」という前向きな学生が増えてきた。恥ずかしがって演技に集中できなかったカマ〜ず♥搜索隊も、徐々に役を楽しむ様子が見られるようになり、衣装やメイクももっと大胆なものへと自分たちから変えていった。また、「曲がないなら手拍子で!」「伴奏が間に合わないならアカペラで!」歌もダンスも劇の中に入ってきた。少しずつ音楽が増えてくると、学生たちの気持ちが明るくなってくるのがわかった。演技中にBGMが入っただけで、それまでよりも数倍盛り上がり、音楽の力によって感情のこもった演技ができるようになっていった。「この音楽すごくいい!」「いい曲を作ってくれてありがとう」「曲が入ると感動するね」という音響係に対する感謝の言葉がきかれるようになった。

音響係は、他の学生に手伝ってもらいながらも、全曲作曲した。しかし、本番用に完成形の音響をCDに録音するという大仕事が残っていた。全てが学生による手作りの曲であり、演奏もちろん学生が行う。録音中に少しでも失敗すればまた弾き直さなければならなかった。

本番の前日にもこの録音が間に合わず、ホクト文化ホールでのリハーサルは、いくつかの曲がないまま行われた。音響係はリハーサルにはほとんど出ずに、ひたすら音響を作り続けていた。音響係以外の学生は、翌日の本番を控え不安もあっただろうが「大丈夫」「間に合うよ」「間に合わなくてもアカペラと手拍子でいこう」と声を掛け合っていた。指導者として不安はあったが、とにかく一人ひとりが全力で舞台に挑めるよう応援した。実際学生たちの演技は上達していたし、ストーリーもそれぞれの役も楽しく、見ごたえのあるものになっていた。「明日は頑張ろう」と笑顔で伝えた。

本番当日の朝、音響係がほとんど寝ずにCDを作ってきたので発表に間に合った。本番は2回公演で、午前の部が附属高校生対象の公演となり、午後は一般公開だった。今まで一度も音響を全て入れた状態で通したことはなく、この本番の午前の公演が、まさしく初めての通しとなった。

2年生は全員が役をもち舞台に立つため、本番の音響の操作を行うのは、後輩の1年生である。練習時から1年生は2年生の練習に付き合っていたが、CDが当日出来上がるという予想をしなかった事態に緊張していた。曲や効果音を流すタイミングが少しず

ただで、ミュージカルの流れに違和感が生まれてしまう。ましてや先輩の卒業共同研究発表となれば失敗は許されないというプレッシャーの中にいる1年生音響操作係に、2年生は「本当にこんな思いをさせてごめんなさい。失敗しても1年生は悪くないです。よろしくお願いします。」と頭を下げた。それに応えて1年生は「絶対に成功させてみせます。安心してください。先輩たちはミュージカルを頑張ってください。」と先輩を勇気づけた。そしてこの日、見事2回公演を成功させることができた。

宣伝活動が不十分だったため、来客数は少なかったが、ほとんどのお客様にミュージカルを楽しんでいただけたと思う。中には涙を拭うお客様の姿もあった。平成23年は、忘れもしない東日本大震災があった年であり、そんな中でテーマを「家族の絆」にしてミュージカルに取り組んできた。「♪離れ離れになったとしても 愛でつないだ絆が僕らにはある どんなに時が経っても 大切な人の温もりや愛は 変わらない」というテーマ曲の歌詞が、見に来ていただいた方の心に届き、様々な思いを癒すことにつながったのではないだろうか・・・と筆者は思っている。

この共同研究を終えて、音響係の2人は感想文にこんなことを書き残していた。「ミュージカルをやってよかったかどうか、わからない」「もう二度とミュージカルのことを思い出したくない」「本当に辛かった」「他の係だったらよかった」・・・。二人のこの思いを、指導者としてしっかり受け止め、3月に卒業する彼女たちを見送った。

今回の共同研究で、様々な困難があり、学生たちもかなり苦しんだと思う。けれど、全員が舞台に立つことができたのは、すべてのことを乗り越えたからだと思う。苦しい時も、仲間が存在や、表現することの楽しさ、小さい達成感の積み重ねがあったことを忘れてはならない。昨年度のミュージカル報告の中にも記したが、共同研究の良さや意味は、その時はわからない学生も多いだろう。しかし、何年か経った時、この経験がその学生の生きる力につながってくれたらと思う。

10 その後 ～それぞれの思いに触れて～

「エスパー」公演から1年という月日が過ぎ去り、24年度は「竹取神社の神隠し」というミュージカルを発表した。「エスパー」の時に音響操作や会場整備の仕事を手伝っていたあの1年生が、今度は2年生になり、本校の伝統である創作ミュージカルの共同研究を達成したのだ。本番当日に、嬉しい出来事があった。卒業した「エスパー」の音響係の一人からメールが入った。「・・・(中略)・・・正直あの時は、本当にミュージカルが嫌いでしたが、今では、もっといいものが出来たのではないかと悔やんでいます。大変だったこともいつか役に立つと私は思います。(中略)今、習いごとのピアノで作曲の勉強をしています。私にとってきっかけになったと思います。きっと今の2年生も何かを感じられると思います。・・・」と綴ってあった。用事で観に行くことができない代わりにメールで後輩のミュージカルの成功を祈ってくれたのだ。「ミュージカルをやってよかったかわからない」と感想文に書いた彼女が、1年経ってこのようなメ

ールをくれたことで、指導者として心が救われ、また大きなものを学んだ気がした。また、「ミュージカルを思い出すと辛くなるから後輩のミュージカルは観に行かない」と言っていたもう一人の学生は、「竹取神社の神隠し」の会場に来ていた。観た後、彼女は大粒の涙を流し「ミュージカルよかった！やっぱりすごいね！私もやったんだね！」と話していた。

共同研究には、それぞれ一人ひとりに役割がある。どれも大切な仕事であり、責任がある。しかし、研究を進めていくうちに、自分の仕事を役に立たない仕事と思ったり、人の仕事を羨んだり、反対に人の仕事が楽に見えたり、自分ばかりが苦勞をしているように思えたりすることが多々ある。でもそこで、どんな仕事もやらなければならない仕事であるし、その人がいなければ困る・・・ということに気付いて欲しい。集団活動の中でうまくいかなくなると、つい、人を馬鹿にしたり、八つ当たりをしたり、わがままを言ったりということが起きてくるが、他人を敬うこと、自分を認めること、感謝の気持ちを持つこと、互いが意味のある大切な存在なのだとということ、経験をもって感じて欲しい。

1.1 終わりに

ミュージカルの創作活動の中にあるダンスや歌や演劇の表現は、保育の現場を目指す学生たちにとって欠くことのできない技術となる。しかし1年にも亘る創作活動の中には技術以外の力を彼女たちに備えさせてくれる。耐える力、前に進む力、人を思いやる力、自分を信じる力を養い、保育や福祉を目指す者として必要な人間性や資質を学ばせてくれる、それがこの卒業共同研究創作ミュージカルなのだと筆者は思っている。

地域の中には、この本校の取り組みの主旨を理解し応援してくださる方も多く、感謝している。この報告論文の冒頭で記した「共同研究発表のねらい」の中の3つ目にもあるように、これからも、ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）という大きな舞台で質の高いミュージカルを公演することで、本校が地域に根付いた教育機関として、地域の文化的な発展に貢献し、また、子どもの健全な育成に関わっていききたいと切に願っている。

資料 1

創作ミュージカル「エスパー」アンケート 午前の部

今日は、創作ミュージカル「エスパー」にご来場いただき、誠にありがとうございました。

文化学園長野専門学校の保育科では、皆様からのご意見をお伺いし、来年度以降もより良い共同研究を目指して励んでまいりたいと思っております。

つきましては、以下のアンケートにご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

- 1 本日の創作ミュージカル「エスパー」をご覧になった感想はいかがですか。

- ① 大変楽しかった ② 楽しかった ③ まあまあ楽しかった ④ 楽しくなかった
- ⑤ その他（ ）

- 2 本日の創作ミュージカル「エスパー」の中でよかったと思うところはどこですか。【複数回答可】

- ① 演出 ②脚本 ③作詞 ④作曲 ⑤歌唱 ⑥ダンス ⑦演技 ⑧音響 ⑨照明 ⑩衣装
⑪メイク ⑫舞台装置 ⑬小道具 ⑭その他 ()

★よろしければ、具体的な内容をご記入ください。

--

- 3 また、改善したほうが良いと思うところはどこですか。【複数回答可】

- ① 演出 ②脚本 ③作詞 ④作曲 ⑤歌唱 ⑥ダンス ⑦演技 ⑧音響 ⑨照明 ⑩衣装
⑪メイク ⑫舞台装置 ⑬小道具 ⑭その他 ()

★よろしければ、具体的な内容をご記入ください。

--

- 4 印象に残っている点、その他の感想などございましたらご記入ください。

--

ご協力ありがとうございました。

当アンケートは、ロビーにございます回収箱にお入れくださいますよう、お願い申し上げます。

文化学園長野専門学校 保育科 卒業共同研究係

幼児教育現場に役立つ表現活動のための教材紹介

塚田 右子

Original Learning Materials for Self-expression Activities in Nursery and Kindergarten Education

TSUKADA, Yuko

キーワード： 手作り教材 自己紹介 エプロンシアター 保育 創作

はじめに

保育者は、子どもたちや保護者のみならず、地域社会や諸機関の人など、多くの人間と関わりを持つ職業である。そのため、十分なコミュニケーション能力を身につけている必要があることは言うまでもない。本校では、こうした能力を高めるために、授業内や学校生活においてもきめ細やかな指導をおこなうよう心掛けている。

「表現」の授業内においては、子どもたちと保育者とのコミュニケーションを円滑に行う表現活動のための創作教材を提示している。コミュニケーションにおいては、まず、出会いのあいさつ、そして名前を知ってもらう事が大きな意味を持つ。従って、この「出会い」というところに特に注目し、自己紹介をテーマとした教材に焦点をあてている。

「表現」は1年生の科目であり、著者自身学生との初めての出会いの場である。入学した学生も夏にはボランティア実習、11月には幼稚園実習、2月の保育・施設実習があり、実習先でたくさん子どもたちとの出会いがある。幼稚園実習・保育実習では必ず自己紹介があり、学生たちが自分をアピール、表現する場となる。この自己紹介活動をととして、表現活動にとって重要な言葉や歌、動作で表現する力を身につけたり、またイメージをふくらませたりするためのトレーニングの機会にすることが可能であると考えられる。筆者も授業の中で自己紹介をすることにより、学生とのコミュニケーションが深まり、また筆者の自己紹介が学生のアイデアにつながるものなればと願い、1回目の授業から様々な技法を使い、身近にある材料を使って制作をして自身の自己紹介を学生にしている。その中で表現するおもしろさ、つくるおもしろさを感じながら、自分で考える力、イメージを膨らませていくことが育つことをねらいとしている。以下に、その紹介を行うこととする。

実践事例の紹介

【自己紹介エプロンシアター】

材料 市販されているエプロン・フェルト・羊毛 など

♪不思議なポケット♪の替え歌を歌いながら自己紹介をしていく。



♪ポケットのなかにはなーにがはいつているかな？ポケットをたたくとなーにがでてくるかな？♪



「でてきた、でてきた、なにがでてきたかな？」 「これは つ ここへつけます」



名前のパーツが完成したら、また歌を歌いながら、自分の好きなものを出しつける

「ふしぎなポケット」の替え歌で「ポケットのなかにはなーにがはっているかな？ ポケットをたたくなーにがでてくるかな？」とポケットをたたきながら歌い、ポケットの中から名前のパーツ、自分の好きなもののパーツをひとつひとつ出しエプロンシアターを楽しむ。

学生は最初は何をするのだろうと興味深くみており、ポケットから何か出てくるかわくわくしていた。同じ動作を繰り返すので何回か歌っていると「ふしぎなポケット」の替え歌と一緒に口ずさみながら参加していた。

エプロンは市販のものであるが、最初にフェルトでチューリップを作りエプロンに縫いつけておいた。チューリップもポケットになっており、ポケットの中にハンカチ、あやとり、人形など、活動に必要なものを入れておき、導入の一つとして使うこともできると考える。自己紹介用だけでなく、ふしぎなエプロンとしていろいろな活用ができると思う。

【自己紹介手作り絵本】

材料 ケント紙・折り紙・モール

♪たまごたまご♪の手遊びの替え歌で絵本をめくる



♪たーまごたまごが



パチンとわれて ♪



♪なかからわたしがこんにちは
まーかわいいこんにちは♪



♪わたしのおなまえつ～かだゆうこ
み～んなおなまえおぼえてね
なかよくしてね、よろしくね♪



♪みんなとっしょにいーぱいあそぼ
おりがみ、なわとび、みずあそび
たくさんたくさんあそんでね♪



♪わたしのこころはどきどきわくわく
みんなとなかよくなりたいな、
なかよくしてね、よろしくね♪

1枚の用紙に切り込みを入れ、折ると簡単な冊子ができる方法を用いて自己紹介絵本を作成。絵本の中に簡単な仕掛けや折り紙、立体的な要素を取り入れ、また実習の時に子どもたちと一緒に楽しみたいことなども絵本の中に入れ自己PRができるような作品にした。この絵本は「たまごたまご」の手遊び歌を替え歌にし、歌うことでストーリーを持たせた。

【もこもこ絵本】

材料 フェルト・不織布・Pペーパー

簡単なお話をしながら絵本を進めていく



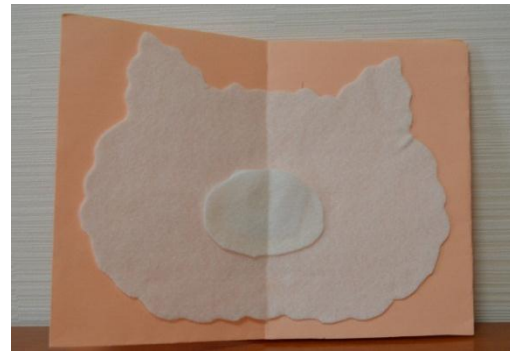
「もこもこ、もこもこくもが
うごいているよ」



「もこもこ、もこもこ、なんのかたち
かな？」



「あっうさぎさん、うさぎさんうさぎさん
こんにちは」



「もこもこ、もこもこ、こんどは
だれかな？」



「あっブタさんだ、ぶたさんこんにちは」



「もこもこ、もこもこ、こんどは
なになかな？」



「あっ、くものなかからひらがながでてきたよ
つかだゆうこ だってだれだろう？」



「みなさんこんにちは わたしの
おなまえです。みなさんよろしくね」

パネルシアターを作成した時に使用した不織布、Pペーパーの素材の良さを生かそうと考え絵本を作成した。パネルシアターの仕掛けと同じように、この絵本の中にもいくつかのポケットを作り、その中にPペーパーでつくったパーツが入っている。

フェルト、不織布の柔らかさ、手に触れた時の感触や肌触りなど幼児のみならず、乳児が肌に触れた時のぬくもり感、やわらかさなど温かさが伝わればと願った。またPペ

ーパーのくつつく面白さ、はがす楽しさもあり、膝の上で抱っこして読みながら、子ども自身がパーツをつける、はがすことで子どもとのコミュニケーションが深めることもできると考える。Pペーパーの絵を変えることでいろいろなお話に変化することができる楽しさもある。

【おおきくおおきくなーれ】

材料 紙コップ・傘袋・毛糸・おりがみ



「ジュースをのんでごくごく
パワーぜんかい！」



「おおきくいきをすって、
おおきくおおきくなーれ」



「こんなにおおきく
なっちゃった」

紙コップの中に傘袋を隠しておき、息を吹き込むことで大きくなっていく。どんどん大きくなっていくことが学生の目にはとても楽しかったようで、インパクトがあったようだ。紙コップ、傘袋という身近な素材だが、傘袋を市販されているビニール袋に変えたりするとまた違ったあそびにもなる。

おわりに

今回は今まで自己紹介用として作成した中からいくつかを紹介した。制作をする際に気をつけていることは、手づくりの良さが伝わるように、また学生が制作をした時に、つくることが大変と思わないような、できるだけ簡単に制作ができ、身近にある材料をつかいながら、制作することが楽しく感じられるように心がけている。自己紹介用として制作をしても、自己紹介だけに使うのではなく、少しあそびを加えることで、つくったものであそぶ楽しさも味わう事ができるよう、あそびが発展していくことも願っている。

学生も「表現」の授業の中で紹介した作品をアレンジして制作し、実習の際、実際に自己紹介活動をし、「子どもたちが喜んでくれた」「面白いといってくれたよ」「なまえを覚えてくれたよ」と報告をしてくれた。今の環境の中では、かわいらしいキャラクターもの、グッズなど身近にたくさんあり、手軽にパペット、指人形などが既成品でも間に合うと思うが、やはり身近にある材料を使ってつくる、つくったもので表現する、子どもとたちと触れ合う、コミュニケーションを深めるということを大切にしていきたいと思う。

文化学園長野専門学校 研究紀要投稿既定

1. 目的

文化学園長野専門学校研究紀要は、本校における研究・教育活動の成果を広く公表することを目的として発行する。

2. 投稿資格

紀要に投稿できる者は、次のとおりとする。

- (1) 本校専任教員および兼任教員
- (2) 本校専任教員との共同研究者（この場合は本校専任教員と連名とする）
- (3) 編集委員会が執筆を依頼した者、あるいは執筆を認めた者

3. 投稿原稿の種類

原則として、次のとおりとし、未公刊のものに限る。

原著論文、総説論文、研究ノート、報告（実践報告・調査報告）、書評、資料紹介など。
上記の他、紀要編集委員会が適当と認めたもの。

4. 提出原稿

原稿の作成は、別に定める「紀要原稿作成要領」に従って執筆する。

5. 原稿の提出先

本校紀要編集委員会

6. 採択

原稿の採択と調整は、紀要編集委員会で行う。

7. 著作権

掲載された論文などの著作権は、原則として文化学園長野専門学校に帰属する。ただし、著者が自分の論文などを利用することは差し支えない。

編集委員会

守 秀子（委員長）

島田 左一郎

竹前 健治

吉澤 富美子

平成 25 年 2 月 28 日発行

文化学園長野専門学校 研究紀要 第 4 号

編集発行 文化学園長野専門学校
〒380-0915 長野市上千田 141
TEL. 026-227-2090
FAX. 026-224-2200

印刷 東方出版社
〒381-0038 長野市東和田 902-4
TEL. 026-244-4327

**BULLETIN
OF
BUNKA GAKUEN NAGANO TECHNICAL COLLEGE**

No.4

CONTENTS

Introduction Methods of Rhythm Dancing for Attenuating Learners' Embarrassment	-----	SHIMADA, Saichiro
A Survey of Color Association of Students in Nursery Education Courses	-----	AMADA, Hirokazu
The Coordination of Vocational Guidance and Career Education: An Introduction to Future Careers	-----	NAKAJIMA, Tomoko
A Memoir of Taisho Democracy in a Farmer Village: Based on Interviews with an Elderly Who Lived through the Meiji-Taisho-Showa Periods	-----	HORIGOME, Hayao
Johann Heinrich Pestalozzi : His Thought and Profile	-----	TAKEMAE, Kenji
“Esper” An Original Musical Creation and Performance by Nursery Training Course Student 2011	-----	SHIMODAIRA, Masae ISHIZAKA, Yumiko KURASHINA, Miharuru
Original Learning Materials for Self-expression Activities in Nursery and Kindergarten Education	-----	TSUKADA, Yuko

2012